

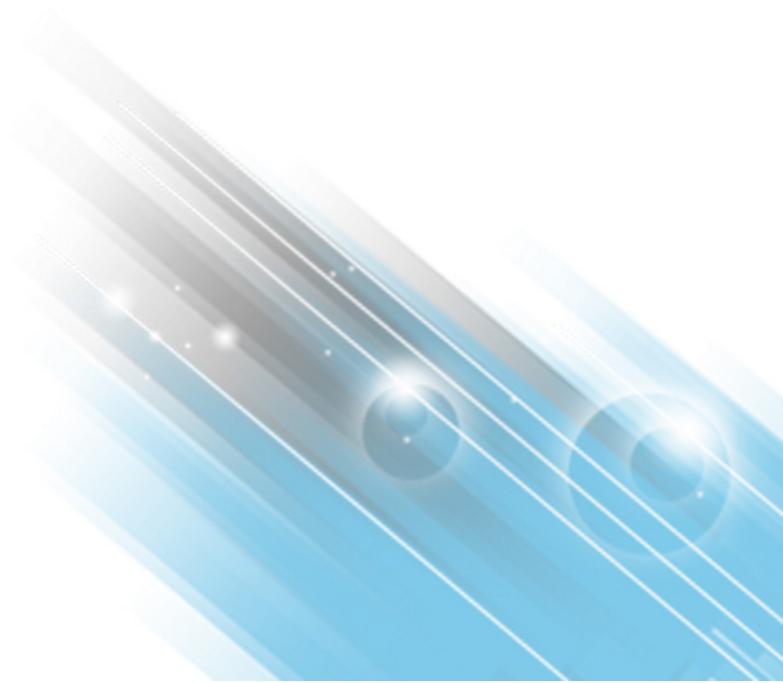


HP ALM Web クライアント

ソフトウェアバージョン: 12.01

ユーザーズ・ガイド

ドキュメントリリース日: 2014 年 6 月
ソフトウェアリリース日: 2014 年 6 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

Intel® は米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows® は、Microsoft Corporationの米国登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Unix® は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

第1章: ALM Web クライアントの概要	7
第2章: ALM Web クライアントの使用	11
ALM Web クライアントの起動	18
必要な情報の表示	19
ビューの定義	19
フィルタリング	20
詳細情報またはサマリ情報の選択	22
カラムの選択	22
ワークスペース	22
共通のアクション	23
共通のアクション・ツールバー	24
キーボード・ショートカット	24
コメントの追加	25
添付の操作	25
トレーサビリティの使用	27
項目の履歴表示	29
エンティティID への[移動]を使用したエンティティの検索	29
データのエクスポート	29
メモ・フィールドのアクション	30
FAQ	31
第3章: 職務権限ごとの要件の作業	33
要件の概要	36
要件定義を始める方法	37
要件の管理	38
要件モジュールの操作	39
要件の定義	43
管理モードでの要件の追加	44
編集モードでの要件の追加	46
要件の編集	49
管理モードの使用	49
編集モードの使用	51
編集モードの詳細	53
要件の監視と管理	55

トレーサビリティ	55
ワークスペースの使用	58
要件の FAQ	59
第4章: 職務権限ごとの不具合の作業	61
不具合の概要	64
不具合の定義	65
不具合の更新	67
不具合へのトレーサビリティ・リンクの使用	68
第5章: ALM Web クライアントのカスタマイズ	73
要件タイプのカスタマイズ設定	74
フィールド属性の設定	75
フィールド属性の設定	75
フィールド属性の復元	76
フォームのデザインと管理	76
フォームの FAQ	81
ビジネス・ルールの使用	82
管理者によるビジネス・ルールのデザイン方法	82
ビジネス・ルールについて	83
ビジネス・ルールのアクティブ化とパフォーマンス	87
ビジネス・ルールの定義	90
アクションの定義	92
条件の定義	97
ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行	112
ビジネス・ルールの FAQ	115
サンプル・ビジネス・ルール	119
標準設定のフォームと値の設定	119
要件クイック追加フォームを使用するためのルールの定義	125
ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義	125
プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義	126
ルール・リストの順序付け	126
優先度を設定するためのルールの定義	127
[レビュー済み]フィールドを設定するためのルールの定義	128
説明を必須にするためのルールの定義	128
[作成者]を読み取り専用にするためのルールの定義	129
優先度に対する変更の処理	129
[優先度承認]フォームを使用するためのルールの定義	131
承認フィールドを必須にする	131
不具合が緊急優先度になった場合の開発者への警告	132

不具合のライフサイクルの遷移	132
ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限	133
ユーザのプロジェクトに基づくステータスの選択肢の制限	135
不具合の修正日の設定	136
第6章: プロジェクトの管理	139
既存のALM デスクトップ・クライアント・プロジェクトをALM Web クライアントで使用するための 設定	140
プロジェクト管理のFAQ	141
ドキュメントのフィードバックを送信	145

第1章: ALM Web クライアントの概要

ALM Web クライアントは、先進的な製品とソリューションの提供に向けてのHPの継続的な取り組みの一環として、アプリケーション・ライフサイクル管理用の代替ユーザ・インタフェースを提供しています。ALM Web クライアントは、便利で使いやすいインタフェースと新しい機能によって作業効率を高め、ユーザ・エクスペリエンスを向上します。

注: 現在、ALM Web クライアントは要件モジュールと不具合モジュールをサポートしています。

ALM Web クライアントの利点

ALM Web クライアントには、次のようなメリットがあります。

純粋な Web クライアント

ALM Web クライアントでは、クライアント・コンポーネントをダウンロードする必要がありません。クライアントをダウンロードする必要がないということには、次のようなメリットがあります。

- 常に最新のクライアント・モジュールで作業できる
- 未処理のファイルが1つも生成されない
- クライアントの操作に管理者権限が不要になる
- Web アプリケーションと同程度に、ALM Web クライアントの起動時間が短くなる

クロス・プラットフォーム、クロス・ブラウザ

ALM Web クライアント・モジュールはブラウザに依存せず、Unix, Linux, Mac など各種オペレーティング・システムで使用できます。サポートされるブラウザとオペレーティング・システムについては、ALM Readme を参照してください。

同時操作

ALM Web クライアントとALM デスクトップ・クライアントを両方同時に開いて作業できます。更新すると、両方のクライアントで変更内容を確認できます。データは同じデータベースに保持され、完全なロック機能によりデータの整合性が確保されます。

その他の機能

ALM Web クライアントでは次に示すような、ALM デスクトップ・クライアントにはない機能を利用できます。

- **編集モード**:ドキュメント中心の表示モードです。1つのドキュメント・ビューで要件を一覧表示でき、説明を簡単に編集できます。このモードは、要件の全体像を把握したいときに便利です。
- **カテゴリ・ビュー**:仮想フォルダに基づく動的な階層構造により、ビューを柔軟に操作できます。新しいカテゴリ・フィールドを選択すると、それに基づいてビューがリアルタイムで更新されます。このビューは柔軟な機能を備えているので、ALM プロジェクト・データの編成に便利です。

このクライアントの対象ユーザ

現在 ALM Web クライアントは要件モジュールと不具合モジュールをサポートしているので、このクライアントは、ALMで要件や不具合の関連データを取得、更新、表示するユーザに適しています。データ分析を主に実行するALMユーザの場合、完全な分析機能がALM Web クライアントで利用可能になるまで、ALM デスクトップ・クライアントを利用することをお勧めします。

ALM Web クライアントで作業するのに適したユーザの役割をまとめます。

<p>ビジネス・アナリスト、機能アーキテクト、プロジェクト・マネージャ、プロダクト・オーナー</p>	<p>ALM Web クライアントのみを使用して、要件の作成、更新、表示を行います。</p> <p>レポートやダッシュボードを使用して要件を分析するユーザ(プロジェクト・マネージャなど)は、包括的な分析ツールを備えたALM デスクトップ・クライアントを使用できます。また、ビジネス・プロセス・モデルのみを使用するユーザは、ALM デスクトップ・クライアントを継続して使用できます。</p>
<p>開発者</p>	<p>開発者はALM Web クライアントを使用して、チームに割り当てられた要件と不具合の表示と更新、新しい要件や不具合の作成を実行できます。</p>
<p>テスト担当者</p>	<p>テスト担当者は、不具合をテストに割り当てる作業はほとんど行いません。したがって、ALM Web クライアントのみを使用して不具合を作成することができます。</p> <p>不具合をテストに割り当てるテスト担当者は、ALM デスクトップ・クライアントを使用します。現在、テスト計画モジュールとテストトラボ・モジュールの両方がサポートされています。</p>

管理者	管理者は、ALM デスクトップ・クライアントとALM Web クライアントの両方を使用して、ALM Web クライアントへのアクセス権限を割り当て、ユーザ・エクスペリエンスをカスタマイズします。
-----	---

注: 上記の役割以外にも、ユーザの役割は存在します。組織内に名称は異なっても類似した職務権限を持つ役職が存在する場合は、ALM Web クライアントの使用をお勧めします。

参照情報

- HP ALM 新機能
-  管理者:「プロジェクトの管理」(139ページ)
-  管理者:「ALM Web クライアントのカスタマイズ」(73ページ)

第2章: ALM Web クライアントの使用

プロジェクトに初めてログインすると、メイン・ウィンドウが開き、ホーム・ページが表示されます。2回目以降は、前のセッションで最後に使用したビューがプロジェクトへのログイン後に開きます。

画面の上にあるバナー(マストヘッド)には、現在のドメインとプロジェクト、ユーザ名が表示されます。マストヘッドは、すべてのALMモジュールとビューで表示されます。

マストヘッドから、次の操作を実行できます。

- ALM Web クライアント・モジュール間の移動
- 別のドメインとプロジェクトへの切り替え
- ユーザ・プロファイルの設定
- ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプへのアクセス
- プロジェクトからのログアウト
- ユーザ設定のカスタマイズ
-  管理者は、ALM Web クライアントをカスタマイズできます。



次のタスクの詳細情報を参照できます。

ALM モジュールの選択

<p>ホーム </p> <p>ホーム</p> <p>要件</p> <p>不具合</p>	<p>モジュールの切り替え</p>
---	-------------------

機能の説明

作業環境に素早く簡単にアクセスできます。

注: サイト管理者によってアクセス権限が割り当てられているモジュールのみが表示されます。

ドメインとプロジェクトの変更

プロジェクト: DOCUMENTATION/Doc_demo ▾ DOCUMENTATION ▸ DEMO ▸ Demo_1 DEFAULT ▸ Demo PC ▸	ドメインとプロジェクトの切り替え
--	------------------

機能の説明

任意のモジュールのメイン・ウィンドウから、作業対象の他のプロジェクトへ簡単に移動できます。

ユーザ・プロファイルの設定

Mark Delta



写真の変更

名前:

電子メール:

電話:

機能の説明

連絡先情報の追加や写真のアップロードなどにより、ユーザ・プロファイルをパーソナライズできます。

注: 写真を変更する場合、新しい写真をプロジェクト・ユーザ全員が表示できるようになるまで最長で 24 時間かかることがあります。

ユーザ設定とカスタマイズ

ユーザ設定

ユーザ設定を定義して、ALM Web クライアント の動作を設定できます。

自動保存

[自動保存]を有効にすると、他のエンティティに移動する際に、保存を指示するプロンプトがダイアログ・ボックスで表示されず、変更内容が自動保存されます。

機能の説明

これは、ALM Web クライアントを使用する際の動作を選択する機能です。

自動保存を有効にするには、[自動保存の適用]チェックボックスを選択して[保存]をクリックします。

注: 変更後に別のエンティティに移動しない状態で ALM Web クライアントからログアウトすると、最後の変更内容は保存されません。ただし、エンティティのロックは解除されるので、他のユーザはエンティティを変更できるようになります。

プリセット値の管理

フィールドのプリセット値を定義し、それらをテンプレートに保存すると、ALM Web クライアントが新しいエンティティを作成するときに使用する値を決定することができます。エンティティに対する複数のプリセット値テンプレートを作成し、特定のテンプレートを標準設定テンプレートとして設定することができます。新しいエンティティを作成するときに、標準設定テンプレートで定義した値が自動的に入力されます。または、1 回だけ使用するために別のテンプレートを選択して読み込むことができます。

機能の説明

複数のフィールドに対する値を1度で設定することができます。これによって、新しいエンティティを作成する際の時間と労力を節約できます。プリセット値テンプレートは次の場合に役立ちます。

- エンティティを作成するときに特定のフィールドに対して同じ値をよく使用する場合。
- それぞれが独自の値セットを有する異なる製品に関する不具合を追加する場合。製品 A の不具合が1つの値セットを有しているのに対し、製品 B の不具合は異なる値セットを有しています。
- それぞれが異なるフィールド・セットを有する数種類の要件を使用しており、要件タイプに応じてフィールドに対して異なる初期値を設定する場合。

例

たとえば、Flight Reservation Desktop Application の Mercury Tours 10.5 リリースに対する要件を作成しているとします。すべての要件に対して、[製品]フィールドには「Mercury Flight Reservation Desktop Application」の値、[ターゲット リリース]フィールドには「Release 10.5」の値を割り当てたいと考えています。さらに、ビジネス要件と機能要件を作成する際に次の値を自動的に設定したいと考えています。

ビジネス要件の場合：

要件タイプ: ビジネス

レビューア: kelly_alm

レビュー済み: レビュー未完了

機能要件の場合：

要件タイプ: 機能

レビューア: james_alm

レビュー済み: レビュー未完了

開発責任者: alex_alm

各要件タイプに対してプリセット値テンプレートを1つ定義できます。これを行うと、次回に要件を追加するときに、[要件の追加]ボタンの隣に表示されているドロップダウン矢



印 **機能** をクリックして、対象の要件に対して読み込むテンプレートを選択することができます。

テンプレートで定義されているフィールド値は自動的に入力されるため、ビジネステンプレートを読み込む場合、次の値が自動的に入力されます。

要件の追加 - ビジネス
✕

添付
プリセット値のロード
プリセット値の定義

<p>名前: <input style="width: 95%;" type="text"/></p> <p>要件タイプ: <input style="width: 95%;" type="text" value="ビジネス"/></p> <p>製品: <input style="width: 95%;" type="text" value="Mercury Flight Reservation Desktop Applicati"/></p> <p>レビュー済み: <input style="width: 95%;" type="text" value="レビュー未完了"/></p> <p>ターゲット サイクル: <input style="width: 95%;" type="text"/></p> <p>作成者: <input style="width: 95%;" type="text" value="Mark Delta (sa)"/></p> <p>説明: <input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/></p>	<p>親要件: <input style="width: 95%;" type="text" value="Flight Reservation Service"/></p> <p>優先度: <input style="width: 95%;" type="text"/></p> <p>ターゲット リリース: <input style="width: 95%;" type="text" value="Release 10.5"/></p> <p>更新日時: <input style="width: 95%;" type="text"/></p> <p>作成日: <input style="width: 95%;" type="text"/></p>
---	--

注: ALM は柔軟にカスタマイズできるため、この例ではそれぞれの組織内で利用できないカスタマイズされたフィールドが使用されている場合があります。

プリセット値テンプレートの管理

注: テンプレートを標準設定として設定する前に、まずプリセット値テンプレートを定義しておく必要があります。これは、新しいエンティティを追加しながら行います。詳細については、「要件の定義」(43ページ) および「不具合の定義」(65ページ) を参照してください。

1. マストヘッドで を選択してから、[ユーザ設定] をクリックします。
2. [プリセット値の管理] を選択して利用可能なテンプレートのリストを表示します。
3. 新規の標準設定テンプレートを設定する場合は、リストからテンプレート名を選択して [標準設定値として設定] をクリックします。テンプレートが選択されていない場合は、システムの標準設定が使用されます。システムの標準設定には、フィールド

に対して事前定義された値はありません。

4. テンプレートを削除するには、テンプレート名の横にある **×** をクリックします。

カスタマイズ

管理者は、ALM Web クライアントで表示される情報を管理できます。

詳細については、次を参照してください。[「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)

エンド・ユーザの手順

管理者と作業をして、必要なデータが表示されるようにしてください。管理者は、次の操作を実行できます。

- 要件タイプ用に新しいアイコンをセットアップします
- エンティティの表示と編集が簡単になるようにフォームをカスタマイズします
- ビジネス・ルールを作成し、ワークフローの操作を簡単にします

管理者の手順

エンド・ユーザと作業をして、エンド・ユーザのニーズに合うように ALM Web クライアントをカスタマイズします。

- フォームの作成により、エンド・ユーザに関係のある情報のみをエンド・ユーザが表示およびアクセスできるようにします
- ビジネス・ルールを使用することにより、各エンティティの「コンテキスト」に合ったデータを入力できるようになります

注：ALM Web クライアントとデスクトップ・クライアントはできる限りシームレスに連携するように設計されています。それらの機能と相互運用性には一定の限界または相違が存在する場合があります。

参照情報

- [「必要な情報の表示」\(19ページ\)](#)
- [「共通のアクション」\(23ページ\)](#)

- 「職務権限ごとの要件の作業」(33ページ)
- 「職務権限ごとの不具合の作業」(61ページ)

ALM Web クライアントの起動

次の手順で起動します。

1.  **管理者** : HP ALM Readme に記載されている前提条件を確認します。
2.  **管理者** : ALM デスクトップ・クライアント で ALM プロジェクトへのアクセス権限を設定します。詳細については、「プロジェクトの管理」(139ページ)を参照してください。
3. ブラウザを開き, ALM の URL を入力します。

`http://<ALM サーバ名/IP アドレス> [<:ポート番号>]/qcbn`

URL が不明な場合は, システム管理者に問い合わせてください。

HP Application Lifecycle Management のオプション・ウィンドウが開きます。



4. **ALM Web クライアント** をクリックします。
5. ドメインとプロジェクトを選択します。

ALM Web クライアントが起動します。マストヘッドから使用するモジュールを選択してください。

ヒント: ALM Web クライアントには、管理者が ALM デスクトップ・クライアントで設定したユーザー・グループのアクセス許可に基づいて、アクセス可能なモジュールのみが表示されます。

参照情報

- [「プロジェクトの管理」\(139ページ\)](#) : ALM デスクトップ・クライアントでの作業
- [「プロジェクトの管理」\(139ページ\)](#) : サイト管理を使用した ALM Web クライアントの有効化

必要な情報の表示

ALM では、情報の表示をさまざまな方法で設定できます。必要に応じて表示項目を設定し、それをワークスペースとして保存すれば、後で再ロードして使用することが可能になります。

必要な項目を表示する方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

 管理者は、エンド・ユーザに表示する項目を指定できます。

- [「プロジェクトの管理」\(139ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)

ビューの定義

任意のモジュールから[ビューの定義]をクリックします。パネルが開いたら、データの表示方法を定義できます。

要件モジュールでは、階層ビュー、子を含む階層ビュー、フラット・ビューの間で切り替えることができます。これらのビューの詳細については、「[要件モジュールの操作 - ビューの定義](#)」を参照してください。不具合には本来、階層構造がないため、フラットにのみ表示されます。

カテゴリ・フィールドの定義

カテゴリとは、フィールドに基づいてデータをグループに分類し、階層構造で表示する機能です。カテゴリを使用することによって、大きなデータ・セット内を容易に移動できるよう

になります。

1. [カテゴリフィールドの追加]をクリックします。
2. ドロップダウン・リストでフィールドを選択します。
3. 必要に応じてフィールドを追加します。カテゴリ・フィールドは4つまで追加できます。

要件モジュール: [階層ビュー  アイコンが表示され、現在のカテゴリには含まれないことを示します。カテゴリの条件を満たしている要件のみを表示し、階層表示しない場合は、[ビューの定義] > [フラットビュー 

ソート・フィールドの設定

指定したフィールドで項目をソートすることで、項目が表示される順序を決定できます。

注：要件モジュールでソートフィールドを設定するには、[フラットビュー]を選択する必要があります。

1. [ソートフィールドの追加]をクリックします。
2. ドロップダウン・リストでフィールドを選択します。項目は、昇順または降順でソートできます。

カテゴリとソート順の定義が完了したら、[適用]をクリックします。

ビューを消去するには、[ビューの定義]をクリックしてから、カテゴリとソート・フィールドを消去します。[適用]をクリックします。

フィルタリング

表示するデータを絞り込むには、フィルタを使用できます。フィルタを追加すると、ALMでは指定された条件を満たす項目が表示されます。

フィルタを適用することによって、重要な情報だけに注目できるので、エンティティの監視や追跡に役立ちます。たとえば、自分に割り当てられた不具合の中で、ステータス・フィールドの値が[未修正]の不具合をすべて表示することができます。自分に割り当てられた不具合に絞り込むことにより、管理が必要な項目に注目できます。

フィルタの追加

1. [フィルタの追加]をクリックします。
2. フィルタを適用するフィールドを選択します。フィルタ・パネルが開き、選択したフィールドで使用できる条件ステートメントと値が表示されます。[名前]フィールドのように、事前定義の値がないフィールドについては値は表示されません。
3. 条件フィールドをクリックし、リストからステートメントを選択します。
4. リストから、1つまたは複数のフィールド値を選択します。リストが表示されない場合には、値を入力します。

必要に応じてフィルタを追加します。

要件モジュール: [階層ビュー 

詳細情報またはサマリ情報の選択

表示する情報を次の中から選択できます。

- エンティティの詳細

コメント、添付、トレーサビリティ、履歴を含む、選択したエンティティに関する詳細情報。

- グリッド内のエンティティ・リストのサマリ情報

エンティティがグリッドに表示されたら、エンティティの ID リンクをクリックして、エンティティの詳細情報の表示に切り替えるか、項目を選択して下部のツールバーにある[詳細]をクリックします。

- 両方の組み合わせ

項目がグリッドに並んでいる場合、[分割表示枠]をクリックすると、表示枠の上半分にグリッドが、下半分に選択した項目の詳細が表示されます。表示するタブを選択するには、プレビュー表示枠の右側にある  をクリックします。詳細が表示されたプレビュー表示枠を削除するには、[完全表示枠]をクリックします。

カラムの選択

グリッドでは、表示するカラムを選択できます。また、カラムをドラッグ・アンド・ドロップすることで、カラムの表示順序を変更できます。

カラムを削除するには、カラム・ヘッダの上にカーソルを置いた状態で  をクリックします。

[すべて選択]、[子](要件モジュール)、[ID]の位置は固定であり、削除できません。

ワークスペース

ワークスペースはカスタマイズされたビューであり、次の1つまたは複数の要素で構成されます。

- [ビューの定義]で使用する設定
- フィルタ

- 選択したカラム

上記の手順でビューを設定したら、ワークスペースとして保存します。保存したワークスペースは、後で必要なときに読み込むことができます。読み込んだワークスペースを削除するには、そのワークスペースをクリアするか、代替りのワークスペースを読み込みます。またワークスペースでは、変更、プロジェクトの全ユーザとの共有に加えて、簡単にアクセスできるようにお気に入りに追加することができます。自分で作成した共有ワークスペースは共有を解除することができ、不要になったワークスペースは削除できます。

ワークスペースは、ビューを作成したモジュールでのみ使用できます。たとえば、要件モジュールの[ワークスペース]メニューには、要件モジュールで作成されたビューのみが含まれます。

管理者がユーザに割り当てたアクセス権限によっては、一部の機能が利用できない場合もあります。

要件モジュール: 標準設定では、ワークスペースは管理モードで読み込まれます。編集モードで作成したワークスペースを表示するには、ワークスペースを読み込んでから編集モードに切り替えます。

参照情報

- [「FAQ」\(31ページ\)](#)
- [「要件モジュールの操作」\(39ページ\)](#)

共通のアクション

ALM Web クライアントには、すべてのモジュールで実行できる操作がいくつかあります。次の機能は、ALM Web クライアントの全モジュールで共通です。

[「共通のアクション・ツールバー」\(24ページ\)](#)

[「キーボード・ショートカット」\(24ページ\)](#)

[「コメントの追加」\(25ページ\)](#)

[「トレーサビリティの使用」\(27ページ\)](#)

[「添付の操作」\(25ページ\)](#)

[「項目の履歴表示」\(29ページ\)](#)

[「エンティティ ID への\[移動\]を使用したエンティティの検索」\(29ページ\)](#)

[「データのエクスポート」\(29ページ\)](#)

[「メモ・フィールド のアクション」\(30ページ\)](#)

共通のアクション・ツールバー

グリッドで1つまたは複数の項目を選択すると、共通のアクション・ツールバーがウィンドウの下に表示されます。このツールバーでは次のアクションを実行できます。

- 項目の詳細を表示または編集
- 1つまたは複数の項目を削除
- 選択した項目の前または後に項目を追加(要件のみ)
- 項目のコピー、切り取り、貼り付け

注:

- ツールバーのボタンは、選択したモジュールによって異なります。
- 複数の項目を選択する場合、一部オプションが無効になることがあります。
- プロジェクト管理者がユーザに割り当てたアクセス許可によっては、一部のオプションを使用できない場合があります。

キーボード・ショートカット

キーボードを使用して、特定のモジュールで次の共通のアクションを実行できます。

キーボード・キー	アクション
Alt+ G	エンティティに移動
ALT+ F5	内部更新
ALT+ N	エンティティを追加
ALT+ F1	ヘルプ・センタ(オンライン・ヘルプ)を開く

キーボード・キー	アクション
Ctrl + 左矢印	フラット・ビューでエンティティの詳細を表示しているときに、前の項目に移動します。*
Ctrl + 右矢印	フラット・ビューでエンティティの詳細を表示しているときに、次の項目に移動します。*
Ctrl + 上矢印	フラット・ビューでエンティティの詳細を表示しているときに、グリッドに切り替わります。*

* フィールド内から、または分割表示枠で詳細を表示しているときは利用できません。

コメントの追加

コメントは、特定のエンティティの問題に関する意見交換に役立つ機能であり、他の ALM ユーザと連携する上で重要な機能です。コメントは、エンティティの[コメント]タブに表示されます。

1. エンティティの詳細で、[コメント]タブをクリックします。テキスト・エディタ・ツールバーにある[コメントの追加]をクリックします。新しいセクションが[コメント]フィールドに追加され、ユーザ名と現在の日付が表示されます。
2. コメントを入力します。テキスト・エディタでは、フォントのタイプやサイズの変更や書式変更が可能です。
3. [保存]をクリックしてエンティティを更新します。

添付の操作

項目に関連するバックグラウンド情報を追加したい場合には、添付機能を使用します。たとえば、バグが発生するシナリオの画面の録画を添付することができます。添付は新規エンティティに追加できます。また、後から追加することもできます。

エンティティの[添付]タブでは、添付の追加、アクセス、管理ができます。[添付]タブはエンティティに固有であり、選択したエンティティに添付されているファイルのみが表示されます。添付の編集と削除では、添付を1つまたは複数選択できます。選択した添付には、青色の枠が表示されます。エンティティの[添付]タブでをクリックして、添付ファイルをダウンロードします。

新規エンティティに添付ファイルを追加する	既存のエンティティに添付ファイルを追加する
<p>1. 次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. [添付]([エンティティの追加]ダイアログ・ボックスの左上隅)をクリックして、アップロードするファイルを選択します。 b. Windows エクスプローラーからファイルをドラッグし、[エンティティの追加]ダイアログ・ボックスにドロップします。 <p>2. ファイル名を変更または説明を追加するには、[エンティティの追加]ダイアログ・ボックスの上部にある黄色のパネル内のファイル名をクリックします。パネル内にファイル名が表示されますが、実際の添付ファイルはエンティティを保存したときのみアップロードされます。</p> <p>をクリックして、パネルから添付ファイルを削除します。</p> <p>3. [追加]をクリックして新規エンティティを保存します。添付ファイルのアップロードが完了すると、添付ファイルに関連付けられているアプリケーションのアイコンとファイルの詳細(名前、サイズ、更新日など)を含む1つのタイルとして[添付]タブに表示されます。</p>	<p>1. 次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. エンティティの詳細で、[添付]タブをクリックします。[添付の追加]をクリックし、アップロードするファイルを選択します。 b. Windows エクスプローラーからファイルをドラッグし、エンティティのタブにドロップします。 c. クリップボードに画像やスクリーンショットをコピーし、[添付]タブに直接貼り付けることができます (Chrome ブラウザのみ)。 <p>2. 添付ファイルのアップロードが完了すると、添付ファイルに関連付けられているアプリケーションのアイコンとファイルの詳細(名前、サイズ、変更日など)を含む1つのタイルとして添付ファイルが表示されます。添付ファイルの名前を変更するには、ファイル名のフィールドを選択して、変更します。</p> <p>3. 変更内容を保存します。複数の添付ファイルを変更している場合は、[保存]をクリックするとすべての添付の変更内容が一度に保存されます。</p>

ヒント: 添付に説明を追加して、他のユーザがファイルの内容とファイルが自分に関係があるかどうかについてわかるようにします。

添付画像

添付画像のサムネイルをクリックすると画像がプレビュー表示されます。画像の拡張子を持つファイルが添付されていて、その画像を表示できない場合は、壊れた画像添付

ファイル  が表示されます。これは、ファイルが破損している場合やファイル・サイズがゼロの場合、または実際には画像ファイルでないにもかかわらず、ファイル名が画像ファイルの拡張子に変更されている場合に発生します。

注: エンティティのメモ・フィールドに挿入された画像も添付ファイルとして追加され、[添付]タブに表示されます。

トレーサビリティの使用

トレーサビリティでは、1 つまたは複数のエンティティ間にリンクが作成されます。これにより、相互の依存関係を追跡して、アプリケーションのライフサイクルをより効果的に管理することができます。[トレーサビリティ]タブでは、エンティティのトレーサビリティ・リンクの追加や既存のリンクの表示を行うことができます。

エンティティの詳細で、[トレーサビリティ]タブを開きます。トレーサビリティのツールバーの右側にあるビュー・セレクタを使用して、サマリ・ビュー  または特定トレーサビリティ・リンク・ビューのいずれかを選択します。利用できる特定ビューは作業しているモジュールによって異なります。

サマリ・ビュー	特定ビュー
あらゆるタイプのトレーサビリティ・リンクが表示されます	特定のタイプのトレーサビリティ・リンクが表示されます
サマリ情報	詳細情報

サマリ・ビュー	特定ビュー
<p>エンティティ一覧ごとに一意の項目が最大 100 件表示されます。項目はこのビューで統合されます。同じエンティティに対して複数のトレーサビリティ・リンクが存在する場合、1つの代表リンクのみが表示されます。</p> <p>たとえば、要件 1 とその子である要件 11、要件 12 が不具合 A にリンクされています。要件 1 の[トレーサビリティ]タブで、[サマリ]ビューと[子を含める]を選択します。要件 1、要件 11、要件 12 はすべて不具合 A にリンクされていますが、不具合 A は 1 回しかリストされません。</p> 	<p>トレースされたすべての項目 (重複した項目を含む) が表示されます。重複した項目は、リンクの性質が異なるため、まったく同じものではありません。</p> <p>たとえば、要件 1 とその子である要件 11、要件 12 が不具合 A にリンクされています。要件 1 の[トレーサビリティ]タブで、[リンクされている不具合]ビューと[子を含める]を選択します。不具合 A がグリッドに 3 度表示されます。ただし、[リンクされたエンティティ ID]フィールド内のデータが異なるため、グリッドの行はまったく同じではありません。</p> 
<p>項目はフィルタリングできません。</p>	<p>エンティティ・データをフィルタリングしたり、カラムの選択を変更して表示内容を選択することもできます。</p> <p>現段階では、リンクされたエンティティタイプ、リンクのコメントなどのリンク自体に関連するフィールドはフィルタリングできません。</p>
<p>このビューでは、トレーサビリティ・リンクは削除できません。</p>	<p>トレーサビリティ・リンクが削除できます。</p>

特定トレーサビリティ・ビューにフィルタを適用した状態で、[サマリ]に切り替えた場合、フィルタ条件に一致する項目のみが表示され、フィルタ・アイコン  が表示されます。このアイコンをクリックすると、フィルタの詳細を確認できます。トレーサビリティの詳細については、「要件の監視と管理」(55ページ)または「不具合へのトレーサビリティ・リンクの使用」(68ページ)を参照してください。

項目の履歴表示

エンティティの詳細の[履歴]タブには、選択した項目の変更履歴が表示されます。紫色のドットの上にカーソルを置くと、詳細な変更日時が表示されます。履歴では、レコードのテキストが一部切り詰められています。テキストの上にカーソルを置くと、完全なテキストがツールヒントで表示されます。

記録の対象となる変更

変更履歴の対象に含まれるすべてのフィールドへの変更(履歴に記録するフィールドは、管理者が指定します)。

履歴で表示される内容

- 変更を行ったユーザ
- 変更の日時
- フィールドの変更前の値と変更後の値

ヒント: 古い変更内容を表示から除外したり、特定のフィールドのみの変更を表示したい場合には、フィルタを使用します。

エンティティ ID への[移動]を使用したエンティティの検索

新しく作成したエンティティには、ALMによって一意のIDが自動的に割り当てられます。エンティティIDを指定して[移動]をクリックすると、項目に直接移動できます。エンティティIDフィールドで▼をクリックすると、エンティティに移動の履歴が表示されます。以前に使用したID番号のリストから項目を選択すると、特定のエンティティに移動できます。

データのエクスポート

[エクスポート]を選択すると、グリッドまたは編集モード(要件モジュール)から、HTML、Word、またはPDF形式にデータをエクスポートできます。グリッドでは、すべてのデータのエクスポートまたは選択した項目のみのエクスポートを選択できます。エクスポート操作では未保存の変更内容は反映されません。最近の変更内容をエクスポート・データに含める場合は、最初に変更内容を保存する必要があります。

メモ・フィールドのアクション

メモ・フィールドは、リッチ・テキストのコンテンツが使用できるエンティティ・フィールドです。
[説明]フィールドはメモ・フィールドの一例です。メモ・フィールドでは次の操作を実行できます。

- メモ・フィールド内のテキストは、書式設定ツールバーを使用して書式設定できます。
- CTRL + V または右クリック・メニューを使用して、画像やテキストをメモ・フィールドに直接貼り付けることができます。
- コンテンツを選択するときには右クリック・メニューのオプションが利用できます。
- スペルの間違っている単語は、ブラウザのスペル・チェッカで強調表示されます。スペルの間違っている単語を選択して Ctrl キーを押しながらマウスの右ボタンをクリックすると、修正候補が表示され、正しい単語を選択できます。

注:

- メモ・フィールドに貼り付けた画像は、添付ファイルとしても追加されます。ALM デスクトップ・クライアントのエンティティ・プレビュー表示枠で画像を含むメモ・フィールドを表示すると、プレースホルダ画像が代わりに表示されます。

Microsoft Internet Explorer: メモ・フィールドでのスペル・チェックは利用できません。

参照情報

- [「必要な情報の表示」\(19ページ\)](#)
- [「要件の編集」\(49ページ\)](#)
- [「不具合の更新」\(67ページ\)](#)

FAQ

ALM Web クライアントの使用についてよくある質問を紹介します。

ヒント: 他にヒントがある場合は、sw-doc@hp.com までお寄せください。

ALM のプロジェクトを ALM Web クライアントでも使用したいのですが、プロジェクトを選択したときに表示されないものがあるのはなぜですか。

バージョン管理プロジェクトは、ALM Web クライアントでは利用できません。

要件モジュールまたは不具合モジュールが表示されません。

各モジュールへのアクセス権限がないユーザは、モジュールを表示できません。

別のプロジェクト・ユーザにエンティティを電子メールで送信できますか。

URL をコピーし、電子メールに貼り付けます。これにより、別の ALM Web クライアント・ユーザがリンクからエンティティにアクセスできるようになります。

コメントと添付ファイルをエンティティに追加できません。

エンティティを変更する権限がない可能性があります。

プロジェクトのデータを印刷する方法を教えてください。

[エクスポート] を選択し、グリッド・ビューまたは編集モード (要件モジュール) から、HTML、Word、または PDF 形式にデータをエクスポートします。その後データを印刷したり、他の形式にデータをコピーまたは貼り付けることができます。

プリセット値の定義をクリックしても、フィールドに値を入力することができません。

新しいエンティティを追加する際には、最初にフィールドに対する値を入力します。[エンティティの追加] ダイアログでフィールドに値を入力した後に、[プリセット値の定義] をクリックして、テンプレートに保存するフィールドを選択します。

[要件の追加] ボタンをクリックしても、テンプレートを読み込むためのドロップダウン矢印が表示されないのはなぜですか。

ドロップダウン矢印は、特定のエンティティに対する独自のプリセット値テンプレートを定義済みの場合にかぎり表示されます。自分が定義したテンプレートを確認するには、[ユーザ設定] > [プリセット値の管理] を選択します。

プリセット値テンプレートでいくつかのフィールドに対する値を定義しました。テンプレートを読み込むと、フィールド値の1つが設定値と違います。この原因を教えてください。

一部のフィールド値は管理者が作成したルールによって決定されることがあります。この

ような場合、定義したプリセット値は上書きされることがあります。

選択した要件のトレーサビリティ・タブで、[\[リンクされている不具合\]](#)ビューに同じ不具合が複数表示されます。サマリ・ビューに切り替えると、その不具合は1回しか表示されません。この理由を教えてください。

[サマリ]ビューでは、トレーサビリティ・リンクが統合されています。つまり、同じエンティティに対して複数のリンクが存在する場合、1つの代表リンクのみが表示されます。これは、ある要件とその子がすべて同じ不具合にリンクされており、[\[子を含める\]](#)を選択したときに起こる場合があります。この統合は特定トレーサビリティ・ビューでは行われません。[\[リンクされている不具合\]](#)ビューの項目は、不具合IDが同じでも、リンクIDフィールドが異なるため、まったく同じではないことがわかるでしょう。詳細については、[「トレーサビリティの使用」](#)を参照してください。

他のユーザと同じブラウザ・ウィンドウで別のユーザとしてALM Webクライアントにログインできないのはなぜですか。いつもALM Webクライアントにログインしていますが、別のユーザとしてログインすることができません。

別のユーザとしてログインすることはできます。ブラウザによっては、別のブラウザ・セッション(同じブラウザ内のタブではなく)を開く方法があります。この方法で、同じALMに接続している別のユーザとして、ALM Webクライアントにログインすることができます。

- **Internet Explorer:** InPrivate ブラウジングを使用します。
- **Chrome:** Incognito モードを使用します。
- **Firefox:** Private ブラウジングを使用します。

同じ問題とソリューションがALM Webクライアント・カスタマイズにも適用されます。

参照情報

- [「ALM Webクライアントの使用」\(11ページ\)](#)
- [「共通のアクション」\(23ページ\)](#)

第3章: 職務権限ごとの要件の作業

ALM の要件 モジュールでは, アプリケーション・ライフサイクル全体を通じて要件を定義, 管理, 追跡できます。ALM Web クライアントでは, 次のタスクで要件の作業を行います。



注: 割り当てられているアクセス許可によっては, 一部のタスクを実行できない場合があります。

要件の作業では, さまざまな職務権限とチームが連携します。ビジネス・アナリストや開発チームに所属するユーザは, ALM を使用して要件の計画, 定義, コラボレーションを行います。

次のページでは, 職務権限を持ったユーザが要件で作業する際のユースケース・シナリオを紹介します。

- ビジネス・アナリスト
- 開発チームのリーダー



ビジネス・アナリスト
 その他の職種
 機能アーキテクト
 プロダクト・マネージャ
 プロダクト・オーナー

ビジネス要件および機能要件の作成、更新、管理の責任者です

定義



ビジネス要件の定義
 編集モードを使用して、ビジネス要件ドキュメントの記述を開始します。明確な方法でビジネス・ニーズを記述します。セクションとサブセクションを作成して、ドキュメントに論理的な流れを追加します。また、図や画像をドキュメントに貼り付けることもできます。

ヒント: フィールドが【タイプ】と【名前】のみになるように、管理者にビジネス・アナリスト・グループからのユーザ用の「要件クイック追加」フォームの設定を依頼します。標準設定値は【タイプ】に対して設定します。これで、追加要件の詳細を記入する必要がないため、ドキュメントの記述に集中することができます。



レビューの依頼
 要件ドキュメントを他の関係者に送付して、レビューを依頼します。ドキュメントの URL をコピーして、それを他の関係者に電子メールで送信して、ALM に表示するか、【編集】モードから Word または PDF 形式にエクスポートすることができます。

次の追加アクションは、要件の定義中に、または編集段階における要件の調整の一環として、レビューと合意を受けた後に実行することができます。



優先順位
 【優先度】フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。

ヒント: ビジネス・プロセスをサポートする値のドロップダウン・リストを持つ【優先度】フィールドを管理者に設定してもらいます。



ステータスの割り当て
 要件を追跡するには、ステータス・フィールドを使用します。通常、新規要件の最初のステータスはドラフトです。

ヒント: ビジネス・プロセスをサポートする値のドロップダウン・リストを持つ【ステータス】フィールドを管理者に設定してもらいます。



リリースおよびサイクルに割り当て
 要件の【ターゲットリリース】フィールドおよび【ターゲットサイクル】フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。

これは1つの例です。ALMは柔軟にカスタマイズできるため、それぞれの組織で使用される業務プロセスや要件フィールドはこのシナリオの内容と異なる場合があります。

編集



要件の詳細
 要件ドキュメントに詳細を追加します。要件を最初に作成したときに省略したフィールドに値を入力します。



コメント
 レビュー時に関係者が追加した質問や他のコメントに対するコメントを追加し、必要に応じて要件を更新します。



サポート・リソースの追加
 多くの場合、要件には、他のアプリケーションで作成されたサポート・ドキュメントがあります。これらのドキュメントを要件に追加して、バックグラウンド情報として利用します。



要件間の関係の管理
 選択した要件と他の要件とのトレーサビリティ・リンクを追加します。トレーサビリティを追加することで、後で一部の要件の変更が必要になった場合でも、その変更の影響を受ける他の要件を容易に見つけることができます。



要件の移動
 要件や開発計画は変更される可能性があるため、場合によっては、予定されているデリバリの内訳と構造に合わせて、要件を再編成する必要があります。要件を移動したり、要件の順序を変更したりできます。



ステータスの更新
 ステータス・フィールドを使用した要件の追跡は継続的に行われます。要件がライフサイクル内で別の段階に移るのに合わせて、ドロップダウン・リストから適切な値を選択してステータスを更新します。ステータス・フィールドで一般的に使用される値は、ドラフト、レビュー済み、スコープ、進行中、実装済み、テスト中、テスト済み、実行済み、キャンセル、スコープ解除です。

監視



要件の追跡
 注意が必要な項目を識別できるように、要件を監視するためのビューとフィルタを定義します。定義したビューはワークスペースとして保存して、後で再利用できます。



たとえば、「緊急」の優先度を使用して、次のリリースのすべての要件のカテゴリ・ビューを定義し、「開く」のステータスを持つ要件のみを表示するフィルタを追加します。これに基づいて、追加リソースの必要性を判断したり、リリースのスコープから項目を除外したりすることができます。特定の要件のIDリンクをクリックすると、その要件の詳細を表示できます。



トレーサビリティの監視
 指定した要件のテスト・カバレッジが存在することを確認し、テストのステータスを表示します。

開発が開始した時点で、特定の要件に関連する不具合の数と重要度を追跡することにより、アプリケーションの品質を監視します。

要件の変更が必要な場合、予定している変更の全体的な影響がわかるように、要件間の相互の依存関係を確認します。



開発チームのリーダー

要件に従ってスケジュールどおりにアプリケーション開発を行う責任者です



定義



要件の分割

ビジネス・アナリストが作成した上位の要件を子要件に分割して、開発チーム向けの小さな扱いやすい成果物にします。組織内に複数の開発チームが存在する場合は、要件を担当するチーム用のフィールドを使用するのも追跡用に役立ちます。各子要件ごとに、開発する機能の説明を記入します。

ヒント: ターゲット・リリースと要件を担当するチームごとにカテゴリ・ビューを定義します。自分のチームのカテゴリ・フォルダの下に要件を追加すると、追加された新規要件が自動的に自分のチームに割り当てられ、[ターゲットリリース] フィールドに [ターゲットリリース] カテゴリ・フォルダと同じ値が割り当てられます。



優先順位

子要件に対するチームの優先度を設定します。
[優先度] フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。

ヒント: ビジネス・プロセスをサポートする値のドロップダウン・リストを持つ [優先度] フィールドを管理者に設定してもらいます。



サイクルに割り当て

要件の [ターゲット サイクル] フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。



開発時間の予測

各要件の開発予想時間 (日数) 用のフィールドは、開発工数の計画や作業負荷の分散に役立ちます。アプリケーション構築の開発時間がリリースまでの日数を超える場合は、優先度の低い項目を取り除く必要があります。



作業負荷の分散

所有者フィールドを使用して、各要件を開発者に割り当てます。ユーザのドロップダウン・リストで所有者を選択します。

ヒント: 要件を開発者に割り当てたときに、開発者が電子メールで通知を受けられるように、管理者にルールを設定を依頼します。



ステータスの割り当て

ステータス・フィールドを使用して要件を追跡します。ステータス・フィールドで一般的に使用される値は、ドラフト、レビュー済み、スコープ、進行中、実装済み、テスト中、テスト済み、実行済み、キャンセル、スコープ解除です。

ヒント: ビジネス・プロセスをサポートする値のドロップダウン・リストを持つステータス・フィールドを管理者に設定してもらいます。管理者は、要件のステータスの変更があった場合には常にユーザに通知するように電子メール・ルールを定義することもできます。



編集



要件への詳細の追加

要件を最初に作成したときに省略したフィールドに値を入力します。



統計の更新

要件を完了するのに必要な残りの日数や投入日数などのフィールドを使用すると、チームの進捗状況を確認できます。開発の進捗に合わせて、チームのメンバーに担当する要件のフィールドを更新させます。



追加情報の添付

ミーティングのメモや電子メールのやり取りなど、要件に関連する情報を添付します。



ステータスの更新

ステータス・フィールドを更新して、要件の進行状況を継続的に追跡します。たとえば、開発者が要件に着手したときに、開発者はステータスを [進行中] に変更します。要件で定義された機能の開発が完了したときに、開発者はステータスを [実装済み] に変更します。このようにして、チームの進捗状況を追跡することができます。また、QA担当者はテストの準備が出来ている機能を把握できます。



監視



要件の追跡

所有者のない要件を確認します。所有者フィールドが空欄のチームの要件を表示するフィルタを追加します。

チームの状況を監視するためのビューとフィルタを定義します。たとえば、所有者とステータスごとにカテゴリ・ビューを定義して、自分のチームが担当する次のリリース・サイクルの要件を表示するフィルタを追加することができます。特定の要件の ID リンクをクリックすると、その要件の詳細*を表示できます。

ヒント: ビューをワークスペースとして保存すると後で再利用できるため、改めて定義する手間が省けます。



要件の完了の妨げとなる要因の把握

*要件の [トレサビリティ] タブで、特定の要件に関連するテスト・カバーレッジと不具合のステータスを確認できます。

これは1つの例です。ALMは柔軟にカスタマイズできるため、それぞれの組織で使用される業務プロセスや要件フィールドはこのシナリオの内容と異なる場合があります。

参照情報

- [「要件の概要」\(36ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントの使用」\(11ページ\)](#)

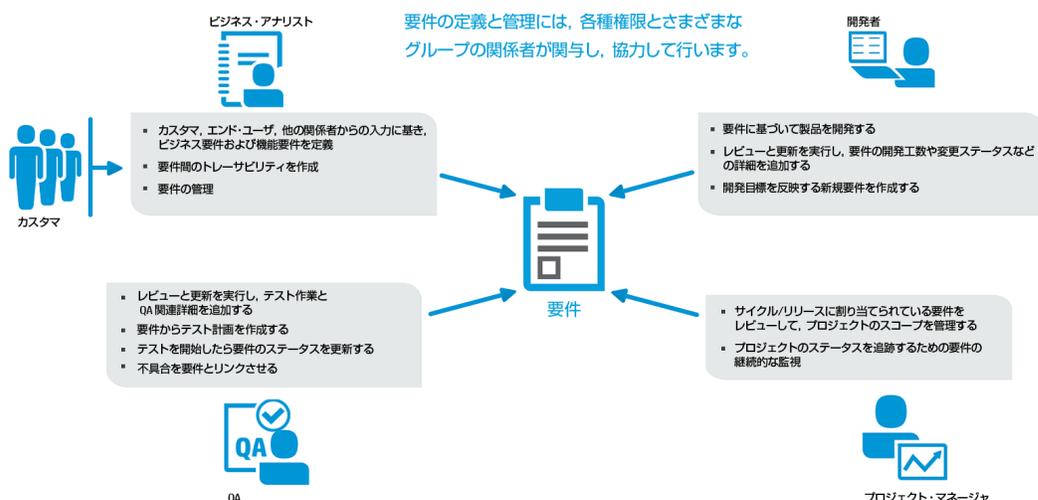
要件の概要

要件とは、アプリケーションの目標を達成するために解決または実現する必要がある項目について、詳細に記述したものです。要件では成果物を明確に示すことができるので、プロジェクトを成功させる上で重要な役割を果たします。要件が正しく定義されていないとITプロジェクトの予算超過、機能不全、スケジュール超過などにつながります。

ビジネス・ニーズとユーザ・ニーズを満たすアプリケーションを開発するには、まず要件を明確に定義する必要があります。プロジェクトの初期段階で要件を明確かつ正確に定義することで、次のような利点を得られます。

- 成果物に関するコンセンサスを得る
- 期待される内容と優先度を明確に設定する
- 無駄を省く

要件の定義と管理には、さまざまな職務権限を持つ関係者が関与し、協力して行います。ビジネス・アナリスト、プロジェクト・マネージャ、開発チームまたはQAチームに所属するユーザは、ALMを使用して要件の計画、定義、連絡、コラボレーションを行います。



注: 上記の図には、ALM デスクトップ・クライアントの機能が必要なものも含まれています。ALM Web クライアントを使用するのに適したユーザについては、「[ALM Web クライアントの概要](#)」(7ページ)を参照してください。

要件定義を始める方法

最初の準備として、機能仕様や技術仕様、マーケティングやビジネスの要件に関するドキュメント、関係者の目標などの情報を収集します。

次のことを確認する必要があります。

- アプリケーションの主な用途
- 現在のプロセスで解決しようとしている課題
- アプリケーションの主な機能
- アプリケーションの重大な制約
- アプリケーション機能における各要素の相対的な重要性
- アプリケーションの重要な機能、またはリスクの高い機能
- ビジネスおよびテストの優先度
- あなたが考える優先度と顧客やエンド・ユーザの優先度との一致

上記の情報に基づいて、要件を定義し、詳細情報を指定していきます。ALMで要件を定義する作業では、すべてのレベルの要件を捕捉するために、あらかじめ用意された標準設定の要件タイプを使用する方法と、管理者が組織のニーズに合わせてカスタマイズした要件タイプを使用する方法があります。次の表は、標準設定の要件タイプをいくつかまとめています。

要件タイプ	用途
ビジネス	アプリケーション全体の目的を示し、ビジネスとエンド・ユーザにアプリケーションが提供する機能をアプリケーション全体として記述します。
機能	ビジネス要件を実現するためのアプリケーション機能を詳細に示します。
グループ	関連する要件をまとめたものです。
テスト	テストで確認が必要なテスト領域とユースケースを指定します。

要件の定義では、バックグラウンド情報を提供する関係書類を添付することが可能です。また、アプリケーションの開発の進捗に合わせて、要件を更新できます。

要件の管理

プロジェクト要件の詳細が決まり、承認を得たら、要件の管理と監視を始めます。要件と他のエンティティ間のリンクを定義することにより、相互の依存関係を監視できます。トレーサビリティでは、要件と他のエンティティのリンクの表示、要件間のリンクの作成、要件と不具合のリンクの作成を行うことができます。アプリケーションの要件の追跡と品質の評価には、フィルタ、ダッシュボード、レポートを使用できます。

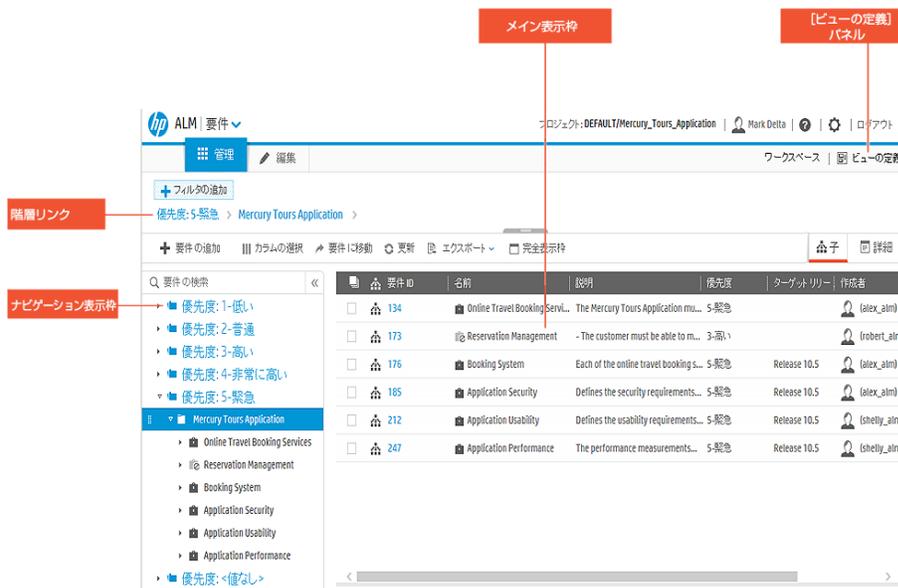
注: 要件を包括的に管理する機能は、現在のところ ALM デスクトップ・クライアントでのみ提供されています。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザース・ガイド』を参照してください。

参照情報

- [「職務権限ごとの要件の作業」\(33ページ\)](#)

要件モジュールの操作

マストヘッドで要件モジュールを選択すると、[要件]ウィンドウが開きます。



ビューの定義

数種類のビューを切り替えることができます。[階層]ビューと[子を含む階層]ビューはいずれも要件の階層構造を保持します。これに対し、[フラット]ビューは要件をすべて同じレベルで表示します。[階層]ビューと[子を含む階層]ビューの違いは、カテゴリまたはフィルタの使用時にのみ明らかになります。

ビューのタイプ	表示内容
	<p>階層</p> <p>このタイプのビューでは、カテゴリまたはフィルタの使用時に要件の階層構造を保持し、一致する要件への親子間のパスを表示します。カテゴリまたはフィルタと一致しない項目は、スコープ外 アイコン付きで表示されます。</p>

ビューのタイプ	表示内容	
	子を含む階層	このビューは上記の階層ビューと似ています。このタイプのビューでは、カテゴリまたはフィルタの使用時に、一致する要件への親子間のパスを表示するだけでなく、全体像を把握しやすいように一致する要件のスコープ外の子も含めて表示します。スコープ外の項目とは、カテゴリまたはフィルタと一致しない項目のことです。これらの項目は○アイコンで示されます。
	フラット	要件は階層なしで表示されます。カテゴリまたはフィルタが適用されている場合は、一致する要件のみが表示されます。

プロジェクトに要件があり、このプロジェクトが新規プロジェクトや要件のない既存プロジェクトでない場合には、カテゴリ・フォルダでビューを定義することができます。カテゴリ・フィールドの追加では、要件表示用の仮想カテゴリ・フォルダを作成します。これにより、定義するフィールドに基づいて要件が表示されます。カテゴリ・フィールドは、4つの階層レベルまで選択できます。

カテゴリ・ビューを作成することによって、プロジェクト・データの操作や動的なビューの作成を簡単に実行できるようになります。カテゴリ・ビューでは、プロジェクト・データが大量にある場合でも、より効率的に情報を分析および管理できるように項目が編成されます。また、ドリルダウンによって、特定の項目の詳細情報を参照できます。ビューの定義の詳細については、「[必要な情報の表示](#)」(19ページ)を参照してください。

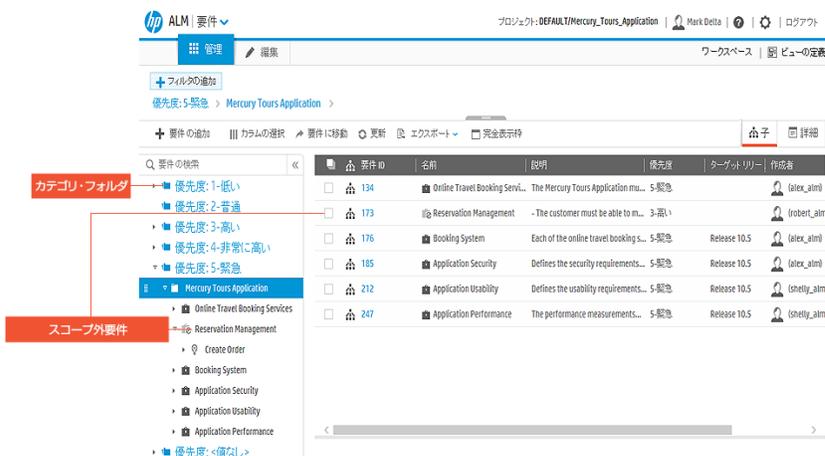
ナビゲーション・ツリーの使用

ナビゲーション表示枠では、要件の階層がツリー構造で表示されます。

- 他の要件と同じ階層、または上下の階層に別の要件を作成することができます。これにより、物理的な階層構造ができます。カテゴリが定義されていないと、実際の物理的階層構造に従って要件のツリーが表示されます。
- カテゴリ・ビューでは、要件のフィールド値に基づいて仮想的なカテゴリ・フォルダを作成します。このフォルダは、実際の要件ツリーの表示に適用されるので、ツリーにはカテゴリ・フォルダと要件が両方表示されます。カテゴリは、カテゴリ・アイコン  付きで青色で表示されます。ツリー内では、要件の横に要件タイプを示すアイコンが表示されます。要件自体は仮想フォルダ内に物理的に存在しているわけではないので、どのカテゴリにも所属しない要件もあります。たとえば、親要件はどのカテゴリにも所属しないが、子や孫の要件がカテゴリに所属しているケースもあります。この場合、物理的な階層構造を保持するには、カテゴリに所属しない親要件もツリー構造に表

示する必要があります。カテゴリ・フォルダの下に表示されるのにそのカテゴリに所属しない要件は、スコープ外アイコン付きで明るいグレーで表示されます。

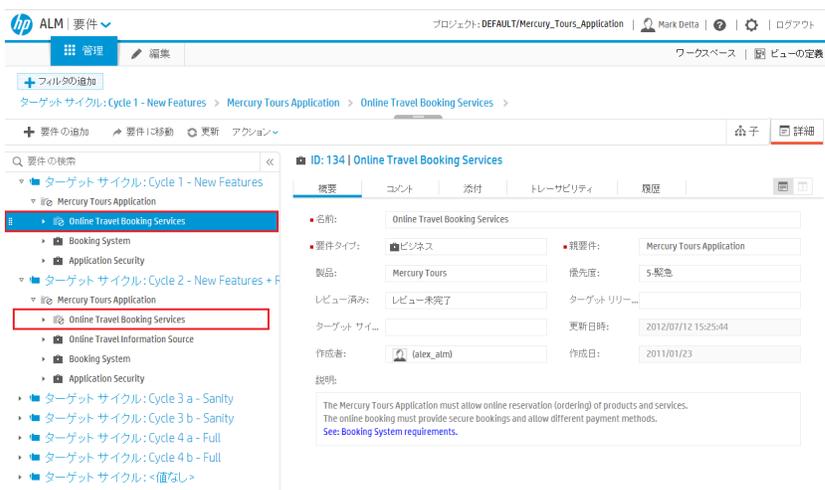
注: 要件エントリは、最下位のカテゴリで表示されます。



カテゴリ・ビューが複数の値を持つフィールドに適用される場合、複数のカテゴリに所属している同じ要件が複数回表示されます。

例

要件「Online Travel Booking Services」が[Target Cycle 1 - New features]と[Target Cycle 2 - New features & Regression]に割り当てられています。カテゴリ・ビューを定義して、ターゲット・サイクルごとの要件を表示する場合、「Online Travel Booking Services」は両方のカテゴリに表示されます。



ナビゲーション表示枠の幅は、自由に調整できます。また、右上の◀◀をクリックするとこの表示枠が非表示になり、表示領域が広がるので、より多くのデータが表示できるようになります。

階層構造なしで要件を表示する設定をビューで行い、カテゴリ・フィールドを定義していない場合、ナビゲーション表示枠は表示されません。

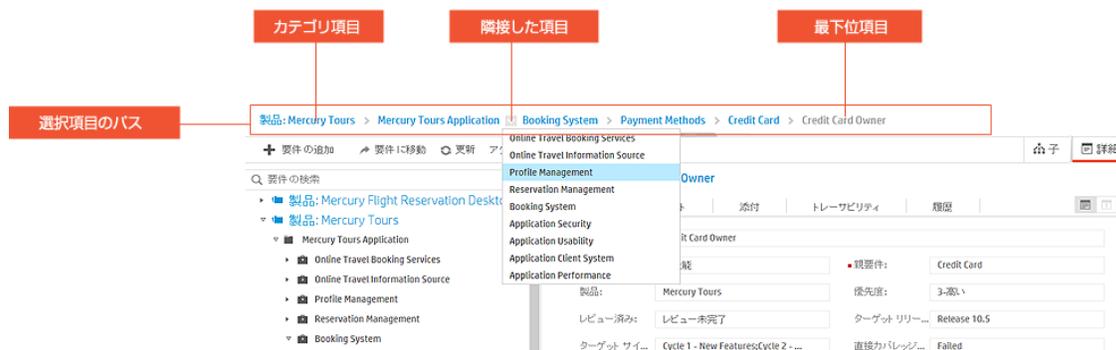
ツリーは次のキーでも操作できます。

- 上向き矢印: 上に移動します。
- 下向き矢印: 下に移動します。
- 右向き矢印: 項目を展開します。
- 左向き矢印: 項目を折りたたみます。
- [Enter]キーまたは[Space]キー: 項目を選択します。

階層リンクのナビゲーション・バー

ツリー表示枠とビュー領域の上に、階層リンクのナビゲーション・バーが表示されます。このバーにはツリー階層でのパスが表示され、カテゴリ項目と要件項目の両方が含まれます。ツリー内で項目を選択すると、そのパスが階層リンクのナビゲーション・バーに表示されます。

ナビゲーション・バーの階層リンクを選択すると、目的の項目に簡単に移動できます。また、階層リンクの区切りアイコン▶をクリックすると、ドロップダウン・リストから隣接した項目を選択できます。下位に項目がない最下位項目は、グレーで表示されます。



階層リンクのナビゲーション・バーは、ツリー表示 枠を折りたたんだ状態でも表示されま
す。

メイン表示領域での表示の変更

メイン表示領域での情報の表示方法は、ユーザが定義するビューと、次の設定に基づ
いて決まります。

- 選択されているモード

管理モードは、データ中心のビューです。このモードでは、[ビュー](#)が階層ビューとして定
義されると、[詳細]と[子]を切り替えることにより、メイン表示領域での情報の表
示方法を選択することができます。[詳細]には選択した要件の特定の詳細情報
が表示されます。[子]には、選択した要件の子要件のサマリ情報がグリッド表示さ
れます。

編集モードでは、要件がドキュメント・ビューで表示されます。

- ナビゲーション・ツリーで選択されている項目

ナビゲーション表示 枠が表示されている場合、ツリーの項目を選択すると、その項目
の情報がメイン表示領域に表示されます。

表示の変更の詳細については、「[必要な情報の表示](#)」(19ページ)を参照してくださ
い。

参照情報

- 「[必要な情報の表示](#)」(19ページ)
- 「[職務権限ごとの要件の作業](#)」(33ページ)
- 「[要件のFAQ](#)」(59ページ)

要件の定義



まず、新しい要件を追加し、定義を行います。

ヒント:

- 基本的な枠組みとして上位の要件を作成してから、子の要件を追加していきます。上位の要件を子の要件に分割することにより、チーム・メンバはプロジェクトの目的を理解しやすくなり、要件の進捗状況を的確に把握できるようになります。
- 開発者にとっては、子の要件を作成することによって、機能を小さな成果物に分割できるというメリットがあります。

新しい要件を追加するには、管理者にアクセス権限を割り当ててもらう必要があります。

ALM Web クライアントの要件モジュールには、要件を操作するモードが2つあり、ニーズに合わせて選ぶことができます。データ中心の操作が必要な場合は管理モードを使用します。ドキュメント・ビューで要件を操作したい場合は、編集モードを使用します。

管理モードでの要件の追加

1. **マストヘッド**で要件モジュールを選択し、管理モードが選択されていることを確認します。
2. 要件の追加先を指定します。予定されているデリバリに合わせて、要件の内訳と構造を決めてください。

ヒント: 要件でカテゴリ・ビューをすでに定義している場合は、特定のカテゴリに新しい要件を追加すると、その新しい要件には自動的にカテゴリのフィールド値が入力されます。例：カテゴリ・ビューで、製品ごとおよび優先度ごとに要件を表示するように定義した場合、製品「Mercury Tours」、優先度「5-緊急」のカテゴリに要件を新しく追加すると、新しい要件の製品フィールドと優先度フィールドにはこのカテゴリの値が自動的に入力されます。

3. 要件の追加では、次のいずれかのオプションを選択できます(オプションを選択すると[要件の追加]ダイアログ・ボックスが開きます)。
 - 要件ツリーの項目を選択して[要件の追加]をクリックし、選択した項目に子要件を追加します。

- [子]グリッドで要件を選択し、[前に追加]または[後に追加]をクリックして、選択した要件の前または後に要件を新しく追加します。
 - フラット・ビューで要件を表示している場合、[要件の追加]をクリックします。要件を追加するには、その要件に親を割り当てる必要があります。
4. プリセット値のテンプレートが定義済みの場合、ユーザの標準設定テンプレートは要件を追加するときに読み込まれます。別のテンプレートを読み込むには、[要件の追加]ボタン  の隣に表示されているドロップダウンをクリックし、読み込むテンプレートを選択して、1回だけ使用することができます。
 5. 作成する要件に最適な要件タイプ(ビジネス、機能、テストできない要件など)を選択します。
 6. 要件の名前を指定し、他の必須フィールドに値を入力します。必須フィールドのフィールド名の左側には赤い四角が表示され、読み取り専用のフィールドはグレースアウトされます。

ヒント:

リスト・フィールドでフィールドをクリックして値の任意の部分を入力します。オート・コンプリート機能によって一致する候補が表示されるため、すばやくリストのオプションを見つけることができます。

[ターゲット・サイクル]など、ツリー内から値を選択する必要があるフィールドの場合、ツリーの上の検索フィールドにその値の一部を入力すると、ツリー内の値をすばやく見つけることができます。

7. また、添付ファイルを追加し、必須でないフィールドに値を入力して要件を詳述することもできます。これは、後で要件を編集する際に行うこともできます。
8. 要件に対するプリセット値テンプレートがない場合、このテンプレートを作成するかどうかを決定します。

プリセット値テンプレートは、要件を追加するときに特定のフィールドで同じ値をよく使用する場合、またはそれぞれフィールド・セットが異なる複数のタイプの要件を使用しており、要件タイプに応じてこれらのフィールドに対して異なる初期値を割り当てる場合に役立ちます。

プリセット値テンプレートを定義するには、次の手順を実行します。

- a. [プリセット値の定義]をクリックします。
- b. テンプレートに名前を付けます。現在定義しているテンプレートを標準設定テンプレートとして使用する場合は、[新規エンティティの追加時の標準値に設定]を選択します。テンプレートを標準設定として定義すると、次回に新しい要件を追加するときに、標準設定のテンプレートで定義された値が自動的に読み込まれます。
- c. テンプレートに含めるフィールドを選択します。選択したフィールドが青い枠付きで表示されます。
- d. [保存]をクリックします。

注：一部のフィールド値は管理者が作成したルールによって決定されることがあります。このような場合、定義したプリセット値は上書きされることがあります。

9. 要件を保存する場合は[追加]、要件を保存してすぐに別の要件を追加するには[さらに追加]をクリックします。

編集モードでの要件の追加

注：

- 要件を階層表示しない場合、編集モードは無効になります。編集モードを有効にするには、[ビューの定義]を選択し、[階層ビュー]または[子を含む階層ビュー]に切り替えて、[適用]をクリックします。
- 編集モードで要件を表示するには、選択した要件のタイプまたはその親のタイプを、編集モードでの表示対象として指定しておく必要があります。詳細については、「[編集モードの詳細](#)」を参照してください。このモードで表示するように指定された要件タイプが存在しない場合は、管理者に問い合わせてください。

新規プロジェクトをすばやく開始するためのヒント

1. [要件の追加]をクリックして、編集モードで表示するように指定されたタイプの要件を新規に追加します。詳細については、「[編集モードの詳細](#)」を参照してください。

2. この要件の名前は、ドキュメントのタイトルにします。他の必須フィールドに値を入力します。
3. 作成した要件を選択し、[要件の追加]をクリックして子要件を追加します。任意のタイプの要件を追加できます。必須フィールドに値を入力します。
4. [更新]をクリックします。これで、要件を編集モードで表示できるようになります。

1. マストヘッドで要件モジュールを選択し、編集モードが選択されていることを確認します。
2. 新しい要件を挿入する場所にマウス・カーソルを移動し、ドキュメントに要件を追加する場所を指定します。予定されているデリバリに合わせて、要件の内訳と構造を決めてください。

編集モードでは、コンテンツが1つのドキュメントとして表示されます。各要件はそれぞれ別のボックスで編集できます。要件の間でマウスを動かすと、グレーの点線と[要件の追加]ボタンが表示されます。子要件のある要件の下にカーソルがある場合は、[子要件の追加]ボタンが表示されます。子要件のない要件の下にカーソルがある場合は、[兄弟要件の追加]が表示されます。ボタンをクリックして要件を追加します。

ヒント: 要件でカテゴリ・ビューをすでに定義している場合は、特定のカテゴリに新しい要件を追加すると、その新しい要件には自動的にカテゴリのフィールド値が入力されます。例: カテゴリ・ビューで、製品ごとおよび優先度ごとに要件を表示するように定義した場合、製品「Mercury Tours」、優先度「5-緊急」のカテゴリに要件を新しく追加すると、新しい要件の製品フィールドと優先度フィールドにはこのカテゴリの値が自動的に入力されます。これらのフィールドはドキュメント内には表示されませんが、要件名の左側のセクション番号をクリックして[要件の詳細]ダイアログ・ボックスを開くと、いつでも表示できます。

3. 要件名を入力します。
4. 要件名の下領域に説明を追加します。このテキストをリッチ・テキストで編集する場合は、エディタ・ツールバーを使用できます。また、この領域にはクリップボードから画像を貼り付けることもできます。

管理者が編集モードをどのように設定しているかによって、要件名の下に表示され

るテキストは、要件の[説明]フィールド、または ALM デスクトップ・クライアント の要件の[リッチ テキスト]タブの内容のいずれかになります。

5. 編集モードに表示されていない要件フィールドを表示するには、要件名の左側にある要件のセクション番号をクリックします。
6. 要件の編集画面から別の画面に移動すると、[保存]をクリックしなくても変更内容は自動的に保存されます。未入力の必須フィールドがある場合は、要件を保存する前にこれらのフィールドを入力するように求めるメッセージが表示されます。

参照情報

- [「職務権限ごとの要件の作業」\(33ページ\)](#)
- [プリセット値テンプレートの管理](#)
- [「共通のアクション」\(23ページ\)](#)
- [「必要な情報の表示」\(19ページ\)](#)
- [「要件のFAQ」\(59ページ\)](#)

要件の編集



一般的に要件は、反復的なプロセスを経て改良を加えていくので、編集の必要があります。要件の進捗状況に応じて、要件を適切に追跡できるように、一部のフィールドを更新する必要があります。たとえば、ステータス・フィールドを使用して要件の進捗を追跡する場合、ユーザは要件の進捗に応じて、ステータスの値をドラフト、レビュー済み、スコープと変更していきます。

また要件では、詳細情報の変更、添付ファイルやコメントの追加が可能です。要件を変更したら、それに関連する項目の再調整も必要になります。要件を編集または削除するには、管理者が割り当てたアクセス権限が必要になります。グレーアウトされたフィールドは編集できません。

複数のユーザが1つの要件を同時に表示することは可能ですが、更新できるのは1人のみです。他のユーザが編集中の要件を編集しようとすると、その要件は他のユーザによってロックされている旨の通知を受けます。他のユーザが変更を保存すると、その要件のロックが解除されます。ただし、別のユーザが変更を保存した要件を変更しようとすると、変更内容は最新の値で上書きされたことを通知するメッセージが表示されることがあります。

ALM Web クライアントの要件モジュールには、要件を操作するモードが2つあり、ニーズに合わせて選ぶことができます。データ中心の操作が必要な場合は管理モードを使用します。ドキュメント・ビューで要件を操作したい場合は、編集モードを使用します。

管理モードの使用

要件の更新

1. 要件モジュールで[管理]モードを選択し、更新する要件を選択します。

ヒント: 要件をすばやく検索するには、ナビゲーション表示枠の上部にある検索フィールドに要件名の一部または全体を入力します。

2. 要件のフィールドやタブの詳細を変更します。

[詳細]を表示する場合、フィールドの内容をビューで直接変更できます。グリッドで要件を表示するときに、プレビュー表示枠が開いていない場合、[分割表示枠]をクリックします。プレビュー表示枠でフィールドの詳細を変更できます。あるいは、グリッド内の要件のIDリンクをクリックするか、要件のチェックボックスを選択して、画面下のツールバーにある[詳細]をクリックすると、編集のために要件の詳細が開きます。

変更した内容を破棄したい場合は、[復元]をクリックします。これにより、現在のレコードで変更したフィールドの値は前の値に戻ります。

3. [保存]をクリックします。

ヒント:

- カテゴリ・フォルダを使用するときに、要件の編集でカテゴリ・フォルダのベースになっているフィールドの値を変更した場合、[更新]をクリックして、新しい値に対応するカテゴリ・フォルダに要件を移動させます。
- 親要件フィールドで新たな親を割り当てると、ツリー内で要件を移動させることができます。これは、フラット・ビューで親要件を変更するときにも役立ちます。

ドラッグ・アンド・ドロップ

ドラッグ・アンド・ドロップを利用できるのは、要件を階層表示している場合のみです。

- 要件ツリー: ナビゲーション表示枠で、移動する要件を選択します。グレーの四角が表示されます。これをクリックしてドラッグ・アンド・ドロップすると、要件を移動できます。
- 子: 同じ親に所属する子の要件を並び替えるには、グリッドの行の先頭(チェックボックスの左)にカーソルを置きます。グレーの四角が表示されます。これをクリックしてドラッグ・アンド・ドロップすると、要件をグリッド内で移動できます。

切り取り、コピー、貼り付け、削除

フラット・ビューで階層のない状態で要件が表示される場合、貼り付けは利用できません。

- **詳細**: ナビゲーション表示枠の要件を選択します。アクションをクリックして実行するアクションを選択します。貼り付けのアクションは、要件をコピーしたときにのみ表示されます。
- **子**: 要件を選択します。共通のアクション・ツールバーで、実行するアクションを選択します。

注:

- 現在のところ、カテゴリ間で要件を移動することはできません。要件を他のカテゴリに移動するには、カテゴリ・フォルダのベースになっているフィールドを変更します。
- 削除した要件は、すべてのカテゴリから削除されます。
- 要件を削除すると、その子の要件も削除されます。要件または子の要件に対するトレーサビリティ・リンクも削除されます。

編集モードの使用

編集モードで要件を表示するには、選択した要件のタイプまたはその親のタイプを、編集モードでの表示対象として指定しておく必要があります。詳細については、「[編集モードの詳細](#)」を参照してください。

注: 要件を階層表示しない場合、編集モードは無効になります。編集モードを有効にするには、[ビューの定義]を選択し、[階層ビュー]または[子を含む階層ビュー]に切り替えて、[適用]をクリックします。

要件の更新

1. 要件モジュールを開き、編集モードを選択します。メイン表示領域にドキュメントが表示されます。

ヒント: ドキュメントの操作には、ツリー、階層リンク、[要件に移動]、スクロールバーを使用できます。

2. 更新する要件を検索して選択します。

ヒント: 要件をすばやく検索するには、ナビゲーション表示枠の上部にある検索フィールドに要件名の一部または全体を入力します。

3. ドキュメント内に表示される詳細を直接変更します。
編集モードでは、コンテンツが1つのドキュメントとして表示されます。各要件はそれぞれ別のボックスで編集できます。要件名の下テキストをリッチテキストで編集する場合は、ドキュメント・ビューの上部にあるエディタ・ツールバーを使用できます。また、この領域には画像を貼り付けることもできます。

管理者が編集モードをどのように設定しているかによって、要件名の下に表示されるテキストは、要件の[説明]フィールド、またはALMデスクトップ・クライアントの要件の[リッチテキスト]タブの内容のいずれかになります。表示されない要件の他のフィールドやタブを表示または更新するには、セクション番号(要件名の左側)をクリックして、その要件の[詳細]ダイアログ・ボックスを開きます。

ドキュメントの要件の編集中に、編集ボックスの右上にあるをクリックすると、変更内容が破棄されます。またいつでも、をクリックして、最新の変更を保存することができます。要件の編集画面から別の画面に移動すると、保存ボタンのをクリックしなくても変更内容は自動的に保存されます。

要件の階層構造または順序の変更

要件ツリー内で、要件を選択し、目的の位置までドラッグします。新しい構造または順序に基づいてドキュメントは更新されます。

現在のところ、カテゴリ間で要件を移動することはできません。

また、ドキュメント内の要件を選択し、編集ボックスの右上にあるインデントを減らすまたはインデントを増やすをクリックすると、個々の要件を上下に1段階移動することができます。

要件の削除

要件を削除するには、ドキュメントで要件を選択し、をクリックします。

注: 要件を削除すると、その子の要件も削除されます。要件や子の要件に対するトレーサビリティ・リンクも削除されます。

参照情報

- [「編集モードの詳細」\(53ページ\)](#)
- [「職務権限ごとの要件の作業」\(33ページ\)](#)
- [「要件の概要」\(36ページ\)](#)
- [「必要な情報の表示」\(19ページ\)](#)
- [「共通のアクション」\(23ページ\)](#)

編集モードの詳細

選択した要件が編集モードで表示されるのは、その要件タイプまたは親の要件タイプがこのモードで表示されるように定義されている場合のみです。この設定を行うには、管理者がALM Web クライアント・カスタマイズで、要件タイプをドキュメント・ルートとして定義します。詳細については、[「要件タイプのカスタマイズ設定」](#)を参照してください。さらに管理者は、要件名の下領域にある要件の[説明]フィールドまたは[リッチテキスト]タブのいずれかの内容を表示するように編集モードを設定することができます。詳細については、[「編集モードで要件に関して表示される内容を設定する方法」](#)を参照してください。

必ずしもALMプロジェクトのすべての要件を1つのドキュメントとして表示する必要はなく、要件のタイプごとにドキュメントを分けて表示する方が操作しやすい場合があります。ドキュメントを柔軟な方法でグループ化できるように、ドキュメント・ルートから新しいドキュメント・ビューが始まります。

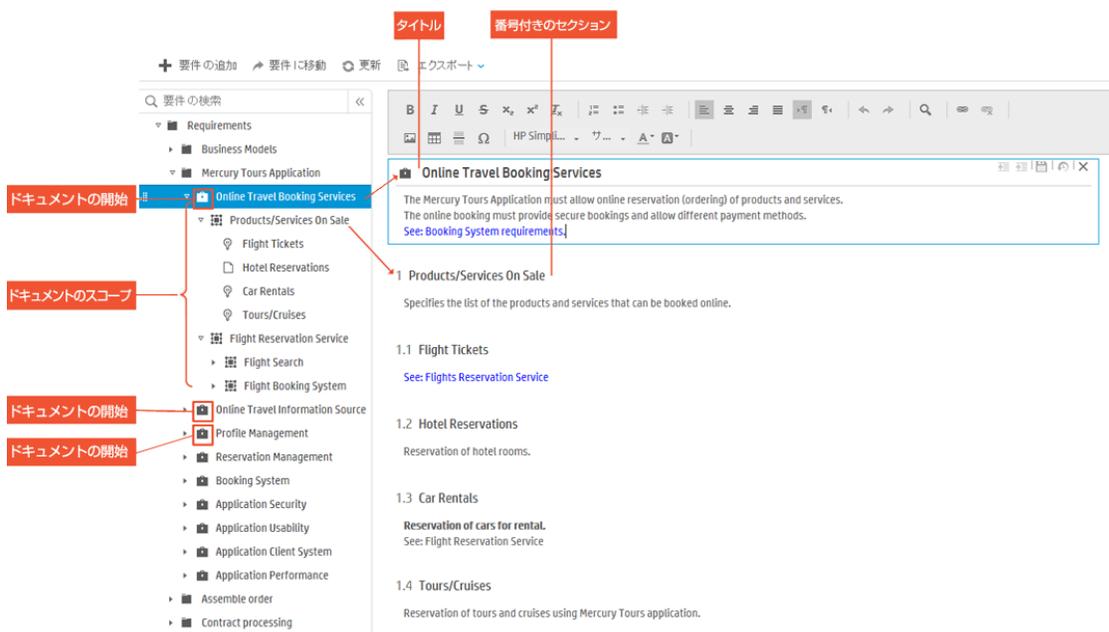
編集モードでは、ドキュメント・ビューは最上位のドキュメント・ルートからその最後の子までを表示します。子の要件のタイプが編集モードで表示するように定義されていない場合でも、ビューに含まれます。最上位のドキュメント・ルートはタイトルとして表示され、そのすべての子が番号付きのセクションとして表示されます。ドキュメント・ルートの子要件のタイプ自体がドキュメント・ルートの場合には、新しいドキュメントの最上位としては表示されません。

編集モードで表示するように設定された要件タイプが存在しない場合、表示領域にメッセージが表示されます。[試用する]をクリックすると一時的にビューが表示されますが、画面を更新したり、親要件や兄弟要件に移動すると、ドキュメントの範囲が失われます。

例: サイト管理者は、要件タイプ[ビジネス]  と[機能]  をドキュメントとして表

示する設定を行っています。最上位のビジネス要件である「Online Travel Booking Services」がドキュメントの先頭となり、この要件がタイトルになります。子要件はすべて、同じドキュメント内の番号付きのセクションとして表示されます。要件「Flight Tickets」、「Car Rentals」、「Tour/Cruises」の要件タイプ[機能]はドキュメントとして表示するように定義されていますが、「Online Travel Booking Services」が要件ツリーの最上位にあるので、この3つの要件はドキュメントの先頭にはなりません。ドキュメントとして表示しない要件タイプ([未定義]タイプなど。[Hotel Reservations]で使用されています)も[ビジネス]要件の子要件なので、番号付きセクションとして表示されています。ドキュメントの最後には、最下位の子要件である「Flight Booking System」が表示されています。

[ビジネス]要件である「Online Travel Booking Services」、「Online Travel Information Source」、「Profile Management」はツリーで同レベルに表示される兄弟要件であり、それぞれが別のドキュメントの先頭に表示されます。



参照情報

- 「要件の編集」(49ページ)
- 「職務権限ごとの要件の作業」(33ページ)
- 「要件のFAQ」(59ページ)

要件の監視と管理



要件を監視することにより、アプリケーションの進捗と品質を追跡することができ、プロジェクトが全体的な目標をどの程度満たしているかを確認できます。トレーサビリティを使用することにより、要件と他の項目の間のリンクを定義できます。これにより、相互の依存関係を監視して、アプリケーションのライフサイクルをより効果的に管理できます。またワークスペースでは、関連情報のみを絞り込んだ表示とフィルタリングが可能なので、問題の領域の特定とアプリケーション品質の評価が容易になります。

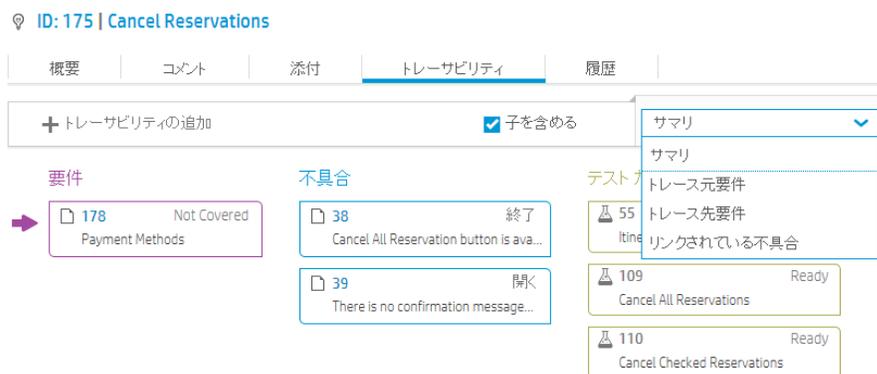
トレーサビリティ

トレーサビリティは、1つまたは複数の項目間でリンクを作成します。次のようなメリットがあります。

- 要件を変更する前に、変更が他の要件やエンティティに与える影響を分析できます。全体像をつかむことができるので、変更するかどうかについて、情報に基づいた意思決定が可能になります。
- テスト・カバレッジを確認することで、特定の要件が満たされているかどうかを検証し、カバレッジのギャップを特定することができます。
- 要件に関連する不具合の数と重要度を追跡することにより、アプリケーションの品質を監視できます。

トレーサビリティの表示

要件モジュールで選択した要件の詳細を開き、[トレーサビリティ]タブをクリックします。要件に対する既存のトレーサビリティ・リンクが表示されます。



サマリ・ビューと特定ビュー

[トレーサビリティ] タブには、すべてのトレーサビリティ・リンクのサマリ・ビューと特定トレーサビリティ・ビューが含まれています。サマリ・ビューには、すべてのトレーサビリティ・リンクの基本情報が表示されます。特定トレーサビリティ・ビューには、特定のタイプのリンクに関する詳細情報が表示されます。トレーサビリティのツールバーの右側にあるビュー・セレクタで選択することで、特定のタイプのトレーサビリティ・リンクにドリルダウンできます。詳細については、「[トレーサビリティの使用](#)」を参照してください。

要件では、次の特定ビューを利用できます。

- トレース元要件：選択した要件が依存している要件。
- トレース先要件：選択した要件に依存している要件。
- リンクされている不具合：選択した要件に関連する不具合。

子を含める

選択した要件に対するトレーサビリティ・リンクのみを表示するか、選択した要件の子に対するトレーサビリティ・リンクも含めて表示するかを選択できます。子に対するリンクを表示するには、トレーサビリティのツールバーで[子を含める]チェック・ボックスを選択します。子を含めることで、要件のステータスの全体状況が把握しやすくなり、要件の監視に役立ちます。たとえば、[トレーサビリティ]タブに項目を含まない親要件があり、子要件に直接カバレッジ・ステータスが「失敗」のトレース元要件が多数存在するような場合があります。ビューに子を含めると、個々の子要件を調べなくても、親要件のサマリ・ビューだけで潜在的な品質上の問題を見つけることができます。

間接リンクを含める

[リンクされている不具合]トレーサビリティ・ビューの標準設定では直接リンクと間接リンクの両方が表示されます。現在、ALM Web クライアントでは、不具合を要件にリンクすると、そのリンクは直接リンクになります。ただし、ALM デスクトップ・クライアントでは、不具合を他のエンティティにリンクすることができます。不具合をエンティティにリンクすると、ALM は不具合とエンティティ間の直接リンクを追加します。ただし、不具合のリンク先のエンティティが他の上位レベルのエンティティにリンクされている場合、これらの他のエンティティがその不具合に仮想的にリンクされます。これらの仮想リンクは間接リンクになります。たとえば、テスト内のあるステップで開かれた不具合はそのステップに直接リンクされますが、そのテストやテスト対象の要件には間接的にリンクされます。間接リンクを含めると、要件の品質を把握しやすくなります。直接リンクのみを表示する場合は、[間接リンクを含める]チェック・ボックスの選択を解除します。ビューに間接リンクを含まない場合は、サマリ・ビューで  アイコンが表示されます。

ヒント：リンクされた要件または不具合の ID をクリックすると、その詳細が表示されます。

トレーサビリティの追加と削除

トレーサビリティの追加

1. 要件モジュールで選択した要件の詳細を開き、[トレーサビリティ]タブをクリックします。

2. トレーサビリティ・リンクの追加

<p>サマリ ▼</p>	<p>サマリ・ビューでは、[トレーサビリティの追加]をクリックして、トレーサビリティ・リンクを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ トレース先要件: 選択した要件に依存している要件にリンクします。 ■ トレース元要件: 選択した要件が依存している要件にリンクします。 ■ 不具合へのリンク: 選択した要件に関連する不具合にリンクします。
<p>トレース元要件 ▼</p> <p>トレース先要件 ▼</p> <p>リンクされている不具合 ▼</p>	<p>特定ビューでは、表示されているのと同じタイプのトレーサビリティ・リンクのみを追加できます。</p>

3. 要件を選択するか、リンクする要件または不具合のIDを入力します。

トレーサビリティの削除

これは、特定トレーサビリティ・ビューでのみ実行できます。特定ビューに切り替えて、グリッドで項目(複数可)を選択し、[**トレースの削除**]をクリックします。

ワークスペースの使用

定義されたビューとフィルタを使用したワークスペースで、要件の監視や管理ができます。たとえば、要件の[**優先度**]の値が「高い」、「非常に高い」、「緊急」のいずれかで、[**レビュー**]フィールドの値が「レビュー未完了」である要件を表示するワークスペースを作成することができます。

注: 要件を包括的に管理する機能は、現在のところ ALM デスクトップ・クライアントでのみ提供されています。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザース・ガイド』を参照してください。

参照情報

- [トレーサビリティの使用](#)
- [「必要な情報の表示」\(19ページ\)](#)

要件のFAQ

要件の使用についてよくある質問を紹介します。

ヒント: 他にヒントがある場合は、sw-doc@hp.com までお寄せください。

一般的な内容

ツリーで要件を選択しても、メイン表示領域に要件がまったく表示されません。要件を表示する方法を教えてください。

子ビューを開いている場合、ツリーで選択した要件に子が存在しなければ、メイン表示領域には何も表示されません。

要件のソート順を指定したいのですが、オプションが無効になっています。オプションを有効にする方法を教えてください。

ソート・フィールドを追加するには、[フラット・ビュー](#)を選択する必要があります。

ALMにログインすると、要件ツリーが表示されなくなりました。表示を戻す方法を教えてください。

ALMでは、前回のセッションで最後に作業したビューが保存されています。ALMにもう一度ログインすると、このビューが表示されます。前回のセッションでワークスペースを使用したケースや、階層なしで要件を表示するビューを使用したケースが考えられます。ワークスペースが読み込まれているかどうかを確認してください([ワークスペース]メニューの横にワークスペースの名前が表示されます)。必要に応じて、別のワークスペースを読み込むか、既存のワークスペースを変更してください。要件ツリーを表示するには、[ビューの定義]をクリックし、[階層ビュー]または[子を含む階層ビュー]に切り替えます。[適用]をクリックします。

要件を追加したいのですが、[要件の追加]ボタンが表示されません。要件を追加する方法を教えてください。

要件を追加する権限がない場合、[要件の追加]ボタンは表示されません。管理者に問い合わせてください。

編集モード

編集モードで要件を表示したいのですが、ボタンが無効になっています。

編集モードは、フラット・ビューでは無効になります。編集モードのボタンを有効にするには、[ビューの定義]をクリックし、[階層ビュー]または[子を含む階層ビュー]に切り替えます。[適用]をクリックします。

編集モードで要件を選択しましたが、選択した要件を表示できないというメッセージが表示されました。編集モードで要件を表示する方法を教えてください。

選択した要件が編集モードで表示されるのは、その要件タイプまたは親の要件タイプがこのモードで表示されるように定義されている場合のみです。この設定を行うには、管理者がALM Web クライアント・カスタマイズで、要件タイプをドキュメント・ルートとして定義します。詳細については、「[編集モードの詳細](#)」を参照してください。

編集モードの概要は、[試用する]をクリックして確認できます。ただしこのドキュメント・ビューは一時的なビューなので、親の要件や兄弟要件に移動すると失われます。

編集モードで要件を印刷できますか。

はい。[エクスポート]ボタンをクリックしてファイル形式を選択します。その後、ファイルを印刷できます。要件に対する最近の変更内容をエクスポート・データに含める場合は、エクスポートする前に[保存]をクリックします。

参照情報

- 「[職務権限ごとの要件の作業](#)」(33ページ)
- 「[要件モジュールの操作](#)」(39ページ)
- 「[要件の概要](#)」(36ページ)

第4章: 職務権限ごとの不具合の作業

ALM の不具合モジュールでは, アプリケーション・ライフサイクル全体を通じて不具合を定義, 管理, 追跡できます。



開発者による不具合の作業



開発者

不具合モジュール

開発者は、アプリケーション開発の他に、不具合の修復、不具合の作成や更新による進行状況の追跡、他の関係者へのステータスの通知を担当します。



類似した不具合の検索

不具合を重複して作成しないように、最初に既存の類似した不具合を検索することをお勧めします。

❗ 類似した不具合を検索するには、ビューおよびワークスペースの機能を使用します。



自分の不具合の検索

自分に割り当てられた不具合を検索して、アプリケーションで修復が必要な内容を確認します。

❗ 自分の不具合を検索するには、ビューおよびワークスペースの機能を使用します。検索結果を絞り込んで、特定のリリースまたはサイクルの不具合を検索します。



不具合の定義

開発中に、修復が必要な不具合が発生することがあります。サマリと重要度を入力して、不具合を定義します。詳細な説明も役に立ちます。再度定義に戻って詳細情報を入力することもできます。



不具合の詳細

不具合を最初に作成したときに省略したフィールドを入力します。たとえば、割り当て可否やスキル・セットに基づいて異なるユーザを割り当てます。



優先順位

作業に優先順位を付けます。
【優先度】フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。

❗ ビジネス・プロセスをサポートする値のリストを持つ【優先度】フィールドを管理者に設定してもらいます。



リリースとサイクルへの割り当て

不具合の修復をスケジュール設定する準備ができたなら、不具合をリリースとサイクルに割り当てます。

【ターゲットリリース】および【ターゲットサイクル】フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。



添付の追加

不具合の関係書類を添付します。これらの添付ファイルは、画像やビデオ・クリップなど、修正が必要な問題の説明に役立つものであれば何でも構いません。



ステータスの更新

不具合を追跡するには、【ステータス】フィールドを使用します。ドロップダウン・リストで適切なステータスを選択します。通常、開発者は不具合の修復を始めるときに【開く】を選択し、完了したときに【終了】を選択します。

❗ ビジネス・プロセスをサポートする値のリストを持つ【ステータス】フィールドを管理者に設定してもらいます。



ユーザの割り当て

不具合を修正する担当者がわかっている場合は、不具合をそのユーザに割り当てます。これは自分自身でも構いません。



ステータスの更新

他の関係者に対するコメントや質問を追加します。関係者が作業を確認する際に、関係者からコメントや質問を追加することもできます。

これは1つの例です。それぞれの組織で使用されるプロセスは異なる場合があります。

また、ALMは柔軟にカスタマイズできるため、このシナリオではそれぞれの組織内で使用できないフィールドが使用されている場合もあります。

📄 テスト担当者による不具合の作業



テスト担当者

不具合モジュール

テスト担当者は、それぞれのアプリケーションに関する知識に基づいて、テストケースを考案し、アプリケーション内の不具合を見つけます。
不具合が見つかったら、テスト担当者は不具合の作成や更新を行って進行状況を追跡し、他の関係者へステータスの通知を行います。

定義



類似した不具合の検索

不具合を重複して作成しないように、最初に既存の類似した不具合を検索することをお勧めします。

❗ 類似した不具合を検索するには、ビューおよびワークスペースの機能を使用します。



不具合の定義

テスト中に、修復が必要な不具合が発生します。サマリと重要度を入力して、不具合を定義します。詳細な説明も役に立ちます。再度定義に戻って詳細情報を入力することもできます。



優先順位

作業に優先順位を付けます。【優先度】フィールドのドロップダウン・リストから値を選択します。

❗ ビジネス・プロセスをサポートする値のリストを持つ【優先度】フィールドを管理者に設定してもらいます。



添付の追加

不具合の関係書類を添付します。これらの添付ファイルは、画像やビデオ・クリップなど、修正が必要な問題の説明に役立つものであれば何でも構いません。



テスト担当者の割り当て

修正された不具合をテストする担当者がわかっている場合は、不具合をその担当者に割り当てます。

編集



類似した不具合の検索

自分が検出した不具合を検索します。

❗ テストする必要のある不具合を検索するには、ビューおよびワークスペースの機能を使用します。検索結果を絞り込んで、特定のリリースまたはサイクルの不具合を検索します。



不具合の詳細

不具合を最初に作成したときに省略したフィールドを入力します。



ステータスの更新

不具合を追跡し、修正済みの不具合を確認するには、【ステータス】フィールドを使用します。ドロップダウン・リストで適切なステータスを選択します。テスト担当者は、【終了】または【要再修正】を選択します。

❗ ビジネス・プロセスをサポートする値のリストを持つ【ステータス】フィールドを管理者に設定してもらいます。



トレーサビリティの監視

- 指定した不具合のテスト・カバレッジが存在することを確認します。
- 不具合の変更が必要な場合は、トレーサビリティを使用して要件と不具合の間の相互の依存関係を識別します。
- 特定の要件に関連する不具合の数と重要度を追跡することにより、アプリケーションの品質を監視します。

これは1つの例です。それぞれの組織で使用されるプロセスは異なる場合があります。

また、ALMは柔軟にカスタマイズできるため、このシナリオではそれぞれの組織内で使用できないフィールドが使用されている場合もあります。

参照情報

-  管理者 : 「ALM Web クライアントのカスタマイズ」(73ページ)

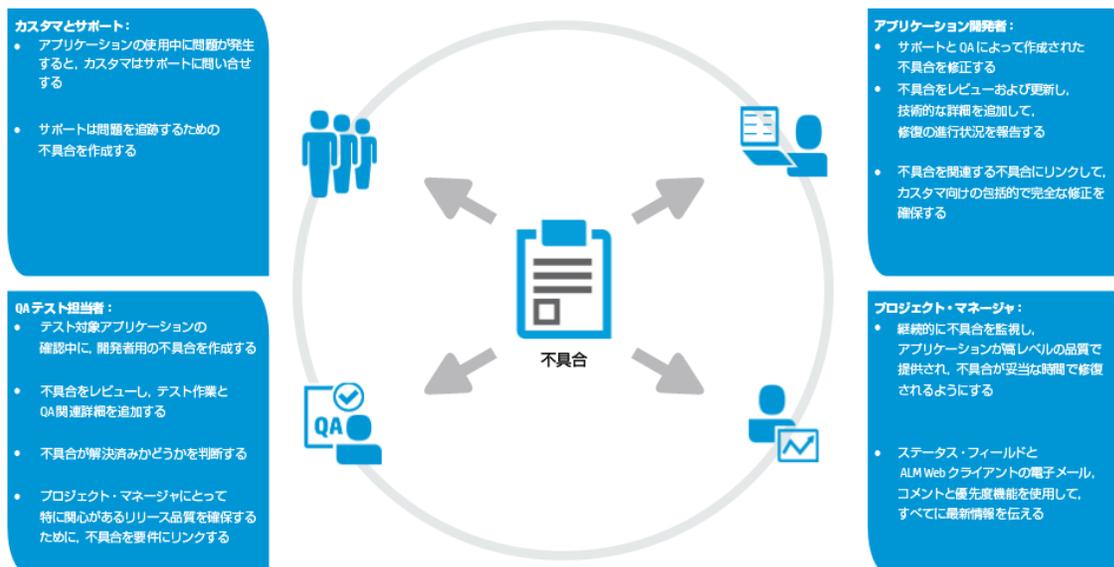
不具合の概要

アプリケーションで最も重要なのは品質保証です。ALM Web クライアントは、アプリケーションの欠陥を報告し、修正作業を追跡する機能を備えています。この作業は、アプリケーション管理プロセスの全過程を通じて行われます。アプリケーションの欠陥は、不具合として報告されます。

ALM Web クライアント・ユーザの連携

ALM Web クライアント・ユーザは、継続的に不具合のステータスを更新および監視します。これにより、アプリケーションの品質をいつでも詳細に把握できるようになります。

不具合の定義と管理には、各種権限とさまざまなグループの関係者が関与し、協力して行います。



不具合の作業を開始するには

- 各 ALM Web クライアント・ユーザは、それぞれの職務権限に基づいてどのような情報にアクセスする必要があるか。

ALM Web クライアント管理者は、それぞれの職務権限に合わせてフォームをカスタマイズできます。詳細については、「[フォームのデザインと管理](#)」(76ページ)を参照してください。

- 読み取り専用で変更できないフィールド値があるか。

状況に応じて、必須とするべきフィールドがあるか。

状況に応じて、複数のフィールド・ルックアップ・リストが必要か。

ALM Web クライアント管理者は、ビジネス・ルールを使用して、表示または変更可能なフィールドを制御できます。詳細については、「[ビジネス・ルールの定義](#)」(90ページ)を参照してください。

参照情報

- 「[職務権限ごとの不具合の作業](#)」(61ページ)
-  管理者:「[ALM Web クライアントのカスタマイズ](#)」(73ページ)

不具合の定義



アプリケーションの品質向上を目的に、不具合を定義します。

1. 不具合モジュールを選択します。
2. ビューとフィルタを設定し、類似した不具合がまだ作成されていないことを確認します。詳細については、「[必要な情報の表示](#)」(19ページ)および「[フィルタリング](#)」(20ページ)を参照してください。
3. [不具合の追加]ページを開いていない場合、[不具合の追加]をクリックします。標準設定の不具合プリセット値テンプレートを定義済みの場合、その値が読み込まれます。プリセット値テンプレートの作成と管理の詳細については、「[プリセット値の管理](#)」(14ページ)を参照してください。

注: 管理者が定義したビジネス・ルールがユーザのプリセット値を上書きする場合があります。この問題が発生した場合は、管理者にお問い合わせください。

ヒント: プリセット値付きの不具合を追加するには、[不具合の追加]の隣に表示されているドロップダウンをクリックして、読み込む値のテンプレートを選択します。

4. フィールドに値を入力します。

ヒント: リスト・フィールドの場合は、フィールドをクリックして値の任意の部分を入力します。ALM Web クライアントにより、一致する値の候補が表示されます。

これらの値を今後使用するためにテンプレートとして保存するには、[プリセット値の定義]をクリックして、テンプレートに名前を付け、テンプレートのフィールドを選択してから、[保存]をクリックします。

不具合を保存します。

5. 保存が完了したら、不具合 ID をクリックして不具合を編集します。次の操作を実行できます。

- **添付の追加:** 画面キャプチャと記録セッションは、文章で説明するよりもわかりやすく問題について伝えることができます。[添付]タブをクリックすると、添付ファイルを操作できます。詳細については、「[添付の操作](#)」(25ページ)を参照してください。
- **コメントの挿入:** コメントは、複数のユーザが連携する際に非常に役立ちます。コメントには、タイムスタンプと、コメントを追加したユーザが表示されます。[コメント]タブ、[コメントの追加]の順にクリックします。詳細については、「[コメントの追加](#)」(25ページ)を参照してください。
- **履歴の表示:** バックグラウンド情報を必要としていますか。不具合の履歴では、不具合が作成された理由、不具合を担当している人数、不具合が割り当てられた経緯などが表示されます。[履歴]タブをクリックして、履歴を表示します。詳細については、「[項目の履歴表示](#)」(29ページ)を参照してください。
- **トレーサビリティの作成:** 要件が満たされているかどうかの判断が、追加する不具合によって決まる場合には、関連する要件と追加する不具合を関連付けることができます。これにより、プロジェクトが要件をどの程度満たしているかを確認できます。[トレーサビリティ]をクリックし、要件のIDを入力して関係を作成します。ト

レーサビリティの詳細については、「[トレーサビリティ](#)」(55ページ)を参照してください。

参照情報

- 「[職務権限ごとの不具合の作業](#)」(61ページ)
- 「[不具合の概要](#)」(64ページ)
- 「[不具合の更新](#)」(67ページ)
- 「[不具合へのトレーサビリティ・リンクの使用](#)」(68ページ)

不具合の更新



ALM Web クライアントのユーザは、担当する職務権限に応じて不具合を更新します。

1. 不具合モジュールを選択します。
2. ビューとフィルタを設定し、目的の不具合(自分に割り当てられている不具合など)を検索します。詳細については、「[必要な情報の表示](#)」(19ページ)および「[フィルタリング](#)」(20ページ)を参照してください。

不具合のID番号をクリックすると、不具合が開きます。

ヒント: 不具合に直接移動して開くことも可能です。詳細については、「[エンティティIDへの\[移動\]を使用したエンティティの検索](#)」(29ページ)を参照してください。

3. [概要]タブをクリックします。
4. フィールドに値を入力します。次の点に注意してください。
 - **ステータスの変更**: 不具合の操作を開始しましたか。不具合を修正しましたか。標準設定のステータス: 新規, 開く, 修正済み, 解決済み, 取り消し。

- **添付の追加** : 画面キャプチャと記録セッションは、文章で説明するよりもわかりやすく問題について伝えることができます。また、不具合が修正されたことを示す画面キャプチャを添付することも可能です。[添付]タブをクリックすると、添付ファイルを操作できます。詳細については、「[添付の操作](#)」(25ページ)を参照してください。
- **コメントの挿入** : コメントは、複数のユーザが連携する際に非常に役立ちます。コメントには、タイムスタンプと、コメントを追加したユーザが表示されます。[コメント]タブ、[コメントの追加]の順にクリックします。詳細については、「[コメントの追加](#)」(25ページ)を参照してください。
- **履歴の表示** : バックグラウンド情報を必要としていますか。不具合の履歴では、不具合が作成された理由、不具合を担当している人数、不具合が割り当てられた経緯などが表示されます。[履歴]タブをクリックして、履歴を表示します。詳細については、「[項目の履歴表示](#)」(29ページ)を参照してください。
- **トレーサビリティの作成** : 要件が満たされているかどうかの判断が、追加する不具合によって決まる場合には、関連する要件と追加する不具合を関連付けることができます。これにより、プロジェクトが要件をどの程度満たしているかを確認できます。[トレーサビリティ]をクリックし、要件のIDを入力して関係を作成します。トレーサビリティの詳細については、「[トレーサビリティ](#)」(55ページ)を参照してください。

5. 作業が完了したら、[グリッドに戻る]をクリックします。

参照情報

- 「[職務権限ごとの不具合の作業](#)」(61ページ)
- 「[不具合の概要](#)」(64ページ)
- 「[不具合の定義](#)」(65ページ)
- 「[不具合へのトレーサビリティ・リンクの使用](#)」(68ページ)

不具合へのトレーサビリティ・リンクの使用



トレーサビリティでは、1 つまたは複数のエンティティ間にリンクが作成されます。これらの相互の依存関係を使用することで、アプリケーションのライフサイクルをより効果的に管理できます。

例

- リンクされている不具合が修正された場合に、要件が満たされます。これらは直接リンクです。
- リンクされている不具合、および要件の不具合にリンクされているすべての不具合が修正された場合に、要件が満たされます。これらは間接リンクです。

トレーサビリティ・リンクを追加して、不具合と次の項目の関係を定義できます。

- 他の不具合
- 要件

要件と不具合との間のリンクは、要件モジュールまたは不具合モジュールの[トレーサビリティ]タブで追加できます。

不具合の詳細の[トレーサビリティ]タブに表示する情報を制限すると、関連するリンクのみを参照できます。他の不具合へのリンク、要件へのリンク、またはすべてのリンクのサマリの表示が可能です。

不具合モジュールでのトレーサビリティの追加

1. 不具合モジュールを選択します。
2. ビューとフィルタを設定し、目的の不具合(自分に割り当てられている不具合など)を検索します。詳細については、「[必要な情報の表示](#)」(19ページ) および「[フィルタリング](#)」(20ページ)を参照してください。

IDを指定して不具合を開くことも可能です。詳細については、「[エンティティIDへの\[移動\]を使用したエンティティの検索](#)」(29ページ)を参照してください。

3. 不具合の詳細  を開きます。
4. [トレーサビリティ]をクリックします。不具合に対する既存のトレーサビリティ・リンクが表示されます。

ヒント: 既存のリンク・エンティティの ID をクリックすると、その詳細が表示され
ます。

5. ウィンドウの右上で、表示内容(すべてのリンクのサマリ, 要件へのリンク, 不
具合へのリンク)を選択します。

サマリ	▼
サマリ	
リンクされている要件	
リンクされている不具合	

ヒント: [リンクされている不具合]を選択すると、リンクされている不具合がグリ
ッドで表示されます。また、表示するカラムの選択、グリッドのフィルタリング、トレー
サビリティ・リンクの削除など追加オプションも利用できます。詳細をグリッド表示
したくない場合は、サマリに戻すことができます。

6. [トレーサビリティの追加]をクリックし、[要件へのリンク]または[不具合への
リンク]のいずれかを選択します。
7. 不具合: リンクする不具合の ID を入力します。
要件: 要件の ID を入力するか、要件ツリーから要件を選択します。
8. [OK]をクリックし、[保存]をクリックします。

要件モジュールでのトレーサビリティの追加

要件モジュールでのトレーサビリティの追加は、不具合モジュールでのトレーサビ
リティの追加とよく似ています。

1. 要件モジュールで、関連する要件を選択して、その要件の詳細を表示します。
2. [トレーサビリティ]をクリックします。
3. ウィンドウの右上で、リンクされている不具合のみを表示するように指定
できます。

サマリ	▼
サマリ	
トレース元要件	
トレース先要件	
リンクされている不具合	

ヒント: [リンクされている不具合]を選択すると、リンクされている不具合がグリッドで表示されます。また、表示するカラムの選択、グリッドのフィルタリング、トレーサビリティ・リンクの削除など追加オプションも利用できます。詳細をグリッド表示したくない場合は、サマリに戻すことができます。

4. [トレーサビリティの追加]をクリックし、[不具合へのリンク]を選択します。
5. リンクする不具合のIDを入力します。
6. [OK]をクリックします。

トレーサビリティの削除

1. [トレーサビリティ]タブで、ウィンドウの右上にある[リンクされている不具合]を選択します。次の例は要件モジュールの例です。

サマリ	▼
サマリ	
トレース元要件	
トレース先要件	
リンクされている不具合	

2. グリッドでリンクを削除する不具合を選択して、[トレースの削除]をクリックします。

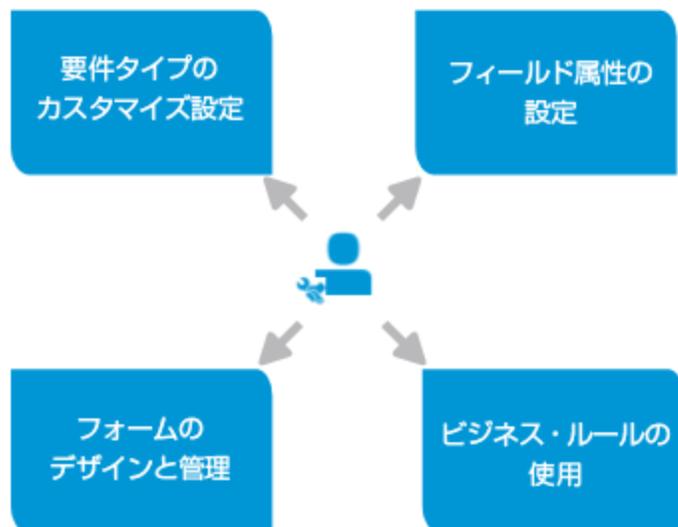
参照情報

- 「[共通のアクション](#)」(23ページ) (トレーサビリティの概要説明)
- 「[トレーサビリティ](#)」(55ページ) (要件の場合)
- 「[職務権限ごとの不具合の作業](#)」(61ページ)

- [「不具合の定義」\(65ページ\)](#)
- [「不具合の更新」\(67ページ\)](#)

第5章: ALM Web クライアントのカスタマイズ

 **管理者**: ALM Web クライアント管理者は、ALM Web クライアントでのエンド・ユーザのエクスペリエンスをカスタマイズできます。



カスタマイズで同時に編集作業できる管理者は1人のみです。ただし、その他の管理者は既存の設定を表示できます。

カスタマイズでは、右上の[ロックして編集]をクリックして変更します。終了したら、必ず[ロック解除]をクリックしてください。

プロジェクト: DEFAULT/jpn_1201_rc3 |  sa |  | [閉じる](#)

 [ロックして編集](#)

参照情報

- [「プロジェクトの管理」\(139ページ\)](#)

要件タイプのカスタマイズ設定

ALM Web クライアント 管理者は、ユーザ・ニーズに合わせて要件タイプをプロジェクトごとにカスタマイズできます。

1.  を選択してから、右上の[カスタマイズ]を選択します。
2. カスタマイズするモジュールを選択します。ここでは[要件]を選択します。
3. [タイプ]を選択します。
4. 変更する要件を選択し、次の操作を行います。
 - 要件タイプのアイコンを変更するには、[タイプアイコン]ドロップダウン・リストで新しいアイコンを選択します。
 - 要件タイプの子の標準タイプを設定するには、[標準設定の子サブタイプ]ドロップダウン・リストで要件タイプを選択します。

例

[グループ]要件タイプの標準設定の子サブタイプとして[機能]を選択する場合、[グループ]要件の下に要件を作成すると、子の要件のタイプは自動的に[機能]に設定されます。

- 編集モードでの作業中、要件タイプをドキュメント・ルートに設定したい場合には、[ドキュメント ルート]を[√]に設定します。編集モードでの作業の詳細については、「[要件の編集](#)」(49ページ)を参照してください。

ドキュメント・ルートには、複数の要件タイプを指定できます。

ヒント:ドキュメント・ルートの子または孫もドキュメント・ルートの場合、編集モードでは、最上位にあるドキュメント・ルートで始まるドキュメントが作成されます。

5. [保存]をクリックします。

参照情報

- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)

フィールド属性の設定

ALM Web クライアント管理者は、ALM Web クライアントでのフィールドの表示方法と使用方法をカスタマイズできます。たとえば、あるフィールドを ALM Web クライアントで表示するフィールドとして指定し、フィールドの上にマウスカーソルを置いたときに表示される説明を変更できます。

フィールド属性の設定

要件と不具合のフィールド属性を変更します。

1.  を選択してから、右上の[カスタマイズ]を選択します。
2. カスタマイズするモジュールを選択します。
3. 必要に応じて、[ロックして編集]をクリックしてカスタマイズを編集します。
4. [フィールド]を選択します。

標準設定値が ALM サーバから取得されます。

5. カスタマイズするフィールドを選択します。

注: 一部のフィールドは読み取り専用です。

6. フィールドの属性を変更します。
7. [保存]をクリックします。
8. [ロック解除]をクリックして、その他のユーザがカスタマイズの値を変更できるようにします。

フィールド属性の復元

1. を選択してから、右上の[カスタマイズ]を選択します。
2. カスタマイズするモジュールを選択します。
3. 必要に応じて、[ロックして編集]をクリックしてカスタマイズを編集します。
4. [フィールド]を選択します。
5. [復元]をクリックします。これにより、前回の保存以降の変更内容が破棄されません。
6. [ロック解除]をクリックして、その他のユーザがカスタマイズの値を変更できるようにします。

参照情報

- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)

フォームのデザインと管理

管理者は、各プロジェクトで使用するフォームをデザインできます。フォームは、組織ごとの詳細レイアウトを持ち、エンド・ユーザはフォームを使用してエンティティの関連情報の表示や編集を行います。

管理者は、要件モジュールと不具合モジュール用のフォームをデザインおよび管理できます。

フォームの使用方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

フォームは、プロジェクト内のモジュールごとに定義します。たとえば、1つのプロジェクトに要件モジュールと不具合モジュールがある場合、それぞれ別のフォームを定義することができます。実際に使われるフォームは、作成するビジネス・ルールで制御します。詳細については、「[ビジネス・ルールの定義](#)」(90ページ)を参照してください。

ヒント: ステージング領域でフォームを作成し、テスト後に運用環境に移行できます。詳細については、「[ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行](#)」(112ページ)を参照してください。

本項の内容は、次のとおりです。

- 「[管理者によるフォームのデザイン方法](#)」(77ページ)
- 「[フォーム・デザイナーの主な機能](#)」(78ページ)
- 「[フォームのデザイン](#)」(78ページ)
- 「[フォームの削除](#)」(80ページ)
- 「[フォーム・デザイナーの主な機能](#)」(78ページ)

管理者によるフォームのデザイン方法



カスタマイズ: フォーム

管理者は、組織内の異なるユーザや、アプリケーションのライフ・サイクル (デザイン、開発、テスト) でユーザが通過するさまざまな状況に応じたデータ入力フォームの作成とメンテナンスを担当します。

定義



ステージ

プロジェクトのフォームをステージング目的専用でデザインすることを検討してください。こうすると、既存のフォームの強化中も、ユーザは作業を続行できます。



計画

各タイプのユーザとそのニーズを検討してください。

- すべてのユーザがエンティティ  の初期作成時にすぐ簡単に作成できるフォームを必要としていますか。
- 各ユーザがエンティティの編輯時にさまざまなフィールドへのアクセスを必要としていますか。

さまざまなタイプのユーザから話を聞いて、そのニーズを理解してください。



ステージ複製および編集

初期のフォームに同じ情報が含まれていることを確認する効率的な方法は、システムの標準設定フォームを複製することです。

次に、必要に応じて変更します。



標準設定フォームの設定

特別な状況が存在しなければ、ALM Web クライアントでは、標準設定のフォームが使用されます。

実行



ビジネス・ルールの定義

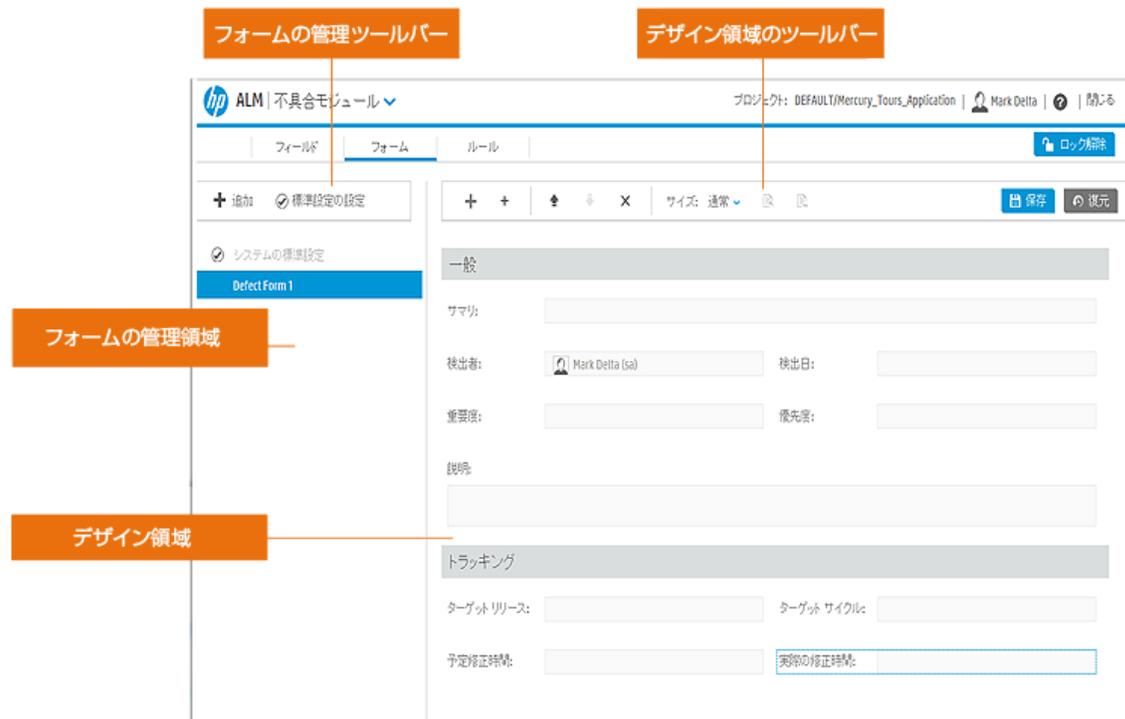
ビジネス・ルールを使用すると、どのフォームをいつ使用するかを設定できます。「[ビジネス・ルールの使用](#)」を参照してください。



運用環境への移行

各モジュールのフォームとルールをエクスポートし、運用環境で使用するプロジェクトにインポートしてください。詳細については、「[ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行](#)」を参照してください。

フォーム・デザイナーの主な機能



[フォーム デザイナー]では、次の機能を実行できます。

- フォームの管理領域では、既存のフォームの表示、フォームの追加、フォームの削除、標準設定フォームの設定を行います。
- デザイン領域では、フォームへのフィールドの追加、セクションへの分割を行います。
- デザイン領域のツールバーでは、フィールドの表示プロパティの設定と編集を行います。
- デザイン領域のフィールドを選択し、デザイン領域のツールバーを使用して、フォームのフィールドの順序変更や削除を行います。

フォームのデザイン

1.  をクリックしてから、右上の[カスタマイズ]を選択します。
2. フォームで使用するモジュールを選択します。

3. 必要に応じて、[ロックして編集]をクリックしてカスタマイズを編集します。
4. [フォーム]をクリックします。
5. フォームの管理領域で、次の手順を実行します。
 - 既存のフォームを選択します。
 - [追加]をクリックして新しいフォームを作成するか、システムの標準設定フォームを選択し、 [複製]をクリックして、システムの標準設定フォームのコピーを作成します。その後、コピーを変更できます。

ヒント: 新規作成の場合は、フォームを一意に特定できる名前を指定してください。

6. デザイン領域で、[フィールドの追加]ボタン、[セクションの追加]ボタンを使用して、フィールドとセクションを追加します。

フィールドの追加:

- [入力して検索]ボックスでフィールドを検索します。
- リストからセクションを選択するか、新しいセクションを作成して、フィールドにセクションを関連付けます。
- フィールドは、現在選択しているフィールドの後に追加されます。
- フィールドを追加または編集する場合、[サイズ]ドロップダウンの[通常]または[全体]を選択します。この設定は、そのフィールドが行全体を占めるのか、ALM Web クライアントで他のフィールドと並べられるかを決定します。
- フィールドの追加が完了したら、[フィールドの追加]をもう一度クリックして、リストを閉じます。

必須フィールドの追加と削除:

- すべて必須フィールドをフォームに追加する必要があります。ALM Web クライアントでは、必須フィールドが自動的にフォームに追加されるようになっています。フォーム上の必須フィールドは移動できますが、削除することはできません。
7. デザイン領域のツールバーで、フィールドまたはセクションの属性を変更します。たとえば、[サイズ]を[通常]または[全体]に設定すると、フィールド(メモ以外)のサイ

ズをフォームの半分またはフォーム全体に設定できます。

ヒント: デザイン領域のツールバーを使用して、次の操作を行うこともできます。

- フィールドの順序変更
- フィールドの削除
- セクションの削除(フィールドの有無を問わず)
- フィールド間の移動

8. [ロック解除]をクリックして、その他のユーザがカスタマイズの値を変更できるようにします。

フォームの削除

1.  をクリックしてカスタマイズを開きます。
2. フォームで使用するモジュールを選択します。
3. 必要に応じて、[ロックして編集]をクリックしてカスタマイズを編集します。
4. [フォーム]をクリックします。
5. フォームの管理領域で、削除するフォームを選択します。
6. [削除]をクリックします。
7. [ロック解除]をクリックして、その他のユーザがカスタマイズの値を変更できるようにします。

標準設定フォームの設定

1.  をクリックしてカスタマイズを開きます。
2. フォームで使用するモジュールを選択します。
3. 必要に応じて、[ロックして編集]をクリックしてカスタマイズを編集します。
4. [フォーム]をクリックします。

5. フォームの管理領域で、標準設定として指定するフォームを選択します。
6. [標準設定の設定]をクリックします。
7. [ロック解除]をクリックして、その他のユーザがカスタマイズの値を変更できるようにします。

サンプル・フォームを表示するには、「必要なフォームのデザイン」(120ページ)を参照してください。

参照情報

- 「ALM Web クライアントのカスタマイズ」(73ページ)
- 「ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行」(112ページ)
- 「ルールとフォームのインポートおよびエクスポート」(119ページ)のFAQ

フォームのFAQ

フォームの使用についてよくある質問を紹介します。

ヒント: 追加したい質問や答えがある場合は、sw-doc@hp.com まで電子メールをお送りください。

作成とデザイン

システムの標準設定フォームを編集できません。

システムの標準設定フォームは読み取り専用フォームです。このため、常にこれらの標準設定に戻ることができます。このフォームを複製 ( > [複製]) して、これらの標準設定に基づく新しいフォームを変更できます。

フィールドを削除できません。

- フィールドがエンティティの必須フィールドである場合、そのフィールドは削除できません。
- システムの標準設定フォームを使用している場合、一切変更できません。

システムの標準設定フォームは読み取り専用フォームです。このため、常にこれらの標準設定に戻ることができます。このフォームを複製( > [複製])して、これらの標準設定に基づく新しいフォームを変更できます。

参照情報

- ・「フォームのデザインと管理」(76ページ)

ビジネス・ルールの使用

管理者 : ALM Web クライアント管理者は、ALM Web クライアントでのエンド・ユーザのエクスペリエンスをビジネス・ルールを使用してカスタマイズできます。

ビジネス・ルールの使用方法の基本に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

企業ポリシーを徹底するために連携するビジネス・ルール・セットのデザイン方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

管理者によるビジネス・ルールのデザイン方法

カスタマイズ: ビジネス・ルール

管理者は、組織ポリシーの範囲、ワークフローの指示、アプリケーションのデザイン、開発、テストのライフサイクルでユーザが遭遇するさまざまな状況への対応を行うビジネス・ルールの作成および管理を担当します。

<div data-bbox="230 1272 305 1318"> <p>定義</p> </div> <div data-bbox="230 1331 305 1377"> <p>ステージ</p> <p>プロジェクト 内のルールをステージごとの適用でデザインすることを検討してください。こうすると、既存のルールの進化中も、ユーザは作業を続行できます。</p> </div> <div data-bbox="230 1430 305 1476"> <p>計画</p> <p>各モジュールについて、各タイプのユーザがそのニーズを精製してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ユーザのワークフローはどのようなものか。 たとえば、開発者が 不具合 内に記入している場合、利用可能なステータスはテスト担当者が見られるステータスとは異なるはずです。 各ユーザはどのような状況で連絡が来るか。たとえば、テスト担当者がある不具合が解決されたかどうかを知りたい場合など。 <p>さまざまなタイプのユーザから話を聞いて、そのニーズを精製してください。</p> </div> <div data-bbox="230 1591 305 1638"> <p>関係エンティティの作成</p> <p>ビジネス・ルールはアプリケーション・ライフサイクルの範囲に限定され、その範囲にその他のエンティティも活用できます。たとえば、ユーザに提示されるリスト欄、または新しい条件 内 や不具合の作成時にユーザに提示されるフィールドを参照できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザがデータ入力に必要とする任意のフォームを作成します。詳細については、「フォームのデザインと管理」を参照してください。 ALMデスクトップ・クライアント・カスタマイズでユーザ・リスト、ユーザ定義フィールド、HP Development Client - スタートアップなどの他の関係エンティティを作成します。詳細については、「HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド」を参照してください。 </div> <div data-bbox="230 1738 305 1785"> <p>ビジネス・ルールの作成</p> <p>ルールを作成するが、既存の類似のルールを複製できます。</p> </div>	<div data-bbox="662 1272 737 1318"> <p>実行</p> </div> <div data-bbox="662 1331 737 1377"> <p>ビジネス・ルールの順序付け</p> <p>リストの中でのルールの順序は、アクションの実行順序に影響を与えます。ルールの複雑なニーズに合うようは複雑な順序でリストされていることを確認してください。</p> </div> <div data-bbox="662 1430 737 1476"> <p>適用範囲への移行</p> <p>各モジュールのフォームとルールをエクスポートし、適用範囲で使用するプロジェクトにインポートしてください。詳細については、「ルールとフォームのステージングおよび適用範囲への移行」を参照してください。</p> </div>
---	--

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールのアクティブ化とパフォーマンス」\(87ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90ページ\)](#)
- [「ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行」\(112ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールのFAQ」\(115ページ\)](#)
- [「サンプル・ビジネス・ルール」\(119ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)

ビジネス・ルールについて

 **管理者** : ビジネス・ルールは ALM Web クライアント ユーザ・インタフェースをカスタマイズし、ユーザが実行できるアクションを制御します。管理者はビジネス・ルールを作成することによって、組織、部門、グループの各レベルでのポリシーをプロジェクトごとに適用および実施することが可能になります。

注: ALM Web クライアントのビジネス・ルールと ALM デスクトップ・クライアントのワークフローは、異なる機能を持っています。ビジネス・ルール機能とワークフロー機能は、組み合わせて使用できません。

ビジネス・ルールでは、アクションと通常条件を指定します。アクションとは、指定した条件が満たされた場合に実行する処理です。

アクション

- ほとんどのアクションは、フィールドに影響を与えます。このようなアクションは一般的に、組織レベルのポリシーを実施します。次に例を示します。
 - フィールドを、必須フィールドまたはオプション・フィールドにする。
 - フィールドを読み取り専用または編集可能にする。
 - フィールドのルックアップ・リストの値を別のルックアップ・リストまたはルックアップ・リストのサブセットに変更する。
 - エンティティの作成または変更時に、フィールドの標準設定値を設定する。

- 別のフィールドの値が変更された場合に、フィールドの値を設定する。
 - エンティティが作成、変更、削除された場合に、電子メールを送信する。
- アクションにはフォームを操作するものもあります。たとえば、エンティティの追加や編集用に、ユーザが別のフォーム・レイアウトを選択できるようにするアクションなどがあります。このようなアクションは、ユーザビリティに関連します。

条件

条件が満たされると、ルールのアクションが実行されます。条件の指定には、フィールドの値や、ユーザが所属するグループを使用できます。

値の設定や電子メールの送信など、独自のタイミング定義があるアクションについては、条件を指定する必要はありませんが、これを行うことは可能です。

ALM Web クライアントが複雑な条件を評価するのは、条件が True または False と評価されるまでに限られ、その後残りの複雑な条件を引き続き評価することはありません。

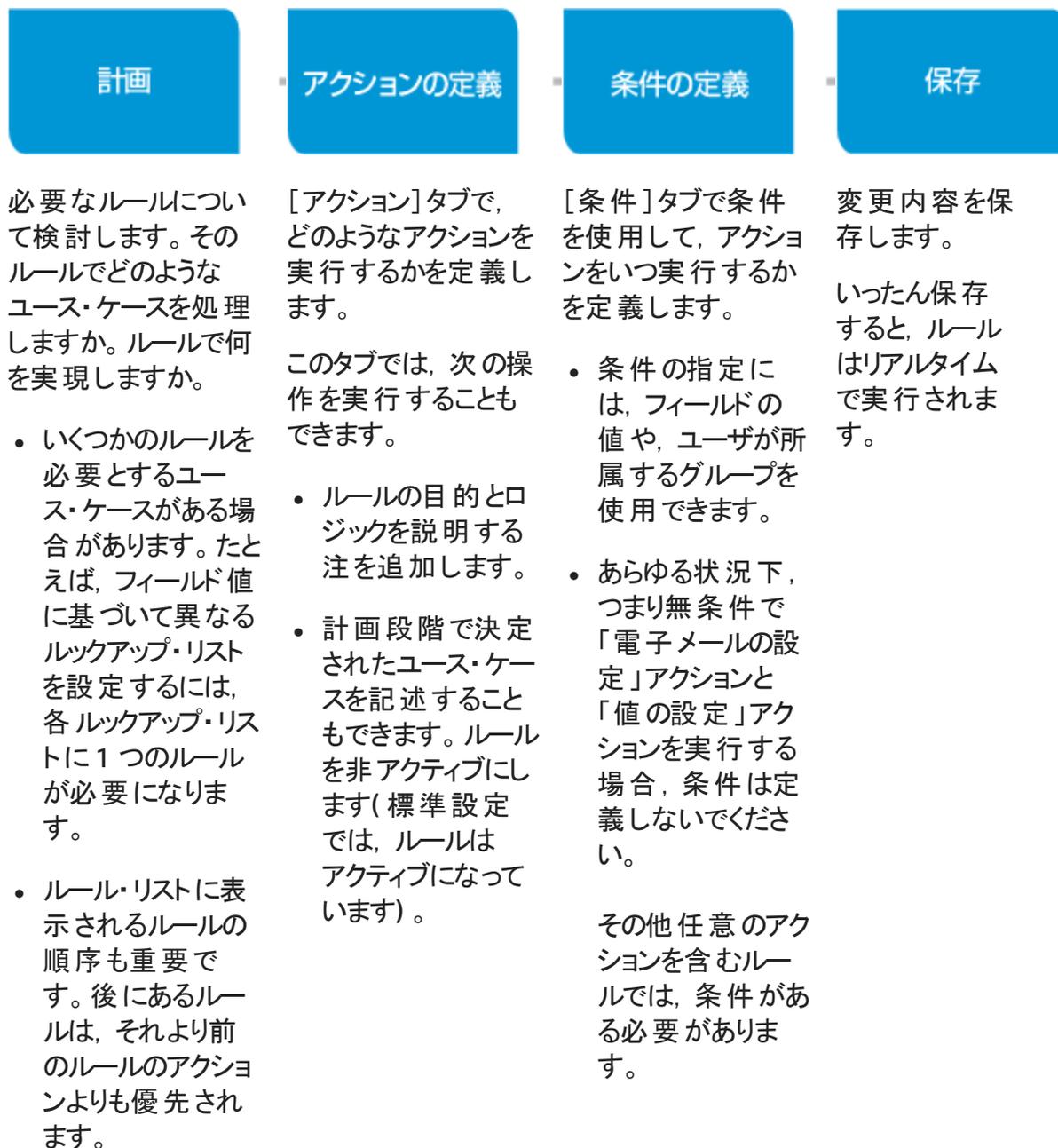
- ALM Web クライアントが OR 条件を評価し、条件の最初の部分が True と評価された場合、引き続き条件の 2 番目の部分を評価する必要はありません。この複雑な条件は満たされています。
- ALM Web クライアントが AND 条件を評価し、条件の最初の部分が False と評価された場合、引き続き条件の 2 番目の部分を評価する必要はありません。この複雑な条件は満たされていません。

ヒント: ALM Web クライアントが、ルール定義で、存在しないために処理できないフィールドに直面した場合、条件が False と評価される可能性があります。プロジェクトからフィールドが削除されたことが原因である場合もあります。

しかし、これがエラーではなく、組織のポリシーを実装するために必要なロジックの一部である状況があります。

たとえば、異なる要件タイプには異なるフィールドがあるとします。条件を定義する際に、一部の要件タイプでは利用できないフィールドを参照し、処理中の要件タイプにそのフィールドがない場合、この条件は満たされません。この場合のベスト・プラクティスは、対象の要件タイプの場合も考慮して条件を定義することです。たとえば、FAQ の「[現在、異なるフィールドを持つ異なる要件タイプに対するルールを定義しています。定義した条件は、要件タイプを考慮に入れていにもかかわらず、失敗します。その理由を教えてください。](#)」(118ページ)を参照してください。

ルールの使用方法



作成可能なルールの例

ルックアップ・リストの切り替え

要件の優先度の取りうる値は、要件タイプに応じて異なる場合があります。要件タイプごと異なるルックアップ・リストを割り当てるルールを作成できます。

条件: [要件タイプ]フィールドの値が特定の値である場合

アクション: 要件の[優先度]の取りうる値に応じたルックアップ・リストを使用します。

ルックアップ・リストのサブセットの設定

現在の製品に応じて、特定のリリースが利用可能です。製品に基づいて、現在のルックアップ・リストのサブセットのみ利用可能にするルールを作成できます。

条件: [製品]フィールドの値が特定の値である場合

アクション: その製品に関連する[リリース]の値を選択します。

フィールドを必須にする

不具合のステータスが[開く]の場合、その不具合には開発者が割り当てられています。したがって、[責任者]フィールドが空白であるのは適切ではありません。

条件: [ステータス]フィールドが[開く]の場合

アクション: [責任者]フィールドを必須フィールドにします。

フィールドの標準設定値の設定

要件を作成する場合、特定のフィールドが標準設定値に設定されることを確認します。

条件: あらゆる状況下

アクション: ステータスが[カバー済み]フィールドを[カバーされない]に設定します。

電子メールの送信

不具合を別の開発者に再割り当てする場合、その開発者に通知されることを確認します。

条件: 不具合の[責任者]フィールドが変更される場合

アクション: 電子メールを新しい[責任者]に送信します。

フォームの選択

テスト担当者が不具合を作成してバグ報告をする場合、組織レベルのポリシーによって、テスト担当者に[サマリ]、[説明]、[優先度]、[重要度]の各フィールドの表示と編集を許可します。

同様に、開発者が不具合の修正を開始する際には、開発者に[ステータス]、[ターゲット サイクル]、[ターゲット リリース]の各フィールドの表示と編集を許可します。

次の2つのルールを定義します。

- **ルール1:** 開発者用のフォームを設定します。

条件: 現在のユーザが[開発者]グループに所属する場合

アクション: 開発者用のフォームを使用します。

- **ルール2:** テスト担当者用のフォームを設定します。

ユーザのグループ 

条件: 現在のユーザが[テスト担当者]グループに所属する場合

アクション: テスト担当者用のフォームを使用します。

参照情報

- [「ビジネス・ルールのアクティブ化とパフォーマンス」\(87ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)
- [「フォームのデザインと管理」\(76ページ\)](#)

ビジネス・ルールのアクティブ化とパフォーマンス

本項では、どのルールのアクションを実行するか、およびそのアクションをいつ実行するかをALM Web クライアントが決定する方法について説明します。グリッド内のルールの順序のもつ意味についても説明します。

- [「ルールの条件が評価され、ルールのアクションが実行されるのはいつですか。」\(88ページ\)](#)

- 「ルールがグリッド内でリストされている順序はルールの実行方法に影響を与えますか。」(89ページ)
- 「組織には多くのルールがあります。これらのルールをグリッド内でリストする方法について、何かヒントはありませんか。」(89ページ)

ルールの条件が評価され、ルールのアクションが実行されるのはいつですか。

ほとんどのルールは継続的に評価され、アクションは必要に応じて実行されます。その他のルールは、特定のイベントの発生後に評価されます。

ALM Web クライアントでは、次の2つのうちのいずれかの方法で、ルールの条件を評価し、ルールのアクションを実行します。

- ユーザが継続的に作業している場合 : ALM Web クライアントは、アクティブ状態のルールの条件が満たされているかどうかをチェックします。条件が満たされている場合、ルールのアクションが実行されます。ほとんどのルールはこのカテゴリに該当します (読み取り専用ルール、フォームを使用ルールなど)。
- 特定のイベントが発生する場合 : これらのルールのアクションが実行されるには、アクティブ状態のルールの条件を評価して、条件が満たされているかどうかを確認するだけでなく、特定のイベントが発生する必要もあります。これらのイベントには、新規エンティティの作成、既存のエンティティの削除、既存のエンティティの変更が含まれます。

注: 次のタイプのルールを定義する場合、条件を指定する必要はありません。イベントが発生したときに、他のいかなる制約もなしにアクションが実行されます。

例:

- 値設定ルール: これらのルールは、エンティティの作成または変更時にフィールドの値を変更します。該当する操作が開始されるとすぐに、これらのルールのアクションが実行されます。
- 電子メールルール: これらのルールは、エンティティが作成、変更、削除された場合に電子メールを送信します。これらのルールのアクションは、作成、変更、削除が完了すると実行されます。

注: ツリー内のエンティティの移動は、エンティティの変更とは見なされません。

注: 必須フィールドまたは読み取り専用フィールドをルール の条件に指定する際には、同時にアクティブ化できるルールは1つに限定されます。たとえば、[優先度]フィールドを必須フィールドにするルールと、[優先度]フィールドをオプション・フィールドにするルールがある場合、この2つのルールを同時にアクティブ化することはできません。この2つのルールを作成することは可能ですが、両方ともアクティブ化することはできません。詳細については、「[ルールのロジックが競合する場合、どのように処理されますか。](#)」(116ページ)を参照してください。

標準設定では、ルールは定義した時点でアクティブになります。

ヒント: ルールを定義した後非アクティブにするには、[ルール]リストでルールを選択し、[オフ]をクリックします。

ルールがグリッド内でリストされている順序はルールの実行方法に影響を与えますか。

エンティティが複数のルールの条件を満たす場合、グリッド内でのルールのリスト順に、そのエンティティ上でルールの各アクションが実行されます。

例

1番目のルールは、要件が新規(編集モード=新規)であるかどうかをチェックし、新規であれば入力フォームを[TheAddForm]に設定します。このフォームを使用すると、ユーザは通常後でしか分からない詳細情報に惑わされず、要件の基本情報を入力できます。

リストの次のルールは、要件がすでに存在していて、編集中(Not(編集モード=新規))かどうかをチェックします。この場合、ルールは入力フォームを[TheEditForm]に設定します。

3番目のルールは、要件の[優先度]が1-致命的であるかどうかをチェックし、そうである場合、フォームを[TheCriticalForm]に設定します。このフォームでは、その要件が致命的である理由をする説明する追加フィールドを指定する必要があります。このルールは、2番目のルールと矛盾します。最後に実行されるルールであるため、要件が新規でなくても、その結果が保持されるためです。

組織には多くのルールがあります。これらのルールをグリッド内でリストする方法について、何かヒントはありませんか。

その場合、ALM Web クライアントがルールを処理する方法に従って、ルールのリストを編

成すると便利です。ルールアクションの実行条件に影響を与えず、全体像を把握するときに役に立ちます。

次に示す順序も、ALM Web クライアントが「バックグラウンド」でルールを処理する方法に最も近いものです。

1. 最初に、特定のイベントの後に発生するルールをリストします。
 - a. エンティティの作成中にフィールド値を変更するルール。
 - b. エンティティの変更、削除時にフィールド値を変更するルール。
 - c. 電子メールを送信するルール。
2. その他のすべてのルールをリストします。これらは、継続的に評価および実行されるルールです。

ヒント: すべてのシナリオをカバーするために、さまざまなルックアップ・リストとサブリストを設定する多くのルールがあると思われます。最後にこれらをまとめてグループ化すれば、読みやすくなります。

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)
- [「フォームのデザインと管理」\(76ページ\)](#)

ビジネス・ルールの定義

ALM Web クライアント管理者は、ビジネス・ルールをプロジェクトごとに作成できます。

ヒント: ステージング領域でビジネス・ルールを準備し、実際のプロジェクトにインポートすると、ルールを運用環境へ移行できます。詳細については、[「ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行」\(112ページ\)](#)を参照してください。

1.  をクリックしてから[カスタマイズ]をクリックします。
2. ルールを定義するモジュールを選択します。
3. 必要に応じて, [ロックして編集]をクリックしてカスタマイズを編集します。
4. [ルール]をクリックします。既存のルールがグリッドに表示されます。

ヒント:

- 定義に誤りがあるルールには  が表示され, 問題のあるフィールドが赤い枠で示されます。
- グリッドに表示されるルールをフィルタリングできます。グリッドの上部にあるテキスト・ボックスを使用して, テキストを入力します。[アクション], [条件], [注釈]にこのテキストが含まれているルールのみが, グリッドにリストされます。フィルタをクリアするには, テキスト・ボックスのテキストを消去します。

5. [ルールの追加]をクリックするか, ルールを選択して[ルールの複製]をクリックします。
6. ビジネス・ルールのアクションと条件を設定します。「[アクションの定義](#)」(92ページ)および「[条件の定義](#)」(97ページ)を参照してください。

ヒント: [値の設定]または[電子メールの送信]のいずれかのアクションを含むルールをあらゆる状況下で実行する場合, 条件を設定する必要はありません。アクションを定義し, 次のステップに進みます。

ルールが[ルール]リストに追加されます。追加されたルールはルール・リストの最後に追加されます。複製されたルールは選択したルールの後に追加されます。

ヒント: グリッド内のルールを検索できます。グリッドの上部にあるテキスト・ボックスに文字列を入力します。アクション, 条件, 注釈にこの文字列が含まれていないルールは, 非表示になります。

7. 標準設定では, ルールはアクティブになっています。詳細については, 「[ビジネス・ルールのアクティブ化とパフォーマンス](#)」(87ページ)を参照してください。
8. ルールの順序を指定します。[ルール]リスト内のルールの順序は, [上へ]と[下へ]

で変更できます。

ヒント: 実行時に, リストの最後にあるルールアクションは, それより前のルールよりも優先されます。詳細については, 「[ルールのロジックが競合する場合, どのように処理されますか。](#)」(116ページ)を参照してください。

9. [変更の保存]をクリックします。
10. [ロック解除]をクリックして, その他のユーザがカスタマイズの値を変更できるようにします。

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」](#)(83ページ)
- [「ビジネス・ルールのアクティブ化とパフォーマンス」](#)(87ページ)
- [「アクションの定義」](#)(92ページ)
- [「条件の定義」](#)(97ページ)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」](#)(73ページ)
- [「フォームのデザインと管理」](#)(76ページ)

アクションの定義

ルールでは, 次のアクションを定義できます。

- フォームを使用して, 要件または不具合の詳細レイアウトを設定します。

ヒント: フォームは, ルールの作成前に ALM Web クライアントで定義しておく必要があります。

- フィールドを, 必須フィールドまたはオプション・フィールドにします。
- フィールドを読み取り専用または編集可能にします。
- 電子メールを送信します。
- 標準設定値などの値を設定します。

- フィールドのルックアップ・リストを別のリストまたはルックアップ・リストのサブセットに変更します。

ヒント: ルックアップ・リストは、ルール作成前にALM デスクトップ・クライアントで定義しておく必要があります。

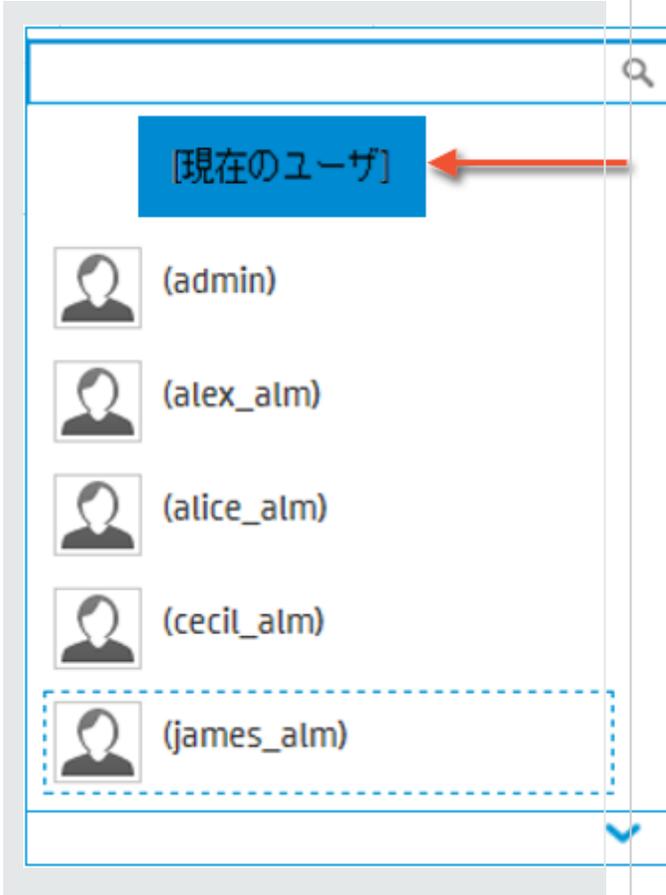
アクションの定義:

1. [アクション] タブをクリックします。
2. [ルールで実行するアクションを定義します。](#)

実行するアクション	入力内容	サンプルの参照
必須にする	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 必須にするフィールド。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「標準設定のフォームと値の設定」(119 ページ)
オプションにする	<ul style="list-style-type: none"> ▪ オプションにするフィールド。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「標準設定のフォームと値の設定」(119 ページ)
読み取り専用にする	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 読み取り専用にするフィールド。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「標準設定のフォームと値の設定」(119 ページ)
編集可能にする	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 編集可能にするフィールド。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「標準設定のフォームと値の設定」(119 ページ)

実行するアクション	入力内容	サンプルの参照
別のルックアップ・リストを使用する	<ul style="list-style-type: none"> ▪ リストを変更するフィールド。 ▪ 使用する事前定義済みリストの名前。このリストは、ALM デスクトップ・クライアント・カスタマイズで事前に定義しておく必要があります。 ▪ ルックアップ・リストから特定の値を選択すると、ルックアップ・リスト内のオプションを制限できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ユーザのプロジェクトに基づくステータスの選択肢の制限」(135ページ)
フォームを使用	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [カスタマイズ] > [フォーム] で作成された事前定義済みのフォーム・レイアウト。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 「不具合のライフサイクルの遷移」(132ページ)

実行するアクション	入力内容	サンプルの参照
<p>フィールド値の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 値の設定を発生させるトリガ。エンティティの作成時、またはエンティティ・フィールドの変更時に設定できます。これはタイミングと呼ばれます。 ■ 値を設定するフィールド。 ■ 新しい値または空。 <p>日付の値を設定する場合、[[変更日]]オプションで、日付が変更が行われた日付に設定されます。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;"> <p>ヒント: ユーザをリストするフィールドを選択する場合、現在ログインしているユーザを表す特殊ユーザである[[現在のユーザ]]を選択できます。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「標準設定のフォームと値の設定」(119ページ) ■ 「優先度に対する変更の処理」(129ページ)

実行するアクション	入力内容	サンプルの参照
		
<p>電子メールの送信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子メールの送信を発生させるトリガ。エンティティの作成時、削除時、変更時に送信するよう設定できます。これはタイミングと呼ばれます。 ■ 受信者。プロジェクトで定義されたユーザ、または名前がフィールドのルックアップ・リストに表示されるユーザ名。 ■ 電子メールの件名。 <p>(電子メールの本文はALM Web クライアントによって自動生成されます。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「不具合のライフサイクルの遷移」(132ページ) ■ 「優先度に対する変更の処理」(129ページ)

3. 注を追加し、ルール目的とロジックについての説明を記載します。このようなルールのドキュメント化の作業は、ビジネス・ルール全体を管理する上で非常に重要です。
4. ルールの条件を設定するには、「[条件の定義](#)」(97ページ)を参照してください。ルールに[電子メールの設定]または[値の設定]アクションが含まれている場合、条件の設定はオプションになります。

参照情報

- 「[ビジネス・ルールについて](#)」(83ページ)
- 「[ビジネス・ルールの定義](#)」(90ページ)
- 「[ALM Web クライアントのカスタマイズ](#)」(73ページ)
- 「[フォームのデザインと管理](#)」(76ページ)

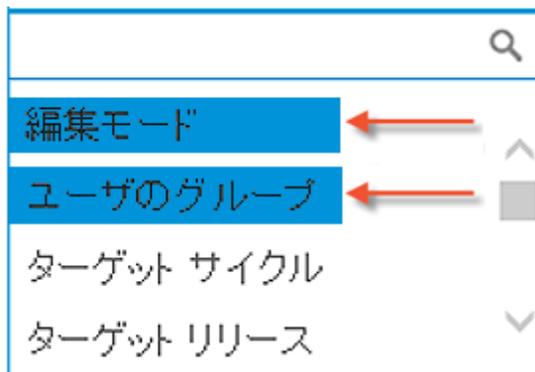
条件の定義

1. [条件]タブをクリックします。
2. [条件を作成](#)します。

注: 定義できる条件は1つのみです。複雑な条件も指定できます。

- a. [フィールド]ボックスで、条件または特殊な状況の基となるフィールドを選択します。

ヒント: フィールド名を対応するボックスに入力して検索し、リストから選択します。



特殊な状況には次のようなものがあります。

- **編集モード**: エンティティがすでに存在していて現在編集中心であるか、または現在のエンティティが新規であるかどうか条件に基づきます。

新規の場合のチェック方法: **編集モード = 新規**

既存の場合のチェック方法: **Not(編集モード = 新規)**

サンプルの参照:

- 「要件クイック追加フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ)
- 「ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ)
- 「プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義」(126ページ)

- **ユーザのグループ**: 条件がALMデスクトップ・クライアントのカスタマイズで定義したように、現在のユーザが特定のユーザ・グループに属しているかどうかに基づいている場合。

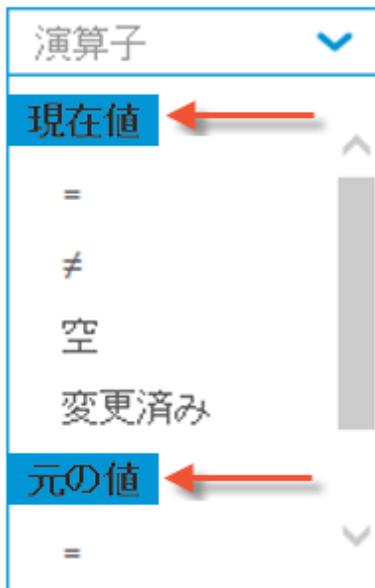
サンプルの参照:

- 「ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ)
- 「プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義」(126ページ)
- 「ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限」(133ページ)

ヒント: 条件を他のモジュールのフィールドの値 (リリース・モジュールの[ターゲット リリース] や[ターゲット サイクル] など) に基づかせることができます。

b. 次のボックスでは演算子を選択します。

フィールドに応じて選択できる演算子が異なります。たとえば、日付フィールドには、テキスト・フィールドと異なる演算子が表示されます。

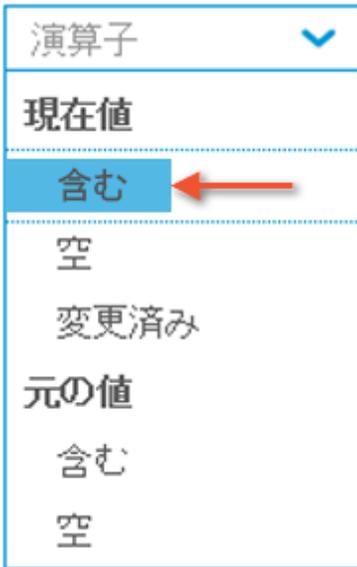


フィールドの元の値 (エンティティに最初にアクセスしたとき) またはフィールドの現在の値 (エンティティに最初にアクセスしたとき以降にフィールド値を変更したため) を評価する条件を設定できます。

- 条件を元の値に基づかせるには、演算子ドロップダウン・リストの見出し[元の値]の下にある演算子を選択します。
- 条件を現在の値に基づかせるには、演算子ドロップダウン・リストの見出し[現在の値]の下にある演算子を選択します。

サンプルの参照: 「不具合が緊急優先度になった場合の開発者への警告」(132ページ)

一般的な演算子(=, <, > など)に加えて, 一部のフィールドでは次のような特殊な演算子がサポートされています。

<p>含む</p>	<p>フィールドにリストから選択した値が含まれているかどうかをチェックします。</p> 
<p>含む</p>	<p>[ユーザのグループ]にリストから選択したユーザ・グループが含まれているかどうかをチェックします。</p> <p>サンプルの参照:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ) ○ 「プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義」(126ページ) ○ 「ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限」(133ページ)

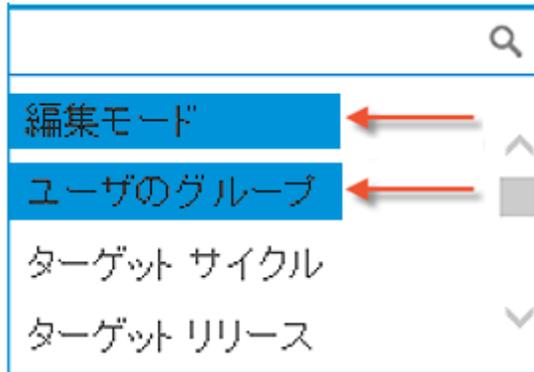
<p>空</p>	<p>フィールドが空かどうかをチェックします。</p> 
<p>変更済み</p>	<p>フィールドが元の値から変更されているかどうかをチェックします。この演算子は、新しいエンティティでは利用できません。</p> 

c. [値]ボックスに値を入力します。リストから値を選択するか、値を入力します。

ヒント: 値を対応するボックスに入力して検索し, リストから選択します。

- a. [フィールド]ボックスで, 条件または特殊な状況の基となるフィールドを選択します。

ヒント: フィールド名を対応するボックスに入力して検索し, リストから選択します。



特殊な状況には次のようなものがあります。

- **編集モード**: エンティティがすでに存在していて現在編集中心であるか、または現在のエンティティが新規であるかどうか条件に基づきます。

新規の場合のチェック方法: **編集モード = 新規**

既存の場合のチェック方法: **Not(編集モード = 新規)**

サンプルの参照:

- 「要件クイック追加フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ)
- 「ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ)
- 「プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義」(126ページ)

- **ユーザのグループ**: 条件がALMデスクトップ・クライアントのカスタマイズで定義したように、現在のユーザが特定のユーザ・グループに属しているかどうかに基づいている場合。

サンプルの参照:

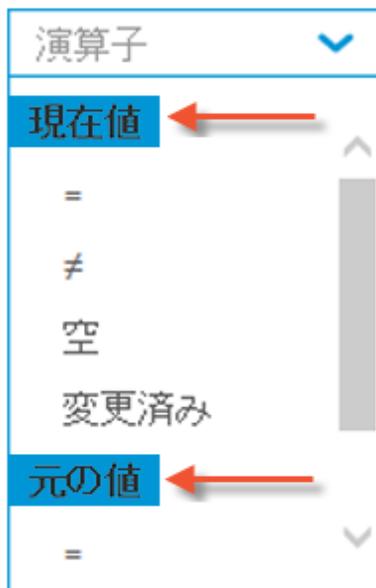
- 「ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ)
- 「プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義」(126ページ)
- 「ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限」(133ページ)

ヒント: 条件を他のモジュールのフィールドの値 (リリース・モジュールの[ターゲット リリース] や[ターゲット サイクル] など) に基づかせることができます。

The screenshot shows a dialog box titled "ルールの追加" (Add Rule). It has two tabs: "アクション" (Action) and "条件" (Condition). The "条件" tab is selected. Below the tabs is a table with one row. The first cell of the row contains the number "1". The second cell contains a text input field with "ターゲット リリース" (Target Release) entered. The third cell contains a dropdown menu with "含む" (Contains) selected. To the right of the table is a search dropdown menu. The search text is "リリースの検索" (Search Releases). The dropdown list shows "Releases" selected, "Mercury Tours Application" expanded, and "Release 10.5" listed below it. At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "クリア" (Clear).

b. 次のボックスでは演算子を選択します。

フィールドに応じて選択できる演算子が異なります。たとえば、日付フィールドには、テキスト・フィールドと異なる演算子が表示されます。



フィールドの元の値(エンティティに最初にアクセスしたとき)またはフィールドの現在の値(エンティティに最初にアクセスしたとき以降にフィールド値を変更したため)を評価する条件を設定できます。

- 条件を元の値に基づかせるには、演算子ドロップダウン・リストの見出し[元の値]の下にある演算子を選択します。
- 条件を現在の値に基づかせるには、演算子ドロップダウン・リストの見出し[現在値]の下にある演算子を選択します。

サンプルの参照:「不具合の修正日の設定」(136ページ)

一般的な演算子(=, <, > など)に加えて、一部のフィールドでは次のような特殊な演算子がサポートされています。

<p>含む</p>	<p>フィールドにリストから選択した値が含まれているかどうかをチェックします。</p>
-----------	---

<p>含む</p>	<p>[ユーザのグループ]にリストから選択したユーザ・グループが含まれているかどうかをチェックします。</p> <p>サンプルの参照：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義」(125ページ) ○ 「プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義」(126ページ) ○ 「ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限」(133ページ)
<p>空</p>	<p>フィールドが空かどうかをチェックします。</p> 

<p>変更済み</p>	<p>フィールドが元の値から変更されているかどうかをチェックします。この演算子は、新しいエンティティでは利用できません。</p> <div data-bbox="576 373 938 940" style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>演算子 ▼</p> <p>現在値</p> <p>=</p> <p>≠</p> <p>空</p> <p style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">変更済み</p> <p>元の値</p> <p>=</p> </div>
--------------------	--

c. [値]ボックスに値を入力します。リストから値を選択するか、値を入力します。

ヒント: 値を対応するボックスに入力して検索し、リストから選択します。

3. 必要に応じて、[ゲート]ボックスで[AND]または[OR]を選択し、+をクリックして、条件に式を追加します。

必要に応じて、[ゲート]ボックスで[AND]または[OR]を選択し、+をクリックして、条件に式を追加します。

ヒント: 括弧を使用し、さらに複雑な式を作成できます。括弧を挿入したい場所にマウス・カーソルを置き、括弧が現れたらそれをクリックします。

:挿入前

1 フィールド 演算子

マウス・カーソルを置く:

1 (フィールド 演算子) +

挿入後:

1 (フィールド 演算子)

括弧のネストも可能です。

括弧を選択すると、それに対応する開き括弧または閉じ括弧も強調表示されます。

フィルタの構築方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

条件の指定では、[説明]ボックスに、条件のテキスト表現が表示されます。

条件にエラーがあると、ルールを保存できません。エラーには、構文エラー(括弧がペアになっていないなど)やコンテキスト・エラー(削除対象のユーザ定義フィールドまたはフォームが参照されているなど)があります。

4. [OK]をクリックします。

例

期待される結果	アクション	フィールド	フォーム/リスト/ タイミング	条件
ステータスが[進行中]のすべての不具合で、[責任者]を設定します(すでに進行中であれば、必ず責任者が決まっているはずです)。	必須にする	責任者	該当なし	ステータスが[新規]ではない

期待される結果	アクション	フィールド	フォーム/リスト/ タイミング	条件
<p>開発者は要件の[ターゲット サイクル]を切り替えることはできませんが、要件を別の[ターゲット リリース]に割り当てる権限はありません。</p>	<p>編集可能にする</p>	<p>ターゲット・リリース</p>	<p>該当なし</p>	<p>現在のユーザ・グループに開発者が含まれている</p>
<p>ある特定の製品について、プロジェクト・マネージャは優先度として[高い]と[低い]の2つのみを使用することを決定しました。他のリリースには5つの優先度があります。ユーザは、[優先度]の値に、標準設定ではなく、このより単純な2つの値のセットを使用します。</p>	<p>別のルックアップ・リストを使用する</p>	<p>優先度</p>	<p>リストを選択する</p>	<p>製品は「MyProduct」に等しい</p>

期待される結果	アクション	フィールド	フォーム/リスト/ タイミング	条件
<p>修正済みの不具合を正式にクローズする権限を持つのは、テスト担当者とプロジェクト・マネージャのみです。テスト担当者またはプロジェクト・マネージャが修正済みの不具合を開くと、CloseDefect フォームが開きます。このフォームでは、不具合のクローズに関連するフィールドのみが表示されます。</p>	<p>フォームを使用</p>	<p>該当なし</p>	<p>CloseDefects</p>	<p>(現在のユーザ・グループにテスト担当者が所属する OR 現在のユーザ・グループにプロジェクト・マネージャが所属する) AND ステータスが修正済み</p>

期待される結果	アクション	フィールド	フォーム/リスト/ タイミング	条件
<p>開発者は、不具合に関する作業中に特定のステータス(開く, 修正済み)を選択できません。テスト担当者はすべてのステータスを選択できます。開発者が不具合に関する作業をしている場合、ステータス・リストのサブセットを使用します。</p>	<p>別のロックアップ・リストを使用する</p>	<p>ステータス</p>	<p>リストを選択してから、ステータス(開く, 修正済み)を選択する</p>	<p>現在のユーザ・グループに開発者が含まれている</p>
<p>新規要件を作成している場合、標準設定のリリースは次のリリース、バージョン 6.50 に設定する必要があります。</p>	<p>フィールド値の設定</p>	<p>リストからターゲット・リリース、6.50 を選択します。</p>	<p>タイミング: 新規エンティティの作成時</p>	<p>アクション: 新規エンティティの作成時に、「ターゲット・リリース」の値を「6.50」に設定する</p> <p>条件: Not(編集モード = 新規)</p>

期待される結果	アクション	フィールド	フォーム/リスト/ タイミング	条件
プロジェクト・マネージャでないユーザが要件を削除した場合、電子メールを作成者ユーザとプロジェクト・マネージャ boris に送信します。	電子メールの送信	該当なし	タイミング: エンティティの削除時	アクション: エンティティの削除時に電子メールを作成者と boris に送信する 条件: Not (ユーザのグループにプロジェクト・マネージャが含まれている)

ヒント: サンプル・ルールの完全なセットについては、[「サンプル・ビジネス・ルール」\(119ページ\)](#)を参照してください。

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)
- [「フォームのデザインと管理」\(76ページ\)](#)

ルールとフォームのステージングおよび運用環境への移行

管理者として、プロジェクトに定義した一連のビジネス・ルールを連携させて、組織、部門、グループの各レベルでのポリシーを完全に包括的に実施できるようにします。

これを機能させるために、可能なすべてのユースケースを処理するルールを作成し、ビジネス・ルール・グリッド内で論理的に順序付けて、組織が必要としている成果を確保します。また、ユーザの入力フォームなど、ルールが依存するエンティティも作成します。

ルールとフォームをデザインするためのベスト・プラクティスは、ステージング目的専用で作成されたプロジェクト内でルールとフォームの完全なセットを作成することです。このプロジェクトで、すべてが連携して正しく機能することを確認します。

準備が完了したら、ルールとフォームをステージング・プロジェクトからファイルにエクスポートし、そのファイルを運用プロジェクトにインポートします。

考慮すべき事項

運用環境への移行中にルールが有効性を維持できるように、次のことを考慮します。

- ルールが参照可能なすべてのエンティティが、ステージング・プロジェクトと運用プロジェクトの両方で同一である必要があります。の中には、ユーザ・リスト、要件タイプ、ユーザ定義フィールド、フォーム名などがあります。これらのエンティティの値と名前（たとえば、実際のユーザ名）が一致するようにすることをお勧めします。
- エクスポート・プロセスでは、運用環境にインポートするファイルが作成されます。エクスポートされたファイルを編集しないでください。
- インポートによって、現在運用環境にある既存のすべてのルールとフォームが消去され、より最新のルールとフォームでオーバーライドされます。インポートの前に運用プロジェクトをバックアップしてください。
- インポート時には、次の手順を実行する必要があります。
 - a. 最初に、フォームをインポートします。
 - b. 次に、ルールをインポートします。

ルールとフォームを運用環境に移行する方法

1. ALM デスクトップ・クライアントのサイト管理で、ステージング目的のプロジェクトを作成します。すべてのエンティティが運用プロジェクトのエンティティと同じであることを確認します。プロジェクト作成の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
2. ステージング・プロジェクトの関連する各モジュールの ALM Web クライアント・カスタマイズで、運用プロジェクトのエンティティと一致するフォームとルールを作成します。次に、必要に応じてフォームとルールを変更します。詳細については、「[フォームのデザインと管理](#)」(76ページ) および「[ビジネス・ルールの定義](#)」(90ページ)を参照してください。

3. ステージング・プロジェクトの関連する各モジュールのALM Web クライアント・カスタマイズで、次の手順を実行します。
 - a. [フォーム]タブで、 をクリックします。エクスポートされたフォーム・ファイルを保存します。
 - b. [ルール]タブで、 をクリックします。エクスポートされたルール・ファイルを保存します。
4. 運用プロジェクトをバックアップします。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
5. 運用プロジェクトの関連する各モジュールのALM Web クライアント・カスタマイズで、次の手順を実行します。
 - a. [フォーム]タブで、 をクリックします。エクスポートされたフォーム・ファイルに移動して選択します。
 - b. [ルール]タブで、 をクリックします。エクスポートされたルール・ファイルに移動して選択します。

注意: ルールをインポートする前に、必ずフォームをインポートしてください。

6. ルールをチェックして、無効なもの(赤色で示される)がないか確認し、必要に応じて修正します。

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83ページ\)](#)
- [「アクションの定義」\(92ページ\)](#)
- [「条件の定義」\(97ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)
- [「フォームのデザインと管理」\(76ページ\)](#)

ビジネス・ルールのFAQ

ビジネス・ルールの使用についてよくある質問を紹介します。

ヒント: 追加したい質問や答えがある場合は、sw-doc@hp.com まで電子メールをお送りください。

一般的な内容

カスタマイズ内のどのフィールドも編集できないのはなぜでしょうか。

プロジェクトのカスタマイズで同時に作業できる管理者は1人のみです。右上にある [ロックして編集] をクリックして、フィールドを編集できるかどうかを確認します。できない場合、別のユーザがカスタマイズで作業している可能性があります。ただし、待機中は、カスタマイズ内のすべてのタブとフィールドを表示できます。

一部のフィールドがドロップダウン・リストに表示されないのはなぜですか。

フィールドがドロップダウン・リストに表示されない場合、そのフィールドはサポートされていません。たとえば、要件モジュールのルールを作成する場合、ALM Web クライアントでは、要件の親を選択できません。

ビジネス・ルールとワークフローの機能は同じですか。

いいえ。ALM Web クライアントのビジネス・ルールとALM デスクトップ・クライアントのワークフローは、異なる機能を持っています。ビジネス・ルール機能とワークフロー機能は、組み合わせて使用できません。

ALM デスクトップ・クライアント・ワークフローは、イベントとイベント間のタイミングに基づいて動作します。ワークフロー・アクティビティをトリガするのはイベントです。

特定のビジネス・ルールは、特定のイベントとそのタイミングに基づいてアクティブ化されます(フィールド値の設定ルールや電子メールの送信ルールなど)。ただし、ほとんどのビジネス・ルールは、ALM Web クライアントによって継続的にチェックされるその条件に基づいてアクティブ化されます。条件が満たされると、ユーザの操作やトリガ・イベントが発生しなくても、ルールで指定されたアクションが実行されます。

ビジネス・ルールをサポートするモジュールはどれですか。

ALM Web クライアントの次のモジュールのルールを作成できます。

- 要件
- 不具合

定義したビジネス・ルールはサイト全体に適用されますか。

ビジネス・ルールは、プロジェクトごとに定義します。各プロジェクトに異なるビジネス・ルールを設定できます。

ルールの検証

ALM Web クライアントは、作成したルールを検証しますか。

しています。ALM Web クライアントは次のチェックを行います。

- **構文** : ALM Web クライアントでは、構文が無効な条件が1つでもある場合、ルールは保存されません。たとえば、括弧がペアになっていないと、括弧記号が赤線で示されます。
- **エンティティの欠落** : 以前あったが、今はもう存在しないエンティティをルールが参照している場合(ユーザ定義のフォームがルール作成後に削除された場合など)、ルールはスキップされ、アクションは実行されません。このルールは、非アクティブなルールとして処理されます。

エラーにはなりません。ALM Server のログ・ファイルでスキップされたルールがないか確認してください。

注: フォームなどのエンティティを削除した後、同じ名前でも新しいフォームを作成することは可能です。新しく作成するフォームは、削除したフォームとはまったく異なるものでも問題ありません。この場合、ルールのアクション実行時にエラーは発生しませんが、予期しない結果が発生することがあります。

ルールのロジックが競合する場合、どのように処理されますか。

1つのプロジェクト内にある複数のルールの条件が同時に満たされる可能性があります。これらのルールが競合するアクションを含む場合、ALM Web クライアントはルール・リストで指定された順序に従って処理を行います。つまり、リスト内で前にあるルールより、後にあるルールの方が優先されます。

ルールの順序は、[上へ]ボタンと[下へ]ボタンで変更できます。

例

- 2つのルールが同じフィールドで条件を指定し、その条件が同時に満たされる場合:
 - 1つのルールが[終了日 > December 31st, 2014]という条件を指定し、もう1つのルールが[終了日 < February 1st 2015]という条件を指定しています。終了

日が1月の場合、どちらのルールのアクションが実行されるでしょうか。この場合には、ルール・リスト内の順番が後のルールのアクションが実行されます。

- 2つのルールが異なるフィールドで条件を指定し、条件が同時に満たされる場合：
 - **SetFormForDev** というルールがあります。このルールは、不具合に割り当てられているユーザが開発者グループに属している場合、不具合モジュールのフォームを **DevForm** というフォームに設定します。このフォームには開発者に関連するフィールドが含まれており、テスト担当者とプロジェクト・マネージャのみに関連するフィールドは非表示になります。
 - **SetFormPlanning** というルールがあります。このルールは、不具合の[予定修正時間]が1週間を超える場合、**DevTeamLeadForm** という名前のフォームを不具合モジュールのフォームに設定します。**DevTeamLeadForm** では、特定のリリースとサイクルの不具合の計画とスケジュール設定に関連するフィールドのみを表示します。
 - 開発者チームのリーダーは開発者グループに所属するので、ある不具合について両方の条件が満たされます。
 - ルール・リスト内で **SetFormDev** ルールが **SetFormPlanning** ルールよりも後にある場合、**DevTeamLead** フォームは使用されません。この場合、**SetFormDev** ルールを **SetFormPlanning** ルールより前に移動してください。

条件の処理

条件を評価する場合、条件の基になっているフィールドが検出されても、そのフィールドに値がない場合、ALM Web クライアントはどのように処理しますか。

ALM Web クライアントでは、フィールド・タイプによって値を仮定します。ルールはその仮定の下で通常どおりに評価および処理されます。

注: この仮定は条件を評価するためであり、値が実際にフィールドに割り当てられるわけではありません。

タイプ	仮定される値
Integer	0

タイプ	仮定される値
Date	1970-01-01
String	""(空の文字列)
ルックアップ・リスト	""(空の文字列)

現在、異なるフィールドを持つ異なる要件タイプに対するルールを定義しています。定義した条件は、要件タイプを考慮に入れていないにもかかわらず、失敗します。その理由を教えてください。

異なる要件タイプは異なるフィールドを有している場合があります。条件を定義する際に、一部の要件タイプでは利用できないフィールドを参照し、処理中の要件タイプにそのフィールドがない場合、この条件は満たされません。この場合のベスト・プラクティスは、対象の要件タイプの場合も考慮して条件を定義することです。

ベスト・プラクティス:

```
条件
("要件タイプ" = "要件タイプA" AND "フィールドA" = "a") OR ("要件タイプ" = "要件タイプB" AND "フィールドB" = "b")
```

ワースト・プラクティス:

```
条件
"フィールドA" = "a" OR "フィールドB" = "b"
```

独自のタイミングを持つアクションのルール [電子メールの設定], [値の設定]などのアクションのルール) は、ALM Web クライアントが現在の要件タイプに存在しないフィールドに遭遇し、ユーザが条件の一部として要件タイプを指定できない場合に失敗します。

これらのタイプのルールを処理するには、1 つではなく、2 つのルールを作成します。このようにして、現在の要件タイプに適用されないルールが実行されなければなりません。

ベスト・プラクティス:

#	ステータス	アクション
1	On	"フィールドB" Change時に"フィールドC"値を"c"に設定
2	On	"フィールドC" Change時に"フィールドC"値を"c"に設定

ワースト・プラクティス:

#	ステータス	アクション
1	On	"フィールドB, フィールドA" Change時に"フィールドC"値を"c"に設定

ルールとフォームのインポート およびエクスポート

ルールを運用環境にインポートすると、エラーや訳の分からないメッセージが表示されません。

エクスポート中に作成されたファイルが破損しているか、インポート/エクスポート処理外で手動で編集された可能性があります。エクスポートしなおして、もう一度試してください。

参照情報

- 「ビジネス・ルールの使用」(82ページ)
- 「サンプル・ビジネス・ルール」(119ページ)

サンプル・ビジネス・ルール

本項では、さまざまなモジュールのビジネス・ルールの例について説明します。これらの例は、独自のルールのベースとして使用できます。

各サンプルには、概要を説明するムービーと、ルールを定義するための段階的な指示が含まれています。

ヒント: 共有したいサンプル・ルールがある場合は、sw-doc@hp.com までお寄せください。

標準設定のフォームと値の設定

このサンプルでは、標準設定の値とフォームを設定するルールを作成する方法を紹介します。

- 「必要なフォームのデザイン」(120ページ)
- 「フォームを使用するためのルールの定義」(122ページ)
- 「新規要件を作成するための標準設定値の計画」(122ページ)
- 「標準設定値を設定するためのルールの定義」(123ページ)
- 「新規要件の読み取り専用属性と必須属性の計画」(123ページ)

- [「読み取り専用属性と必須属性を設定するためのルールの定義」\(124ページ\)](#)
- [「ルール・リストのレビュー」\(124ページ\)](#)

ビジネス・ルールの使用方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

必要なフォームのデザイン

要件を作成する場合、ユーザは必要最小限のフィールドを入力し、後で戻って詳細を入力するものと想定してください。この場合、要件クイック追加フォームを使用できません。

要件を編集する場合、ビジネス・アナリストは基本要件フィールドと優先度フィールドに関心があり、プロジェクト・マネージャは要件のスケジュールに役立つフィールド(リリースやサイクルなど)に関心があります。この場合、ビジネス・アナリストとプロジェクト・マネージャのフォームを使用できます。

その他のすべての場合には、システムの標準設定フォームを使用できます。別途指定されていない場合、これが標準設定となります。このため、このフォームのルールを作成する必要はありません。

後で、緊急の特別な要件を処理するために、優先度承認というフォームも使用します。サンプルについては、を参照してください。

ルールを作成する前に、必ずフォームを定義するようにしてください。フォームを確認します。

- [「システムの標準設定フォーム」\(121ページ\)](#)
- [「要件クイック追加フォーム」\(121ページ\)](#)
- [「ビジネス・アナリスト・フォーム」\(121ページ\)](#)
- [「プロジェクト・マネージャ・フォーム」\(122ページ\)](#)

システムの標準設定フォーム

hp Application Lifecycle Management のカスタマイズ | 要件モジュール

プロジェクト: DEFAULT/Project_1 | alex_alm | 閉じる

タイプ フィールド フォーム ルール

追加 標準設定の修正

システムの標準設定

- 要件クイック追加
- 優先度承認
- ビジネスアナリスト
- プロジェクトマネージャ

一般

名前:

要件タイプ: 親要件:

製品: 優先度:

レビュー済み: ターゲットリリース:

ターゲットマイルストーン: 連絡かパレロジステ...:

更新日時: 作成者:

作成日:

説明:

要件クイック追加フォーム

hp Application Lifecycle Management のカスタマイズ | 要件モジュール

プロジェクト: DEFAULT/Project_1 | alex_alm | 閉じる

タイプ フィールド フォーム ルール

追加 標準設定の修正

システムの標準設定

- 要件クイック追加
- 優先度承認
- ビジネスアナリスト
- プロジェクトマネージャ

一般

名前:

要件タイプ: 親要件:

製品: 優先度:

レビュー済み: 作成者:

作成日:

説明:

ビジネス・アナリスト・フォーム

hp ALM | 要件モジュール

プロジェクト: DEFAULT/Mercury_Tours_Application | Mark Delta | 閉じる

タイプ フィールド フォーム ルール

追加 標準設定の修正

システムの標準設定

- 要件クイック追加
- 優先度承認
- ビジネスアナリスト
- プロジェクト管理

一般

要件 ID: 名前:

製品: 要件タイプ:

優先度: 作成者:

作成日: 作成時刻:

説明:

プロジェクト・マネージャ・フォーム

フォームを使用するためのルールの定義

対応するルールを作成します。

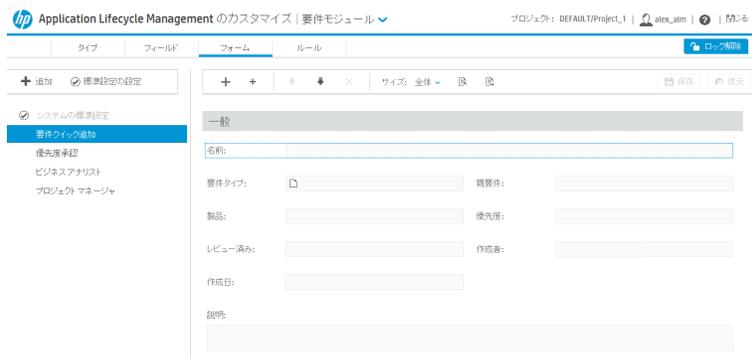
- 要件クイック追加フォームを使用するためのルールの定義
- ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義
- プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義
- ルール・リストの順序付け

新規要件を作成するための標準設定値の計画

新規要件を作成する場合、特定のフィールドに対して標準設定値を設定することをお勧めします。これで、データ入力時のユーザの時間が節約されます。

論理的な開始点は、要件クイック追加フォームのフィールドを調べ、事前設定可能なフィールドを特定することです。

要件クイック追加フォーム



次のように標準設定値を設定します。

優先度	1-低い	優先度は、空白値ではなく、[1-低い]に事前設定されています。
レビュー済み	レビュー未完了	[レビュー済み]フィールドは、空白値ではなく、[レビュー未完了]に事前設定されています。

ヒント: 標準設定値を設定する別の方法としては、プリセット値を定義し読み込むことがあります。

標準設定値を設定するためのルールの定義

対応するルールを作成します。

- 優先度を設定するためのルールの定義
- [レビュー済み]フィールドを設定するためのルールの定義

新規要件の読み取り専用属性と必須属性の計画

新規要件を作成する場合、特定のフィールドを読み取り専用や必須にすることで企業ポリシーを確立できます。

要件クイック追加フォームをベースにして、フィールド属性を次のように設定します。

要件クイック追加フォーム



説明	必須
作成者	読み取り専用

読み取り専用属性と必須属性を設定するためのルールの定義

対応するルールを作成します。

- [\[説明\]を必須にするためのルールの定義](#)
- [\[作成者\]を読み取り専用にするためのルールの定義](#)

ルール・リストのレビュー

ルール・リストを確認します。その順序で望み通りの結果が生成されますか。されない場合、ルールの順序を変更します。

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83 ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90 ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの FAQ」\(115 ページ\)](#)

要件クイック追加フォームを使用するためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フォームを使用"/></p> <p>フォーム: <input type="text" value="要件クイック追加"/></p> </div>								
<p>[条件]タブ</p>	<p>ユーザが既存の要件を編集しているのか、[編集モード]で新しい要件を作成しているのかを特定します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1 ((<input type="text" value="編集モード"/> = <input type="text" value="New"/>))</p> </div>								
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #f2f2f2;"> <th style="text-align: left;">#</th> <th style="text-align: left;">ステータス</th> <th style="text-align: left;">アクション</th> <th style="text-align: left;">条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1</td> <td>On</td> <td>*要件クイック追加*フォームを使用</td> <td>(*編集モード* = "New")</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	<input type="checkbox"/> 1	On	*要件クイック追加*フォームを使用	(*編集モード* = "New")
#	ステータス	アクション	条件						
<input type="checkbox"/> 1	On	*要件クイック追加*フォームを使用	(*編集モード* = "New")						

ビジネス・アナリスト・フォームを使用するためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フォームを使用"/></p> <p>フォーム: <input type="text" value="ビジネス アナリスト"/></p> </div>												
<p>[条件]タブ</p>	<p>ユーザが[ユーザのグループ]を持つビジネス・アナリストであるかどうかを特定します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1 ((<input type="text" value="ユーザのグループ"/> 含む <input type="text" value="ビジネス アナリスト"/>))</p> </div>												
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #f2f2f2;"> <th style="text-align: left;">#</th> <th style="text-align: left;">ステータス</th> <th style="text-align: left;">アクション</th> <th style="text-align: left;">条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1</td> <td>On</td> <td>*要件クイック追加*フォームを使用</td> <td>*編集モード* = "New"</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 2</td> <td>On</td> <td>ビジネスアナリスト*フォームを使用</td> <td>*ユーザのグループ*含む"ビジネスアナリスト"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	<input type="checkbox"/> 1	On	*要件クイック追加*フォームを使用	*編集モード* = "New"	<input type="checkbox"/> 2	On	ビジネスアナリスト*フォームを使用	*ユーザのグループ*含む"ビジネスアナリスト"
#	ステータス	アクション	条件										
<input type="checkbox"/> 1	On	*要件クイック追加*フォームを使用	*編集モード* = "New"										
<input type="checkbox"/> 2	On	ビジネスアナリスト*フォームを使用	*ユーザのグループ*含む"ビジネスアナリスト"										

プロジェクト・マネージャ・フォームを使用するためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フォームを使用"/></p> <p>フォーム: <input type="text" value="プロジェクト マネージャ"/></p> </div>																
<p>[条件]タブ</p>	<p>ユーザが[ユーザのグループ]を持つプロジェクト・マネージャであるかどうかを特定します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1 (<input type="text" value="ユーザのグループ"/> 含む <input type="text" value="プロジェクト マネージャ"/>)</p> </div>																
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #333; color: white;"> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>"要件クイック追加"フォームを使用</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>"ビジネスアナリスト"フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>"プロジェクト マネージャ"フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	"要件クイック追加"フォームを使用	"編集モード" = "New"	2	On	"ビジネスアナリスト"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"	3	On	"プロジェクト マネージャ"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"
#	ステータス	アクション	条件														
1	On	"要件クイック追加"フォームを使用	"編集モード" = "New"														
2	On	"ビジネスアナリスト"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"														
3	On	"プロジェクト マネージャ"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"														

ルール・リストの順序付け

ルールを定義したので、その定義順序を確認します。

#	ステータス	アクション	条件
1	On	"要件クイック追加"フォームを使用	"編集モード" = "New"
2	On	"ビジネスアナリスト"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"
3	On	"プロジェクト マネージャ"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"

後にあるルールは、そのリストの前にあるルールのアクションよりも優先されるため、順序は重要です。次の可能性を考慮してください。

1. ユーザが新規要件を作成しているビジネス・アナリストである場合どうなるか。
2. ユーザが既存の要件を編集しているプロジェクト・マネージャである場合どうなるか。
3. ユーザがビジネス・アナリストであり、かつプロジェクト・マネージャである場合どうなるか。
4. テスト担当者が要件を作成する場合どうなるか。
5. 開発者が既存の要件を編集する場合どうなるか。

回答

ルール・リスト内のルールの順序に基づいて次のようになります。

1. ビジネス・アナリストが要件を作成する場合、ビジネス・アナリスト・フォームが使用されます。
2. プロジェクト・マネージャが既存の要件を編集する場合、プロジェクト・マネージャ・フォームが使用されます。
3. ユーザがビジネス・アナリストであり、プロジェクト・マネージャである場合、プロジェクト・マネージャ・フォームが使用されます。
4. テスト担当者が要件を作成する場合、要件クイック追加フォームが使用されます。
5. 開発者が既存の要件を編集する場合、システムの標準設定フォームが使用されます。

望み通りの結果を得るために、リスト内のルールの順序を変更することもできます。

優先度を設定するためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <div data-bbox="553 1102 1190 1528" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フィールド値の設定"/></p> <p>タイミング: <input checked="" type="radio"/> エンティティの作成時 <input type="radio"/> 値の変更時</p> <p>フィールド: <input type="text" value="優先度"/></p> <p><input checked="" type="radio"/> 値の設定: <input type="text" value="1-低い"/> <input type="radio"/> 値のクリア:</p> <p>注釈: <input type="text" value="このルールを記述する注釈を追加します"/></p> </div>																				
<p>[条件]タブ</p>	<p>このアクションは、新規要件の作成を開始したときに実行されます。条件は不要です。</p>																				
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1" data-bbox="553 1686 1305 1812"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>要件クイック追加フォームを使用</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>ビジネスアナリストフォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>プロジェクト・マネージャフォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"プロジェクト・マネージャ"</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	要件クイック追加フォームを使用	"編集モード" = "New"	2	On	ビジネスアナリストフォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"	3	On	プロジェクト・マネージャフォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト・マネージャ"	4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件
#	ステータス	アクション	条件																		
1	On	要件クイック追加フォームを使用	"編集モード" = "New"																		
2	On	ビジネスアナリストフォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"																		
3	On	プロジェクト・マネージャフォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト・マネージャ"																		
4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件																		

[レビュー済み]フィールドを設定するためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フィールド値の設定"/></p> <p>タイミング: <input checked="" type="radio"/> エンティティの作成時 <input type="radio"/> 値の変更時</p> <p>フィールド: <input type="text" value="レビュー済み"/></p> <p><input checked="" type="radio"/> 値の設定: <input type="text" value="レビュー未完了"/> <input type="radio"/> 値のクリア:</p> <p>注釈: <input type="text" value="このルールを記述する注釈を追加します"/></p> </div>																								
<p>[条件]タブ</p>	<p>このアクションは、新規要件の作成を開始したときに実行されま す。条件は不要です。</p>																								
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>"要件クイック追加"フォームを使用</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>"ビジネスアナリスト"フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>"プロジェクト マネージャ"フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> <tr style="background-color: #e0f0ff;"> <td>5</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	"要件クイック追加"フォームを使用	"編集モード" = "New"	2	On	"ビジネスアナリスト"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"	3	On	"プロジェクト マネージャ"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"	4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件	5	On	New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定	無条件
#	ステータス	アクション	条件																						
1	On	"要件クイック追加"フォームを使用	"編集モード" = "New"																						
2	On	"ビジネスアナリスト"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"																						
3	On	"プロジェクト マネージャ"フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"																						
4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件																						
5	On	New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定	無条件																						

説明を必須にするためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="必須にする"/></p> <p>フィールド: <input type="text" value="説明"/></p> </div>
<p>[条件]タブ</p>	<p>ユーザが要件を編集する代わりに、要件を作成しているか どうかを特定します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1 (<input type="text" value="編集モード"/> = <input type="text" value="New"/>)</p> </div>

[ルール] リスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>要件クイック追加*フォームを使用</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>ビジネスアナリスト*フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>プロジェクト マネージャ*フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> <tr style="background-color: #e0f0ff;"> <td>6</td> <td>On</td> <td>"説明"を必須にする</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	要件クイック追加*フォームを使用	"編集モード" = "New"	2	On	ビジネスアナリスト*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"	3	On	プロジェクト マネージャ*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"	4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件	5	On	New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定	無条件	6	On	"説明"を必須にする	"編集モード" = "New"
#	ステータス	アクション	条件																										
1	On	要件クイック追加*フォームを使用	"編集モード" = "New"																										
2	On	ビジネスアナリスト*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"																										
3	On	プロジェクト マネージャ*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"																										
4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件																										
5	On	New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定	無条件																										
6	On	"説明"を必須にする	"編集モード" = "New"																										

[作成者]を読み取り専用にするためのルールの定義

[アクション] タブ	<p>フォームを使用するためのアクションを選択します。</p> <p>アクション: <input type="text" value="読み取り専用にする"/></p> <p>フィールド: <input type="text" value="作成者"/></p>																																
[条件] タブ	<p>ユーザが要件を編集する代わりに、要件を作成しているかどうかを特定します。</p> <p>1 (<input type="text" value="編集モード"/> = <input type="text" value="New"/>)</p>																																
[ルール] リスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>要件クイック追加*フォームを使用</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>ビジネスアナリスト*フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>プロジェクト マネージャ*フォームを使用</td> <td>"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>On</td> <td>New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定</td> <td>無条件</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>On</td> <td>"説明"を必須にする</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> <tr style="background-color: #e0f0ff;"> <td>7</td> <td>On</td> <td>"作成者"を読み取り専用にする</td> <td>"編集モード" = "New"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	要件クイック追加*フォームを使用	"編集モード" = "New"	2	On	ビジネスアナリスト*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"	3	On	プロジェクト マネージャ*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"	4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件	5	On	New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定	無条件	6	On	"説明"を必須にする	"編集モード" = "New"	7	On	"作成者"を読み取り専用にする	"編集モード" = "New"
#	ステータス	アクション	条件																														
1	On	要件クイック追加*フォームを使用	"編集モード" = "New"																														
2	On	ビジネスアナリスト*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"ビジネスアナリスト"																														
3	On	プロジェクト マネージャ*フォームを使用	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"																														
4	On	New Entity時に"優先度"値を"1-低い"に設定	無条件																														
5	On	New Entity時に"レビュー済み"値を"レビュー未完了"に設定	無条件																														
6	On	"説明"を必須にする	"編集モード" = "New"																														
7	On	"作成者"を読み取り専用にする	"編集モード" = "New"																														

優先度に対する変更の処理

このサンプルでは、不具合の優先度に対する変更を処理する方法を紹介します。

- ・「[不具合の優先度が緊急の場合の追加情報の要求](#)」(129ページ)
- ・「[不具合が緊急優先度になった場合の開発者への警告](#)」(130ページ)

ビジネス・ルールの使用方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

不具合の優先度が緊急の場合の追加情報の要求

不具合を緊急の優先度に設定する前に、慎重な判断が必要になります。ユーザが緊急の優先度を選択する場合、ユーザにその緊急性を説明させるセクションを入力

フォームに追加する必要があります。

この目的のために優先度承認フォームを使用できます。これには、[承認者]と[理由]の2つのユーザ定義フィールドが含まれています。

優先度承認フォーム

- [優先度承認フォームを使用するためのルールの定義](#)
- [承認フィールドを必須にする](#)

不具合が緊急優先度になった場合の開発者への警告

- [不具合が緊急優先度になった場合の開発者への警告](#)

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールのFAQ」\(115ページ\)](#)

【優先度承認】フォームを使用するためのルールの定義

<p>[アクション]タブ</p>	<p>使用するフォームを選択します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フォームを使用"/></p> <p>フォーム: <input type="text" value="優先度承認"/> ▼</p> </div>								
<p>[条件]タブ</p>	<p>現在の優先度は[5-緊急]ですか。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1 <input type="text" value="優先度"/> = <input type="text" value="5-緊急"/></p> </div>								
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 1</td> <td>On</td> <td>"優先度承認"フォームを使用</td> <td>"優先度" = "5-緊急"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	<input checked="" type="checkbox"/> 1	On	"優先度承認"フォームを使用	"優先度" = "5-緊急"
#	ステータス	アクション	条件						
<input checked="" type="checkbox"/> 1	On	"優先度承認"フォームを使用	"優先度" = "5-緊急"						

承認フィールドを必須にする

<p>[アクション]タブ</p>	<p>2つの異なるルールを定義します。1つは[承認者]を必須にし、もう1つは[理由]を必須にするものです。</p> <p>承認者</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="必須にする"/></p> <p>フィールド: <input type="text" value="承認者"/> ▼</p> </div> <p>理由</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="必須にする"/></p> <p>フィールド: <input type="text" value="理由"/> ▼</p> </div>
<p>[条件]タブ</p>	<p>現在の優先度は[5-緊急]ですか。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1 <input type="text" value="優先度"/> = <input type="text" value="5-緊急"/></p> </div>

[ルール]リスト	#	ステータス	アクション	条件
	<input type="checkbox"/>	On	"優先承認"フォームを使用	"優先度" = "5-緊急"
	<input type="checkbox"/>	On	"責任者"を必須にする	"優先度" = "5-緊急"
	<input type="checkbox"/>	On	"理由"を必須にする	"優先度" = "5-緊急"

不具合が緊急優先度になった場合の開発者への警告

[アクション]タブ	<p>「電子メールの送信」アクションを設定します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="電子メールの送信"/></p> <p>タイミング: <input checked="" type="checkbox"/> 作成時 <input checked="" type="checkbox"/> 更新時 <input type="checkbox"/> 削除時 ⓘ</p> <p>送信先: <input type="text" value="プロジェクト ユーザの選択"/> ⓘ</p> <p><input type="text" value="責任者"/> ×</p> <p>電子メール件名: <input type="text" value="優先度が緊急です"/></p> </div>																				
[条件]タブ	<p>優先度が他の何らかの値から[5-緊急]に変更されましたか。</p> <p>優先度が実際に変更された場合にのみ、開発者に通知するため、[優先度]の元の値と現在の値を比較します。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>1</td> <td>優先度</td> <td>元の値 ≠</td> <td>5-緊急</td> <td>AND</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>優先度</td> <td>=</td> <td>5-緊急</td> <td></td> </tr> </table>	1	優先度	元の値 ≠	5-緊急	AND	2	優先度	=	5-緊急											
1	優先度	元の値 ≠	5-緊急	AND																	
2	優先度	=	5-緊急																		
[ルール]リスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>On</td> <td>"優先承認"フォームを使用</td> <td>"優先度" = "5-緊急"</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>On</td> <td>"責任者"を必須にする</td> <td>"優先度" = "5-緊急"</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>On</td> <td>"理由"を必須にする</td> <td>"優先度" = "5-緊急"</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>On</td> <td>エンティティの作成、エンティティの更新時に電子メールを責任者に送信</td> <td>元の値 "優先度" ≠ "5-緊急" AND "優先度" = "5-緊急"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	<input type="checkbox"/>	On	"優先承認"フォームを使用	"優先度" = "5-緊急"	<input type="checkbox"/>	On	"責任者"を必須にする	"優先度" = "5-緊急"	<input type="checkbox"/>	On	"理由"を必須にする	"優先度" = "5-緊急"	<input type="checkbox"/>	On	エンティティの作成、エンティティの更新時に電子メールを責任者に送信	元の値 "優先度" ≠ "5-緊急" AND "優先度" = "5-緊急"
#	ステータス	アクション	条件																		
<input type="checkbox"/>	On	"優先承認"フォームを使用	"優先度" = "5-緊急"																		
<input type="checkbox"/>	On	"責任者"を必須にする	"優先度" = "5-緊急"																		
<input type="checkbox"/>	On	"理由"を必須にする	"優先度" = "5-緊急"																		
<input type="checkbox"/>	On	エンティティの作成、エンティティの更新時に電子メールを責任者に送信	元の値 "優先度" ≠ "5-緊急" AND "優先度" = "5-緊急"																		

不具合のライフサイクルの遷移

このサンプルでは、不具合のステータス間およびユーザ間での移行に応じて、不具合のライフサイクルを管理する方法を紹介します。

- [ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限](#)
- [「ユーザのプロジェクトに基づくステータスの選択肢の制限」\(135ページ\)](#)
- [不具合の修正日の設定](#)

ビジネス・ルールの使用方法に関するムービーを表示するには、ALM Web クライアント・オンライン・ヘルプの本項を参照してください。

参照情報

- [「ビジネス・ルールについて」\(83ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールの定義」\(90ページ\)](#)
- [「ビジネス・ルールのFAQ」\(115ページ\)](#)

ユーザの役割に基づくステータスの選択肢の制限

不具合で作業しているユーザによっては、すべてのステータスを利用できない場合があります。たとえば、テスト担当者が不具合のステータスを[開く]に変更するのは妥当ではありません。テスト担当者がテスト対象アプリケーションに修正を実装しないためです。

[アクション] タブ

すべてのタイプのユーザに「**ルックアップリストの変更**」アクションを設定します。次に、例を示します。

プロジェクト・マネージャ

アクション:	ルックアップリストの変更		
フィールド:	ステータス		
リスト:	不具合のステータス	サブリスト:	却下,開く
注釈:	プロジェクト マネージャは、不具合を開くか却下が行えます。		

開発者

アクション:	ルックアップリストの変更		
フィールド:	ステータス		
リスト:	不具合のステータス	サブリスト:	修正済み,新規,開く
注釈:	開発者は、不具合の新規追加、不具合の修正中または修正済みへの変更が行えます。		

テスト担当者

アクション:	ルックアップリストの変更		
フィールド:	ステータス		
リスト:	不具合のステータス	サブリスト:	却下,新規,終了,要再修正
注釈:	テスト担当者は、不具合の新規追加、却下、再開、終了が行えます。		

<p>[条件]タブ</p>	<p>不具合で作業しているユーザのタイプ</p> <table border="1"> <tr> <td>ユーザのグループ</td> <td>含む</td> <td>プロジェクト マネージャ</td> </tr> <tr> <td>ユーザのグループ</td> <td>含む</td> <td>開発者</td> </tr> <tr> <td>ユーザのグループ</td> <td>含む</td> <td>QA テスト担当者</td> </tr> </table>	ユーザのグループ	含む	プロジェクト マネージャ	ユーザのグループ	含む	開発者	ユーザのグループ	含む	QA テスト担当者							
ユーザのグループ	含む	プロジェクト マネージャ															
ユーザのグループ	含む	開発者															
ユーザのグループ	含む	QA テスト担当者															
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["却下", "開く"]</td> <td>"ユーザのグループ" 含む "プロジェクト マネージャ"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["修正済み", "新規", "開く"]</td> <td>"ユーザのグループ" 含む "開発者"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["却下", "新規", "終了", "要再修正"]</td> <td>"ユーザのグループ" 含む "QA テスト 担当者"</td> </tr> </tbody> </table> <p>ヒント: 元のステータスを考慮に入れるルールを作成すると、利用可能なステータス・オプションをさらに制限できます。たとえば、ステータスにすでに他の何らかのステータスが割り当てられている場合、[新規]に設定するのは妥当ではありません。</p>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["却下", "開く"]	"ユーザのグループ" 含む "プロジェクト マネージャ"	2	On	"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["修正済み", "新規", "開く"]	"ユーザのグループ" 含む "開発者"	3	On	"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["却下", "新規", "終了", "要再修正"]	"ユーザのグループ" 含む "QA テスト 担当者"
#	ステータス	アクション	条件														
1	On	"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["却下", "開く"]	"ユーザのグループ" 含む "プロジェクト マネージャ"														
2	On	"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["修正済み", "新規", "開く"]	"ユーザのグループ" 含む "開発者"														
3	On	"ステータス" でロックアップリストを使用する: 不具合のステータス ["却下", "新規", "終了", "要再修正"]	"ユーザのグループ" 含む "QA テスト 担当者"														

ユーザのプロジェクトに基づくステータスの選択肢の制限

不具合で作業しているユーザに応じて、異なるセットのステータスが利用できる必要があります。たとえば、ある従業員が、当初は他の会社が所有し、現在は現行の会社に組み込まれた製品に取り組んでいる場合、そのプロジェクトのワークフローのステータスが合併時に異なる可能性があります。

例

現在の会社の不具合ステータス	新しい会社の不具合ステータス
新規	1 - 新規
開く	2 - 進行中
修正済み	3 - テストの準備完了
開く	4 - テスト中
要再修正	5 - 完了
却下	6 - 取り消し

<p>[アクション] タブ</p>	<p>すべてのタイプのユーザに「ルックアップリストの変更」アクションを設定します。この例では、標準設定の[不具合のステータス]のルックアップ・リストを使用する代わりに、リスト・フィールドに[新しい会社の不具合ステータス]を入力します。</p> <p>ヒント: さらに、[サブリスト]フィールドを使用して、リストから一定のステータスのみを選択することで、利用可能なステータスのオプションを制限することができます。</p> <p>注: [新しい会社の不具合ステータス]リストは、ルールを定義する前にALM デスクトップ・クライアントカスタマイズを使用して定義する必要があります。</p> <div data-bbox="472 793 1222 1087" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="ルックアップリストの変更"/></p> <p>フィールド: <input type="text" value="ステータス"/></p> <p>リスト: <input type="text" value="不具合ステータス 新会社"/> ▼ サブリスト: <input type="text" value="すべてのリスト項目を使用"/></p> <p>注釈: <input type="text" value="このルールを記述する注釈を追加します"/></p> </div>								
<p>[条件] タブ</p>	<p>それは元の会社のプロジェクトまたは新たに取得した会社のプロジェクト (TheNewProject) ですか。</p> <div data-bbox="472 1236 1222 1281" style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>プロジェクト = TheNewProject</p> </div>								
<p>[ルール] リスト</p>	<table border="1" data-bbox="472 1325 1222 1375"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合ステータス 新会社</td> <td>"プロジェクト" = "TheNewProject"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合ステータス 新会社	"プロジェクト" = "TheNewProject"
#	ステータス	アクション	条件						
1	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合ステータス 新会社	"プロジェクト" = "TheNewProject"						

不具合の修正日の設定

不具合の元のステータスが**[開く]**である場合、この不具合が修正されると、**[修正日]**が設定されます。

<p>[アクション]タブ</p>	<p>[修正日]を変更の実際の日付に設定します。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>アクション: <input type="text" value="フィールド値の設定"/></p> <p>タイミング: <input type="radio"/> エンティティの作成時 <input checked="" type="radio"/> 値の変更時 <input type="text" value="ステータス x"/></p> <p>フィールド: <input type="text" value="終了日"/></p> <p><input checked="" type="radio"/> 値の設定: <input type="text" value="[変更日]"/> <input type="radio"/> 値のクリア:</p> </div>																				
<p>[条件]タブ</p>	<p>テスト担当者が修正済みの不具合をクローズしましたか。クローズした場合、元の値は[修正済み]で、現在の値は[終了]になります。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <table border="1"> <tr> <td>ステータス</td> <td>元の値 =</td> <td>修正済み</td> <td>AND</td> </tr> <tr> <td>ステータス</td> <td>=</td> <td>終了</td> <td></td> </tr> </table> </div>	ステータス	元の値 =	修正済み	AND	ステータス	=	終了													
ステータス	元の値 =	修正済み	AND																		
ステータス	=	終了																			
<p>[ルール]リスト</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>ステータス</th> <th>アクション</th> <th>条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On</td> <td>"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [如下;閉<]</td> <td>"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>On</td> <td>"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [修正済み;新規;閉<]</td> <td>"ユーザのグループ"含む"開発者"</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>On</td> <td>"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [如下;新規;終了;要再修正]</td> <td>"ユーザのグループ"含む"QAテスト担当者"</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>On</td> <td>"ステータス" Change時に"終了日"値を"変更日"に設定</td> <td>元の値"ステータス" = "修正済み" AND "ステータス" = "終了"</td> </tr> </tbody> </table>	#	ステータス	アクション	条件	1	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [如下;閉<]	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"	2	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [修正済み;新規;閉<]	"ユーザのグループ"含む"開発者"	3	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [如下;新規;終了;要再修正]	"ユーザのグループ"含む"QAテスト担当者"	4	On	"ステータス" Change時に"終了日"値を"変更日"に設定	元の値"ステータス" = "修正済み" AND "ステータス" = "終了"
#	ステータス	アクション	条件																		
1	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [如下;閉<]	"ユーザのグループ"含む"プロジェクト マネージャ"																		
2	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [修正済み;新規;閉<]	"ユーザのグループ"含む"開発者"																		
3	On	"ステータス"でルックアップリストを使用する:不具合のステータス [如下;新規;終了;要再修正]	"ユーザのグループ"含む"QAテスト担当者"																		
4	On	"ステータス" Change時に"終了日"値を"変更日"に設定	元の値"ステータス" = "修正済み" AND "ステータス" = "終了"																		

第6章: プロジェクトの管理



管理者は、ALM Web クライアントにアクセスするエンド・ユーザをセットアップします。

ALM Web クライアント へのアクセスの有効化

エンド・ユーザが ALM Web クライアントにアクセスするには、ALM 管理者が ALM デスクトップ・クライアントでアクセス権限をセットアップする必要があります。

- サイト管理で **ALLOW_WEBUI_ACCESS** サイト・パラメータを追加し、値を **Y** に設定します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』のサイト管理の部にある「ALM 設定パラメータの指定」でオプションの ALM パラメータの一覧を参照してください。
- プロジェクトのカスタマイズで、グループに[プロジェクトへの完全なアクセスを Web UI に許可]または[プロジェクトへの表示アクセスを Web UI に許可]のアクセス許可が割り当てられていることを確認します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』のプロジェクトのカスタマイズの部にある「ユーザ・グループとアクセス許可の管理」を参照してください。

ALM Web クライアント・ユーザのアクセス許可の設定

ALM Web クライアント・ユーザのアクセス許可は、ALM デスクトップ・クライアントで定義したユーザ・グループに基づいて割り当てられます。ALM Web クライアント・ユーザを、ALM デスクトップ・クライアント・カスタマイズ内で適切なユーザ・グループに割り当てるようにしてください。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

既存のプロジェクトを ALM Web クライアントで使用するための設定

ほとんどの ALM Web クライアント・ユーザは、ALM デスクトップ・クライアントですでにプロジェクトを使用しています。ベスト・プラクティスについては、「[既存の ALM デスクトップ・クライアント・プロジェクトを ALM Web クライアントで使用するための設定](#)」(140ページ)を参照してください。

参照情報

- [「プロジェクト管理のFAQ」\(141ページ\)](#)
- [「ALM Web クライアントのカスタマイズ」\(73ページ\)](#)

既存の ALM デスクトップ・クライアント・プロジェクトを ALM Web クライアントで使用するための設定

ALM Web クライアントの柔軟なビューとフィルタ機能では、要件の物理的な階層構造に縛られることなく、さまざまな方法で要件を表示できます。ALM Web クライアントで階層ツリーを作成する必要はなく、わかりやすい表示が可能です。

プロジェクトの要件ツリーが ALM デスクトップ・クライアントにすでに存在している場合、物理的な要件ツリー構造がすでに定義されている可能性があります。

ALM Web クライアントで使用できるように ALM デスクトップ・クライアントのツリーで要件を編成しなおす方法

1. サイト管理でプロジェクトをバックアップします。詳細については、『[HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド](#)』を参照してください。
2. ALM デスクトップ・クライアントでプロジェクトを開きます。
3. 要件ツリーと、子の要件をすべて確認します。誤りがないことを確認します。たとえば、ツリー内にリリースとサイクル用のフォルダがある場合には、ツリー内にある親の要件の場所に基づいて、リリース・フィールドとサイクル・フィールドが正しいことを確認します。誤りがある場合は、必要に応じて訂正してください。
4. すべてのサブ・ツリーと要件を、要件ツリーのメインのルート・フォルダにコピーします。
別のサブ・ツリーに同じ名前の要件がある場合には、名前を変更します。

5. メインのルート・フォルダにあるフォルダをすべて削除します。これで、要件 ツリーが 1 階層になります。

ALM デスクトップ・クライアントと ALM Web クライアントでの要件の操作

- 要件の編成が完了したら、ALM デスクトップ・クライアントでのフォルダとサブ・ツリーをシミュレートするために、ALM のソート機能とグループ分け機能を使用します。これは、ALM Web クライアントの表示とフィルタに類似した機能です。

編集モードで要件に関して表示される内容を設定する方法

- 編集モードでは、要件名の下領域にある要件の[説明]フィールドまたは[リッチテキスト]タブの内容を表示できます。これは、ALM デスクトップ・クライアント サイト管理で、REQUIREMENT_AUTHOR_USE_RICHTEXT パラメータを使用して行うことができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

参照情報

- [「プロジェクトの管理」\(139ページ\)](#)
- [「プロジェクト管理のFAQ」\(141ページ\)](#)
- [「必要な情報の表示」\(19ページ\)](#)

プロジェクト管理のFAQ

 **管理者:** プロジェクト管理についてよくある質問を紹介します。

ヒント: 他にヒントがある場合は、sw-doc@hp.com までお寄せください。

ALM Web クライアント へのログインとアクセス

ALM Web クライアントとそのモジュールへのアクセス許可はどのように割り当てればよいでしょうか。

「ALM Web クライアントの概要」(7ページ)の手順に沿って、ユーザに適切なアクセス許可を割り当てます。

各モジュールへのアクセスは、各ユーザが所属するグループのアクセス許可に基づいて決まります。アクセス許可の設定については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトのユーザにALM Web クライアントの操作方法を学習してもらいたいのですが、ワークフロー・ルールを実装できるようになるまでは、ALM デスクトップ・クライアントでデータ入力を行いたいと考えています。方法をおしえてください。

ALM Web クライアントを読み取り専用で使用してください。実際のデータを変更せずに、ALM Web クライアントを操作できます。『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』の「カスタマイズ」にある[Web クライアントのフルプロジェクト アクセスを許可する]と[Web クライアントのビュープロジェクト アクセスを許可する]のグループ権限を参照してください。

コンピュータがクラッシュした後、ALM Web クライアント・カスタマイズがすでにログインしていると認識してしまい、ログインできません。カスタマイズに再度ログインする方法をおしえてください。

ALM Web クライアント・カスタマイズに同時にログインできる管理者は1人のみです。

コンピュータがクラッシュしてALM Web クライアントでログイン済みと認識されてしまう場合には、別のブラウザでカスタマイズを開いてください。プロンプトが開いたら、ロックを上書きします。

ALM Web クライアントの複数のセッションを開いてそれぞれ別のユーザとしてログインすることはできますか。

ブラウザの別ウィンドウでALM Web クライアントを開けば、セッションを複数開くことができます(1つのブラウザ・ウィンドウで、タブを複数使用して複数のセッションを開くことはできません)。ブラウザ・ウィンドウのセッションごとにライセンスが必要になります。

ALM Web クライアントの複数のセッションを開いてそれぞれ同じユーザとしてログインすることはできますか。

ALM のセッションは、同時に複数開くことができます。この場合、使用するライセンスは 1 つです。

- ブラウザ・ウィンドウで ALM Web クライアントを開く
- 別のブラウザ・ウィンドウで ALM デスクトップ・クライアントを開く
- モバイル・デバイスで ALM を開く

この場合、使用ライセンスは 3 つではなく 1 つになります。

他のユーザと同じブラウザ・ウィンドウで別のユーザとして ALM Web クライアント・カスタマイズにログインできないのはなぜですか。いつも ALM Web クライアント・カスタマイズにログインしていますが、別のユーザとしてログインすることができません。

別のユーザとしてログインすることはできます。ブラウザによっては、別のブラウザ・セッション(同じブラウザ内のタブではなく)を開く方法があります。この方法で、同じ ALM に接続している別のユーザとして、ALM Web クライアント・カスタマイズにログインすることができます。

- **Internet Explorer:** InPrivate ブラウジングを使用します。
- **Chrome:** Incognito モードを使用します。
- **Firefox:** Private ブラウジングを使用します。

同じ問題とソリューションが ALM Web クライアント へのアクセスにも適用されます。

ALM Web クライアントの設定

ALM デスクトップ・クライアントで、要件ツリーがフォルダ構造になっています。ただし ALM Web クライアントの柔軟なビューとフィルタ機能を使用すれば、要件の物理的な階層構造に縛られることなく要件を表示できます。要件を表示する際の最適な方法を教えてください。

ALM Web クライアントを使用する場合、ビューとフィルタを使用して要件を表示する方法をお勧めします。この表示方法では、柔軟でわかりやすく表示できます。ALM Web クライアントで使用する要件を設定する方法の詳細については、「既存の ALM デスクトップ・クライアント・プロジェクトを ALM Web クライアントで使用するための設定」(140 ページ)を参照してください。

カスタマ・サポートの依頼

サポートのためのログ・ファイルの準備

ALM Web クライアントの操作で問題が発生した場合、ブラウザのツール・コンソールを使用して警告、エラー、メッセージをカスタマ・サポートに送信できます。たとえば Internet Explorer の場合、[F12] キーを押して[コンソール]タブを選択するとログ・メッセージが表示されます。

参照情報

- [「プロジェクトの管理」\(139ページ\)](#)

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チームまでご連絡](#)ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on ユーザーズ・ガイド (ALM Web クライアント 12.01)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、SW-Doc@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

